

寺院と學校と隣接して居る。住職ゾスレヒは此境内に住する外に副僧コオスワトオル一人あり、住職も副僧も共に大學教育ある者である。副僧の手當は一ヶ年千黒、住職は甚だ少い、但し寺院に若干の土地あり、然も其收入は多からず、皇帝ヨゼフの時までは、全國の寺院皆大なる土地を所有して居つたが、皇帝の英斷で悉く之を沒收し、而して之を處分して、寺院資金と稱する特別資金を中央に儲へ、寺院の費用は主として此資金から支拂ひ、國家は幾分を之に補足して居る。其他僧侶の收入は、冠婚葬等の收入であるが、婚禮でも一組十黒以上の志納金あるものは甚だ罕である、是は勿論僧侶の職務ではあるけれども、大抵個人から幾何かの禮を出すのである。寺院住職の上には僧正あり、僧正の上には大僧正あり、大僧正は皇族の直に下、公爵以上の待遇を受ける。僧侶は勿論妻帯せぬ、妻帯は寺院法の禁ずる所である、然も所謂キョッヒン、水仕女なるものがあつて、それには七八人も子供のあつる者も珍しくない。さて、埃國で宗教上の不平はと云はゞ、羅馬法皇の專權を夢想する連中が、寺の權限の今日甚だ削弱せられたるを憤慨する者があるくらゐのもので、現今の状態に満足せざる者としては先づ表面は之無しと云つて宜い。小學生徒は、一週一回づゝ義務的に

寺院に遣さるゝ。

労働者驛傳舍と云ふのがあつて、是は千八百八十七年の此國此州の創設に係り、労働を求めて得ざる者が、労働を求むる旅行をする場合の爲に、宿泊所及び晝飯宿となり、勿論労働者は此國では皆な確かなる身分手帳を持つて居るから、恰も我軍隊手帳の如く之に照して素性の正しさを認め、さて此所て寢泊りし若くは晝飯を食ふことを許す、但し晝飯ならば一食、寢泊りならば一泊だけ、滞在は許さぬ、全く無代である。さて此土地に労働を得ざる者は更に次の驛傳舍に辿り著く、之には地圖があつて、其距離は四里以上六里以下、此町からは東北及び西、五方に道がある、労働者は其孰れかを辿つて行かねばならぬことゝなつて居る。此驛傳舍には寢床の數二十三、是は全く州が之を經營し、監督は町がする、番人及び其妻に對し、客の爲に町が之を支拂ふ、其金額は晝飯は汁と野菜とて四十平、朝飯と晩飯とは五十平である。大體裁判所の在る所には、必ず労働者驛傳舍がある、是は漂泊者、乞食を喰留むるに屈竟なる社會機關であるのみならず、又保安警察上、便利なる設備となつて居る。

度量衡検査所

舊城

信用組合

世界列國の大勢

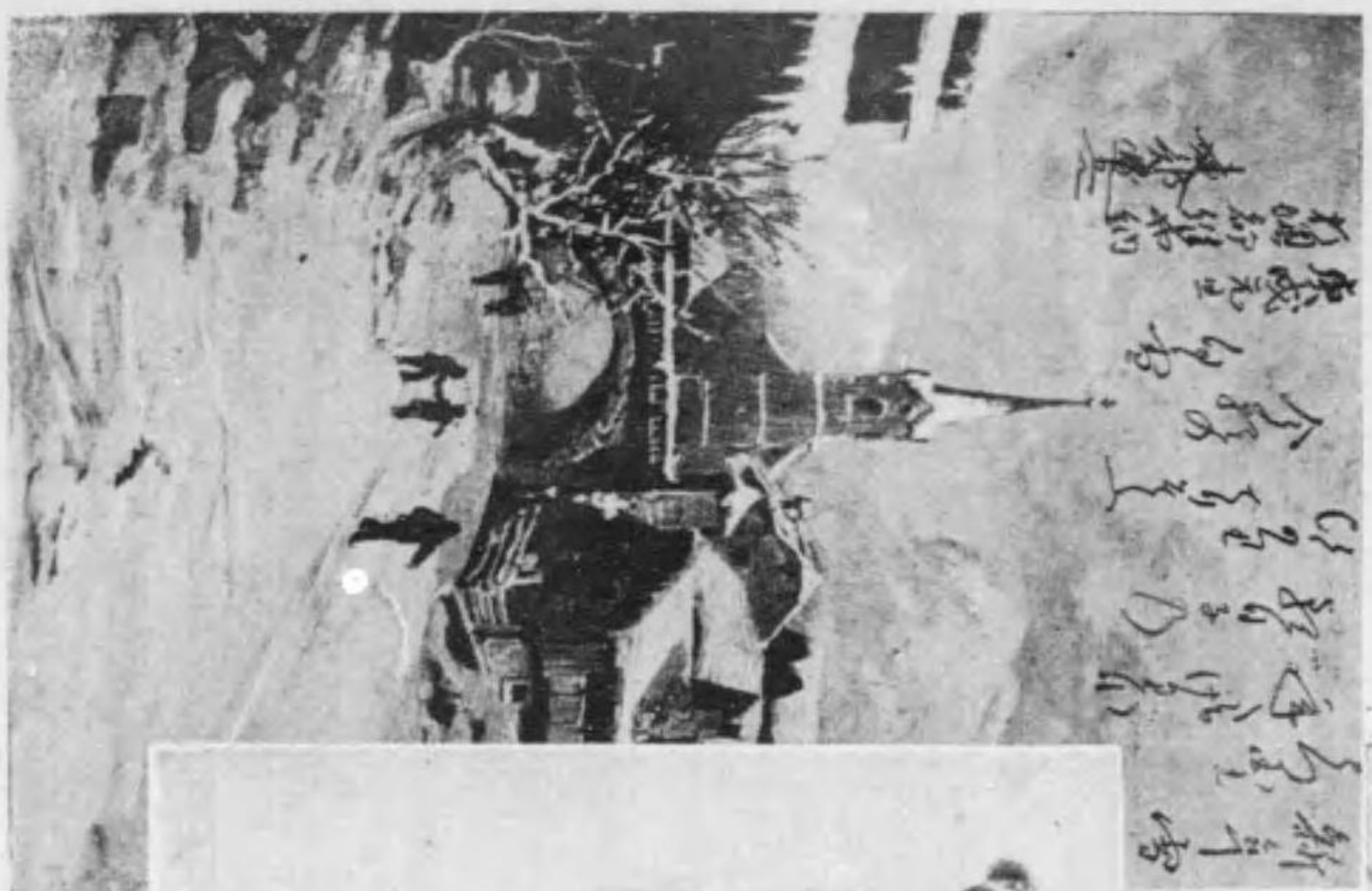
三六

度量衡検査所は全く國立である、一人の技手あり、度量衡製作人は此所にて検査を受け、然る後其檢印付の物ならては賣出すことが出來ぬとなつて居る、酒樽の容積の検査も此所とする。

舊城は町の中央の稍、高き丘の上に在る、何所からも瞻望すべく、隨つて眺望が甚だ佳い、もとリヒテンスタイン公爵の所有であつたのを、今は料理屋兼旅館で、夏は避暑客が多く來る。丁度今、晝飯時になつたので、郡長町長は我輩を案内して、此城の幽暗なる而も莊嚴なる一室に中食を饗すべく對坐しつゝあるのである、固より舊城のことであるから、中々立派なる室が尠くない、外觀は極めて古雅且つ多少陰鬱である。

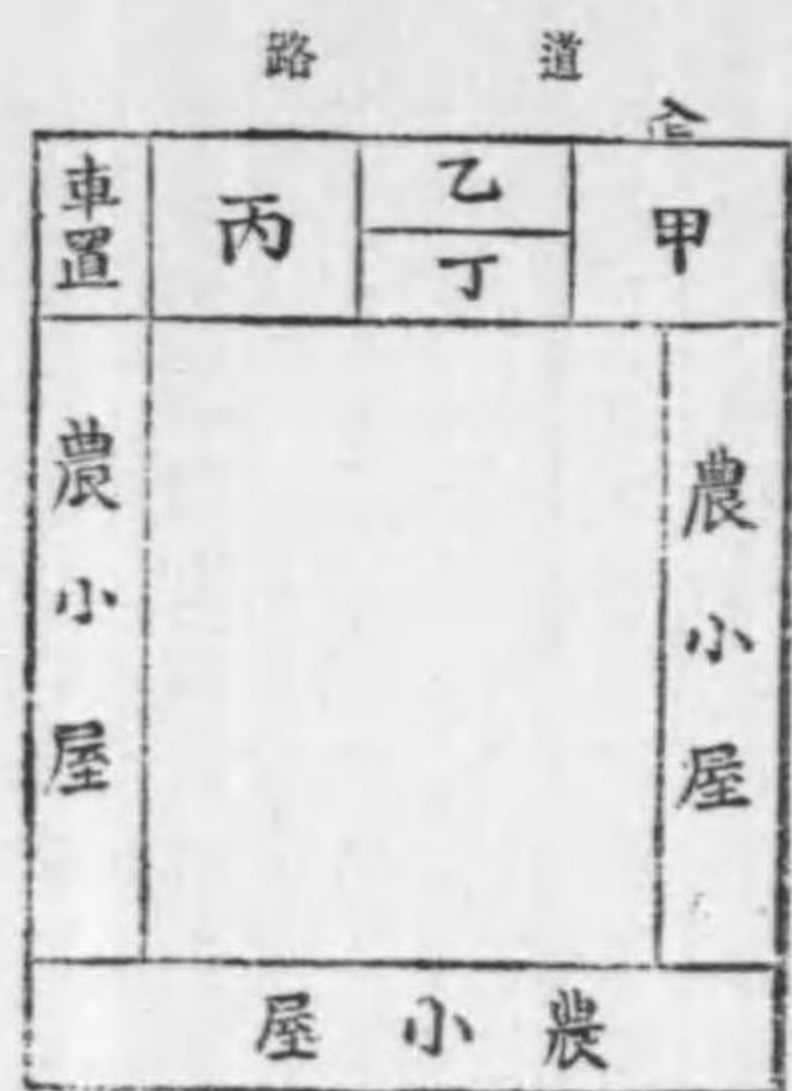
信用組合は此町にもあるが、併し尙純然たる農村をも見たいといふので、更に三十分餘り西に歩いてインブルック村に出向いた。信用組合は此村外二ヶ村の組合立である。此村の人口五百、外は二百五十に五百である。さて此組合は一人十黒を以て加入金とし、是には利子も配當も附せず、現今七十二人の加入者あり、加入者は預金及び借金を爲し得る、預金には百分の四、借金には百分の四半の利率を以て

三の信郷りよ國境



村長

する、加入者以外は預金のみを爲し得る、借金には抵當は必要で無いが、加入者は多少の土地家屋を有する者に限る、(ア)イレングバハては職人、小商人も亦加入し得るの違ひあり、但し右の三ヶ村の住民以外の者は加入することが出来ぬ。借金の目的は、多く土地購入、家畜買入、農具修繕等である。組合には六人の理事があり、理事



甲 居酒屋兼入口
乙 信用組合事務室
兼村役場
丙 寢室兼客間
丁 臺所



開キ戸 開キ戸
寢室兼客間ノ構造
及内部
右室内ノ卓ナ間
ミテ我輩ト郡長
ト主人村長ト對
坐ス

長は村長自身である。毎週一時間、一定の日に執務する。残金は州會の中央金庫に預ける。

インブルクの村長はヨゼフ、ブルネルと云ふ人で、後ろに百姓小屋の長さ幾棟を有し、表は居酒屋を営んで居る、此居酒屋は此村で一つきりのもので、さて居酒屋

農家

御堂

消防用品
置場

衛生救療

の店の隣に信用組合及び村長の事務を執る室、即ち役場があり、其上の手に寢室及び客間兼用の室あり、此所には夫婦及び子供の寢床が置いてある、此室で我輩と郡長とに、主人村長は店から白葡萄酒と鹽豚附麵包とを取り來りて細君と共に侷めた。事務室の奥が勝手であるらしい、細君も極めて質樸なる山妻らしく見えた。

村長の家の向ひの農家にも立寄りて見た、極めて天井の低いのは、天井の上に尙三角天井の二階を設けてあるが爲である。村長のよりも稍、小規模に百姓小屋あり、鶏などが遊んで居つた。此村の入口に御堂がある、二間に三間ぐらゐて、矢張例の寺院資金から出來たと云ふが、此堂には別に住職は居ない。

さてノイレングバハ町に歸る、消防用品置場には六臺の車があり、内二臺は蒸汽唧筒、一臺は救護車、他は普通唧筒及び立退車である。火防夫は四十人、皆名譽職として志望者より選抜する。なほ外に衛生車が一臺ある、是は傳染病者を避病院へ送るに用ゐる、内部を消毒し得るやうに出來て居る。

衛生救療の事は、總べて病人は、町村に町村醫があつて、公衆衛生と無料診療とに従事せねばならぬこととなつて居る、さて入院の必要あるときは、之を維也納又は

公衆醫療
の問題

救貧

西の方十里餘なるサンピルテンに送る、但し病院は此町に在る、之に入る者は傳染病者で快癒するか、若くは醫師が維也納等に送りて宜いと診斷するまで在院する、但し此所で亡くなるのもある。

全體公衆醫療の問題は、矢張皇帝ヨゼフまで遡つて考へねばならぬ、帝は維也納に廣大なる模範病院を起した、其財源は、遺産相續に一定の課稅的寄附金を強ひて建てた。爾來醫學が大に進み、今日診療の代價が高くなり、未だ各州にて大病院を立つるの運びに至らず、州立郡立は殆ど無く、郡町村立に二三十の床を有するに過ぎぬ、重なるものは矢張國立を推さなければならぬといふ現状である。理想を云へば國と州との共同醫學會にて州内の病人に治療を與ふるやうにありたいのであるが、まだそこまでは行かぬ。精神病院だけは州立にて數個を有するに至つた、其經營は全く州會に存する。

殊に此國にて、救貧は各町村の負擔であつたが、斯くては貧村は貧なるが上に、救貧の負擔甚だ大となり、富める村は富めるが上に、負擔小なるの不公平を免れ難いから、二十五年前に制度を改めて、全く自治州の經營とした。州の救貧機關は、州救

貧院て之が總體を管轄し其下に郡救貧參事會と云ふ合議體があり其下に在町村郡救貧委員あり町村に貧民あるときは此在町村郡救貧委員が先づ之を調査し手當給與法か又は救貧院是には開放法及び閉鎖法ありかを案定し狀を具して郡救貧參事會に上申する郡救貧參事會は之を審査して決定する。初め制度を改めたる際町村の有せし救貧院の中其儘廢止となつたものがあり又州が町村から買上げたるもあつた今や是等の買上げたるもの又は新たに立てるものは皆郡救貧參事會の管内に在る。

道路

道路には國道郡道及び村道の三類あり國道は其町村に係る限り點燈する。

水道

水源から水を引來り之を電力にて舊城の丘の上の水塔に引上げさて之を町全體に供給して居る。

社交

社交は宗教上の祭日はあるが併し鎮守祭盆踊のやうなものはない。但し社會會が二十以上もあり其慰み會は毎週一會合を催すのが多い例へば體操會音樂會唱歌會氷江り會讀書會建築會農區會消防會赤十字會獨逸教育會加特力會等である。

居酒屋等

通俗講談會は屢催される但し大學教授などを聘することは殆ど無い。居酒屋珈琲店の類は此町で十五軒ある。酒屋は午前一時珈琲店は午前三時を限り閉店する。酒類小賣業も日曜の正午まで營業すること外の店と違ひはない。

産物及職業

此町には特産と云ふ物が無い農民は殆ど居らぬ但し此町の周圍は皆農村である此町には小さな商人及び職人が聊か居る。インブルックは純然たる農村である。毎週水曜には郡内の豚が此町に集り豚市が立つ。

此日

此町の附近は丘陵起伏して風光甚だ佳い此日は稍曇つたが丁度徴兵検査の日とて合格者は羽毛を粧へる帽を戴き若連中が手風琴にて之を押立て常になき賑ひであつた。

六 匈牙利の自治村

匈牙利の自治村は亦頗る奧太利の自治村とは趣を異にする。

我名譽領事ポライ氏の斡旋で匈國內務省の紹介に依り先づ縣役所を訪ふ之

奥匈國の地位

縣長及縣知事

をコミタス(縣)と云ふも、實は最上の自治體である。其下に自治體としての町村あり、ブダペストは別に自ら一つの自治體を成して居る。縣と町村との間に區と云ふがあるが、是は行政區劃にして自治體ではない、多く裁判區と一致する。

縣の役所の長は縣長(長六等官)と云ひ、人民の公選である、外に官命即ち王命の縣知事(六等官)がある。縣知事を除くの外、行政員は皆民選にして、縣書記長(七等)縣書記が八等乃至十等、行政見習が十一等である、是等は皆選舉せらるゝが、一たび選ばれるれば上述の如き官等となるのである。選ばれる期間は六ヶ年である。其外縣知事の任命する官吏には縣、縣、縣、縣、縣あり、又知事の下に就く區又は郡の官は郡長(八等又は七等)一人と、一人又は二人の郡官とが各郡にある、是等は總べて法學士又は法學試驗及第者である。

匈牙利全國は六十三縣に分る、其一つがベスト縣、此縣は十四郡二百四十三ヶ町村に分れて居る、我輩が視察したクンセントミクロン村はその一つで、且郡役所の所在地である、人口は八千。

著

クンセン
トミクロン
シ村

三月十一日午後二時、首府ブダペストの南約二十里なるクンセントミクロン

村役場

に汽車は着した。縣書記、法學士、文學士、ドクトル、モルリン氏の案内にて、村長、郡長、重立、代議士等、馬車、五臺、騎馬、二騎にて出迎へ、停車場より村に至る十餘町、村の入口にては老若男女、路傍に整列して敬禮し、小學生徒は、エリエン又は萬歳を唱へ、役所は國旗を掲げて、歡迎の意を表して居る。

先づ村役場に至る、素朴なる稍大なる建物である、村の中央市場の一面を領して居る。村長はベルナアトサルと云ふ人である。職員は、村長、手當年六百黒、書記長千六百黒に四百黒の住宅料、書記千六百黒に三百黒、書記長と書記との中一人が收入役である、下書記二人、一人千二百黒、一人千黒、巡查長千黒、巡查七人各四百二十黒乃至四百黒、小使三人各三百黒及び被服、金庫係八百黒、是だけの職員が居る。

納税する住民にして、二十四歳以上の男子及び寡婦は、村會議員の選舉權を有する、有識者は納税の如何に拘らず選舉權を有する、總べて直接選舉である。被選權は二十四歳以上の居住公民なることを要する、議員は四十人、別に手當を給せぬ。衆議院議員の選舉は直接國稅十黒以上、二十四歳以上が選舉權を有する、有識階級は又稅額の如何に拘らず選舉權を有する。

村會及選舉權

判長の裁

村長は、四十黒以下の民事の裁判をする、収入役は二百黒以下の直接國税をも取扱ふ、それ以上は稅務署へ納むる規定になつて居る。巡查の外に憲兵がある、其數此村には四人。

豫算

此村の豫算は、年額十一萬八千七百七十四黒八十二平、内村有財産の収入が六萬九千三百六十六黒六十五平、其餘四萬五千五百七十三黒三十七平は、國稅の附加稅として徵收して之を補ふ。村有財産は畑地、貸家屋、村内の役所類は多くは村有建物である、及び有價證券である。支出の重なるものは學校費で、小學校は國營であるが、此村は其總支出の二割を之に出して居る。

消防庫

馬廠

村役場の裏庭には消防庫がある、唧筒車三臺、水溜車五臺、是は櫓の形をして居る。國有の馬廠がある、陸軍省の騎兵の馬四頭を預り、兵士三人が之を支配する、教育期終りて後斯かる田舎に來り朝夕馬の手入をする。

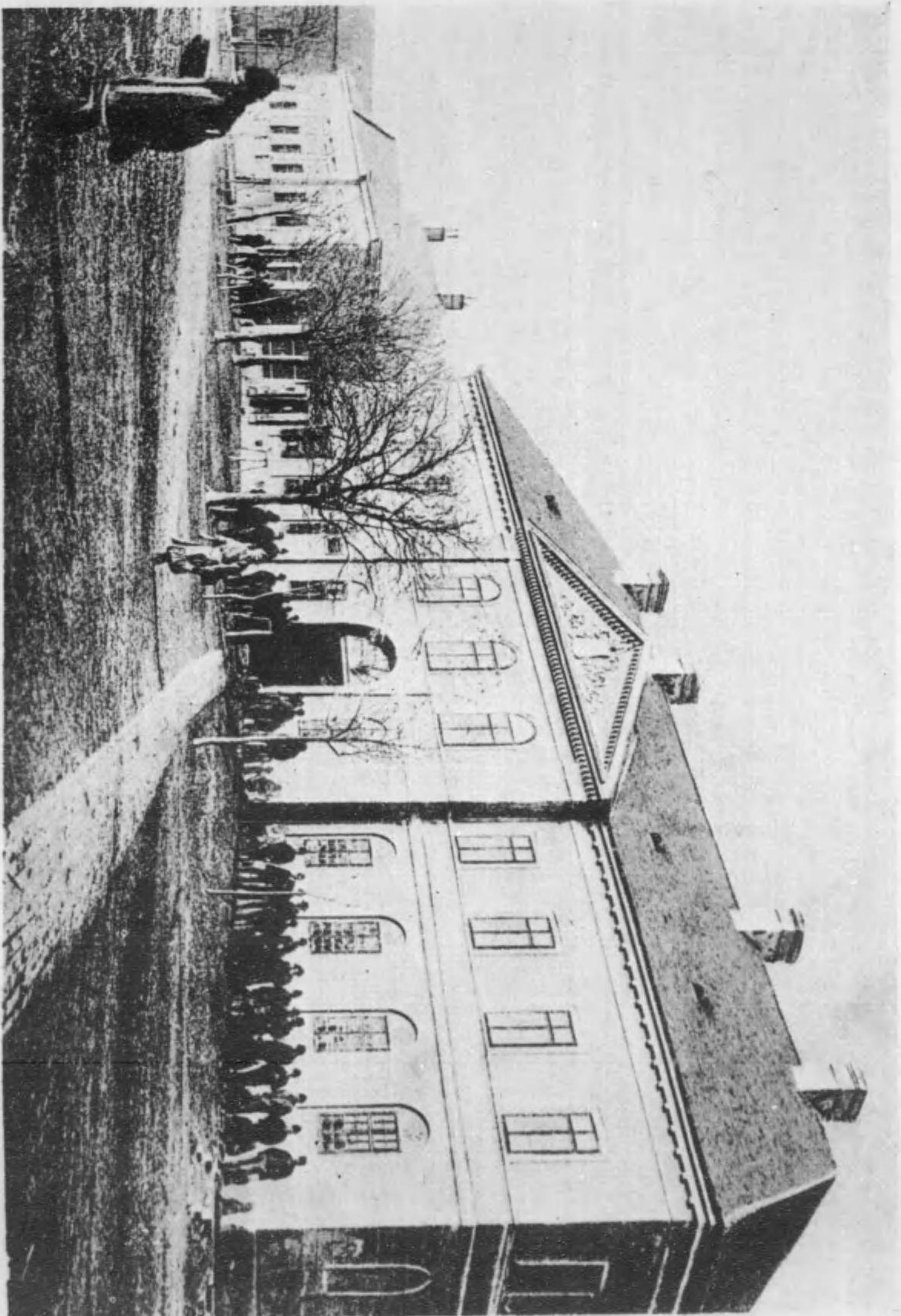
貯蓄銀行

私立會社ながら、貯蓄銀行が二ヶ所ある、是は此邊で大きなもので、預金額六百萬黒に達して居る。其外郵便貯金の制も備はつて、盛に貯蓄獎勵をやつて居る。

小學

國立小學校は國の徽章を掲げ、我輩の參觀に對して國歌を唱ひ、折柄兵式體操を

クニハクニシテシロクニ



女學校

新教寺院

附屬中學

舊教寺院

參觀した。是は三年級以上に課するもので、大鼓もあれば木銃もある、全體歐洲の學校で兵式體操を學校で課することは全く見ざる所であるが、匈牙利に於いて恰も我國の如き感じがした。小學校は六ヶ年制度、其外夜學あり、教師は小學教師兼任で特に手當を給する、村には外に幼稚園が二ヶ所ある。

私立女學校があり、是は稍、上流の數家が寄つて、共同で師を聘するといふに止まる、生徒は十人乃至十二人に過ぎぬ。

寺には新教寺院がある、此寺に僧正が住して居る、庫裏ともいふべき住宅があり、此人は學士院會員たる有數の人物である。此寺院に四級の中學が附屬し、中學に又圖書館が附屬して居る、但し公開はせぬ。僧正の外、三人の僧があり、是等は同時に中學の教師である、中學は勿論宗立で、現在百乃至百二十の生徒を有する。蓋し此村は多數且上流が新教徒であるのである。

舊教寺院には僧侶二人附屬、小學があり、是は六學級、生徒二百四十人、舊教の管區が之を維持して居る。其位置は、草屋多き、貧しき舊教人民の家の多くある所に在る。寺の裏に大なる瀦水池があるが、冬、氷、之の、外、何の役にも立、て、居、ら、ぬ、案、外

役所

悠長なる所がある。
役所には專賣支所、郡役所、稅務署、區裁判所がある。專賣支所は勿論國立で、酒及び煙草の專賣收入の監督局である。郡役所と云ひ、稅務署と云ひ、役人は何れも四人に止まる。區裁判所には判事が二人、八等及び九等、書記が二人、之に登記部があり、部長は九等若くは十等、土地臺帳等が皆備つて居る。村役場にも其寫しがある。裁判の法廷は二室ある。

村民俱樂部

村民の俱樂部は、ブダベストに俱樂部生活の發達して居るのに準じて、此村にも總べて三つある、即ち有識者俱樂部、實業俱樂部及び公民俱樂部である。公民俱樂部は今會員百十二人、會費は年六黒、小使一人が之に従事して居る。小使には年手當百黒及び住宅を給する。夜八時まで開いてある。會員以外は客として來り、酒類は特に外より取寄せて飲むことが出来る。粗末ながら舞踏室があり、五月十五日の國祭日(千八百四十八年の自由記念)には最も盛である。有識者俱樂部の方は總べて稍美麗である。書籍又は外字雜誌等を備付け、會費は年額二十黒、會員より會員に對する講話會あり、球突室あり、目下會員八十四人、小使は公民俱樂部に準じ、圖書室は會

庶民圖書館

員だけが使用する。
村役場に庶民圖書館があつて、無料で貸出す。巡回講話と云ふが如きは、此村には何も無し。

救貧

救貧設備としては、村立病院及び養老院がある。雙方にて寢床の數二十八、孤兒は皆里子にやる。國家から里子を當村に預けられたるあり、一ヶ月十八黒を手當の率とする。

市場

市場は露店の市場で、毎週二回市が立つ、是は村の中央に在る。

信用組合

信用組合はライフアイゼン式で、會員約九百、一口の出金五十黒、貸出しの目的は家畜土地の購入等で、肥料の購入は殆ど無い。此邊の土地は三千二百方を一ヨホと云ひ、其價格は最上が八百乃至千黒である。我國に換算すれば一反歩百圓乃至百三十圓に付く。而して國稅は十二黒、一反歩に付一圓七拾錢の割合である。

印象

此村には記念碑といふものが無い。總べて何等歴史的印象を與ふるものないのは、精神的には甚だ寂しい。馬は實に遅ましく、古の匈奴が馬に騎るに巧であつたことを想ひ出さる。景色は頗る平板で、何も目に遮る物の無い所は稍、西比

村落視察
に日を費す

利亞に似通うて居る。郡長の住居で饗應を受けたが、官邸は頗る美麗である、僧正の社交上の地位は郡長以上であるといふ。

斯の如く、埃太利及び匈牙利の兩國で、村落視察に各一日を費したが、世界的なる大國の首府を覗くと、洵に印象の異なるものがある。田舎の人々の質樸なる田舎の兒童の生活の樸實なる所などを見、種々の點に於いて各國の社會を理解するに頗る都合の好いことを覺ゆる。此村の醫師にして、多少の佛語の素養のある所から、我輩の巡覽に極めて熱心に斡旋した人がある。數日後、我輩が匈牙利を去つて土耳其に向ふときに、汽車が此驛を過ぎた折にも、特に停車場に出て、叮嚀に歡送の禮を竭して呉れた、是等も亦幾分人氣を見るべき點と謂ふべきである。

七 教育

高等教育
埃太利

埃太利と匈牙利とは、高等教育の點に於いて、多少の懸隔がある。埃太利は兎も角も獨逸と殆ど同様で、頗る完備して居る、殊に維也納大學の就中醫科大學の如き

匈

ブダペスト
ト大學

は、獨逸の諸大學に於いても之を凌駕するものは殆ど罕である。匈牙利は頗る熱心に其高等教育を整へむとして居るが、今日ではブダペスト及びコロスヴァルの二大學あると、ブダペストの工部大學校が、建物を新たに於いて、規模頗る廣大、内容充實せるものがあるのみ。其外には小さな法律専門學校が十校あり、其中國立が三校、宗立が七校、さて其外には若干の宗教學校があるのみである。ブダペスト大學は、神科及び法科は古き建物に在る、二階は法科にして、三階は神科になつて居る、是は繁華なる舊市街の中央に在りて、神科大學で、大いなる据付暖爐が廊下をはばして居るのを見た、建物は極めて狹隘である。附屬寺院があり、神科の學生寄宿所あり、此附屬寺院にて神科學生は説教を稽古する。文科及び理科大學は一つの分科大學を成して居る。十一年前に見た時分に工部大學校となつて居つた建物が、即ち今日文理科大學となつて居る、つゝ近頃移り來たばかりで一向整頓せず、但し廣さは文理科としては充分と見受けられた。醫科大學は各所に散在せる各教室と、文理科より遠からざる所に集まれる二棟の基礎醫學教室とから出來て居る、設備の頗る整へるは、蓋し維也納の刺戟もあるてあらう。

工部大學校はブダの下手第一區と云ふ新市街に、新たにドナウの大江に臨みて大建築を起し、其棟敷は殆ど數知れず、大學五千の學生に對して、三千有餘の學生を有して居る。

中等教育は、埃太利は殆ど獨逸と大同小異である、但し教員の優遇と云ふことは未だ之に著手せらるゝに至らぬ。匈牙利は今尙中等教育の設営中と云つて宜しく、往々突飛の進歩を企てる、例へば率先して、前世紀の中に、女子中學を創設したるが如きは、歐洲諸國を驚かした。

初等教育は之を獨逸及び北歐の諸國に較ぶれば、埃太利と雖も尙未だ充分に進歩せりと云ふことが出來ぬ。何分各種の人種が混つて居るので、教育に對する考などは、亦頗る區々である、と云はねばならぬ。匈牙利に至りては、又埃太利に比して頗る劣つて居る次第で、近年熱心銳意教育の上進と普及とを計つて居るが、まだ爲すべき多くの點が残つて居ると云はねばならぬ。無學者の數、千八百八十一年には埃太利は百人中三十八人九分を算し、匈牙利に至りては實に五十人七分を算へた、獨逸が當時僅に一人五分七厘を算ふるに過ぎざるに對して、實に著しき懸隔

と云はねばならぬ。實に匈牙利は、此點に於いて歐洲では随分後れて居る國である。尤も此方の横綱には同年で七十九人三分のセルヴィア、千八百九十五年で六十一人の露西亞が控へて居る、此年となると、以太利は三十八人九分、匈牙利は二十四人、埃太利は二十二人を示す。匈牙利は亞米利加の黒人と粗、同じ成績を示して居る。匈牙利は熱心銳意埃太利と競争せむと力めて居るが、併しながら埃太利も亦尙進歩すべき餘地が残つて居るとは云へ、匈牙利が之に追付くことも餘り容易とは云へぬ。况や歐洲の白哲文明國に比肩するに就いては、此點に於いて、まだ一、大奮勵を要するものと云はねばならぬ。

八 官僚及議會

凡そ埃太利の官吏は二種類から成立する。一を事務官とし、一を參與官とする、事務官は先づ判任官の類であるが、併し官等は其極上が七等官即ち中佐相當まで至る、但し此國では六等官即ち大佐相當以上が勅任となつて居る。事務官は文書

の記録傳達等の事務に當る、各省とも事務官の候補として、先づ第一に陸海軍の下士上りにして陸海軍大臣の與ふる事務官適任證を有する者を採用せねばならぬことになつて居る。併し内務省最近の實例で見ると、三人の空位の所に、候補者が實に二百五十名も出て來た比例であるから、下士出身以外事務官の實地任命は、殆ど想像にだも能はざる所である。此制度は經驗ある高等官人の説を聴くと、甚だ宜しくないと言ふ、即ち下士出身者が、必ずしも輓近の官衙の需要には適せぬと言つて居る。事務官適任證は、四十五歳以上の下士、及び十二年以下奉職の下士には與へらるゝことは無い。

參與官
三類の系

參與官は、大學にて四ヶ年法學を學び、其間二回の國定試験を大學にて受け、之を通過して後實務見習となる。此、プラウチカシオン實務見習を收容し得る官衙の系統が三筋ある。中央では内務省、司法省、及大藏省。其内務省の下に州總督府あり、其下に郡役所あり、司法省の下には各等裁判所あり、大藏省の下には稅務管理局がある。そして實務見習は、其志望に隨うて右三類の系統の何れかの先づ以て地方官衙に入らねばならぬ、斯くて一年以上三ヶ年以内に更に政治實務試験を受け、之に及第して、更に



瑞西國。

アルトドルフ村なるテル記念像。

「午後五時二十一分、汽車ギョッセンを發し、夕六時半アルトドルフに著す、ミラノより五十五里、絶巒の分水嶺を距ること九里、山嶽四疊、僅に山間方半里の平地に村落を構ふ、有名なる瑞西獨立の魁首キルヘルム・テルが、林檎を射たる所として十年來シルレルの戯曲にて慣知せる所、今カントン、ウウリの首地たり。アルトドルフを看了りて更に山嶽に辿り入る。杏花、梨花、處處に盛りなり、残りの雪を度り來れる夕風の肌寒し、途上逢ふ所樵牧晚歸のもの、路を讀りて掛禮す。行くこと二十分にしてビュルグレンを得、テルの生地、その舊館の迹、今に祠廟存す、これに傍らて小旅亭あり、テルの舎といふ、乃ち叩いて此に投ず。アルトドルフの人口二千五百五十三、ビュルグレンは、舎の主婦に問ふ、嶽之を良人に問ふ、曰ふ千五百七十三と、雨色を合して我郷村横越に匹敵す、以て其僻陋たるを知るべし、唯瑞西の國、由來方百里に滿たず、故を以て其中央を距ること甚だ大なりとせざるのみ。此日過ぐる所、絶巒深谿、夜此山驛に宿し、四日の春月雪山の巔に懸るを望み、俯しては溪流の輕響を聞く、眞に是れ遊歐以來の清興たり。」

十年前の拙著「西遊漫筆」

系統以外の省

跛躄的制

少くとも二ケ年を経て、始めて本官に任ぜらるゝ斯くて本官に在任すること少くとも二ケ年にして、始めて中央本省の參與官に任ぜらるゝことが出来るのである。然らば文部省、農務省、商務省、遞信省等、右の如き種類の系統を有せざる省の參與官は、如何にして任命せらるゝかといふと、右の三系統に進み來り、而して中央本省に入るの資格は出來ても、成績の佳ならぬつまり内務司法大藏本省への賣れ残り者を以て之に任ずる。故に文部省の參與官は、寧ろ地方政務司法若くは財務に對してこそ、七ケ年の経験を有して居るけれども、教育の事は文部に入りて始めて之を経験する者を以て充たさるゝ次第である。我輩が内務省官房長ドクトル・ノエリックス・フォン・シュミットガスタイゲル氏に質問して、斯の如き制度は果して無害ならざるかと問うたのに對して、氏は答へて言ふ、然り、今文部省にて學則を制定すると假定せよ、文部參與官連は何も知らず、必ず之を當該學校の教育者に諮詢せずには事が進まぬ。所て例へばボヘミアの國語を如何に支配すべきかなどいふ問題に對しては、教育家は氏は教育家といふ言葉を専門家と同義に使用して居る兎角偏りたる見解を有し易いから、法律出身の文部參與官は、唯之を調和するだけの役目に

は立つて居るといふ。併し全體教育家は専門學者でない。法律出身否、地方政務出身、司法出身、財務出身の人には、教育上の偏見が無いといふ保證が附くかそれも疑はしく感ぜらるゝ否、偏見はなからう、何故なれば全體見識がないのだから。且右のボヘミヤ語の問題の如きは、實に内閣の大問題で文部一省の問題ではなからう。さて斯く自分の系統を有して居る省と之を有せざる省との内閣に於ける重み如何と問うたのに對して氏の答には、それは勿論系統の有る省は重く、系統の無い省の輕いことは極めて明確なる事實である。氏は又言ふに、大學教授を文部の參與官に任ずるとしても、彼等が甘んじて自分の立案文書に課長や局長の署名するのを受くるかどうかは問題である。蓋し彼等は斯かる待遇には、餘りに自ら高しとして居るからである。是等の談話に依て見ると、地方政務出身、司法出身、財務出身の文部參與官、賣れ残り參與官などを、此國の大學教授は眼中に措かぬこと、見ゆる。此國の教育の隆運が遙に普魯西に及ばざるは、亦由來ありと謂ふべきことが感ぜらるゝ。

埃國官僚
失政治の得

此國の官僚政治は頗る鑑とすべき事が多い。文部省のみにて、六十五人の法學

新聞と官
僚

士高等官を算ふる、然も法學士出身者以外には殆ど人が無い、文部全省で僅に五人の教育出身高等官があるだけである。されば法文の繁縟なると亦著しい、獨逸のブラウシッテの普國行政法七卷と、埃太利のマイヤルホオン埃國行政法十卷とを較べると、優に二倍の字数を算ふべく、文部省の豫算表は、埃太利の方が普魯西に較べて三倍の紙數がある、然るに人口と云へば、埃太利は普魯西の半分を少し越して居るだけしか無い。法律を以て經國の主要なる智識とするの弊は、斯く迄も繁文縟禮が進むかと驚かるゝ次第である。それで居て官吏の其職務に無知なることは驚くばかりである、小學課中學課の次長は、小學中學の授業料の額を知らず、文部官房事務官にして、本省所管の事項を各課に譲りて、それの課をして我輩の質問に答へしむるといふ状態である。一般に此國の人氣の悠長なるは、甚だ好い事であるが、官守にも斯く悠長なるは、餘り慶賀すべき事でもないやうに思はれる。仍て想ふに、新聞が諱く冗漫なるも、此國の悠長緩慢なる國情民風の反映として、面白い専門記者徒に多くして、紙面の統一の無いのは、丁度其官僚政治と同一の弊に基いて居るやうに見受けらるゝ。

匈牙利にては、内務書記官ドクトル・ガスバール・アルトゥル氏と談話した。序に、是はガスバールが苗字で、アルトゥルが名である。匈牙利は我日本と同じく、苗字を先に云つて名を後から云ふ。氏は其卓上に、タイプライターを据えて居る。氏自らが之に従事するものと見える。匈牙利では、各省大臣の下に、政務次官及び事務次官あり、政務次官は下院議員たることを要する。其次に内務省には十二の局長あり、孰れも皆省参事官である。其次に二十餘の課長があり、是等はすべて局参事官である。局長以下、此國の組織は、埃太利と殆ど大差は無いが、役所の中の執務の狀態や、官吏が各、其事務に通じて居るといふ點は、幾分埃太利より優つて居るやうに見受けられた。

議會
言論を以てせざる議會

議會は、埃太利に於いて、殊に一種の著明なる特色を發見することが出来る。凡そ國語の統一無き所には、強勢なる議會は到底發達することが出来ぬ。尤も言論を以てせざる議會と云ふものが、若しもあり得るならば、國語の不統一の如きは、何の故障とはならぬかも知れぬが、歐洲の文明國は、議會が言語を必要とせぬまてには、未だ墮落して居らぬ。埃國の國語の不統一は、實に此國の最も固有なる短所である。

普通選挙

あるので、其弊は直に埃國の議會の無能となつて現れて居る。埃國議會には、奇妙にも人種的分派がある次第で、如何にも此の國の政治を振起し、庶政を更張する本源となるには、餘りに縁遠いものであるの感に堪へぬ。唯一つの慶ぶべきは、此國が近年普通選挙を實行するに至り、或る意味に於ける民意の代表は、稍完全に行はるゝに至つた事である。且其副産物として、社會黨の氣勢が大に殺がるゝに至つた。斯の如きは政を爲す者の鑑むべき所であらう。

匈牙利の政黨

憲政黨
獨立黨

匈牙利の政黨は、千八百四十八年コッスウトに依る此國の自由獨立より、千八百六十七年アンドラシイに依る憲法政治を経て次第に發達した。六十七年黨は即ち憲政黨である。是は埃太利との聯立を以て満足して居る。外に獨立黨あり、是は事毎に埃太利と拮抗せむとして居る。銀行獨立問題、普通選挙問題の如きは、皆獨立黨の唱ふる所である。憲政黨に嘗て内閣總理たりしチッサ伯あり、獨立黨にコッスウトあり、アンドラシイあり、これは孰れも皆同姓の豪傑の息子達である。ルカッチが内閣を組織せむとして成らず、ヘデルワリが今は首相である、而して新政黨を組織した、名づけて實行黨と云ふ所以は、獨立黨の空論を淺駕して、其行はむと欲する。

實行黨

匈國議會

を實行せむといふの意味からである。即ち我黨は憲政黨より出て、更に實行に於いて、獨立黨の欲して而も能はざりし所をも成さむと宣言するの意味である。チサ伯は今や此黨の首領の一人て、選舉に率先し全國を遊説中である。氏は併し普通選舉には反對を明言して居る。首相ヘデルワリは之に就いては何をも言はぬ。

さて匈牙利の議會は、今は丁度總選舉の際であるので會議は無い。總額千三百万圓を費したるドナウ河畔に崛起せる莊麗なる大建築で、如何にも自由及び人民本位と云ふ精神の横溢を見るに足る。席の數は四百五十三、裝飾には靴工、農夫等、平民各種の職業の像を以てするものが多きに居る。これは頗る思ひ付て且見物である。其大食堂の壁畫は、此國の歴史上の物語を表す。食堂は上下兩院兼用で、兩院議員共に此所に入り混つて食事をすることになつて居る。是等は議院建築に於いて、大に参考の價値ある事と認められた。建築のスタイルは東西を調和し、ルネッサンス、ロマネスク、及びビザンチン式を折衷して居る。是も自ら此國特殊の趣味を發揮すと謂ふべきである。

九 國際上の地位及將來

埃匈國と獨逸と凡日耳曼主義

常山の蛇 囊中の鼠

埃匈國と獨逸との關係は、先づ以て、バグダッド鐵道の、大影響を考へねばならぬ。近年凡日耳曼主義の次第に獨逸民族の思想に崛起し來るありて、殊に此主義たるや、埃太利及び匈牙利に於ける此民族の生活を結び付くるに、倔強なる一種の叫びである所から、獨逸民族の間には、次第々々に聲高く唱へらるゝに至りつゝある。而して北には獨逸の本國あり、埃太利、匈牙利及び巴爾幹半島を隔て、遂に獨逸民族の勢力が、小亞細亞、亞細亞、土耳其を貫通して直に波斯灣頭に至り、恰も常山の蛇の如く、南北首尾相呼應するに至るに於いて、其中間なる巴爾幹乃至埃匈國が、稍囊中の鼠の形勢に陥るは、自然の結果である。是時に當りて殊に凡日耳曼主義は、埃匈國に取りては、實に其國家成立の要素たる人民の分裂を助長するものとなるのて、其衆民族の中、特に獨逸民族の勢威の添はるゝのは、直に其餘他總べての民族の勢力の失墜する所以である。埃匈國の獨逸民族以外の者が、近時及び現今の中歐に

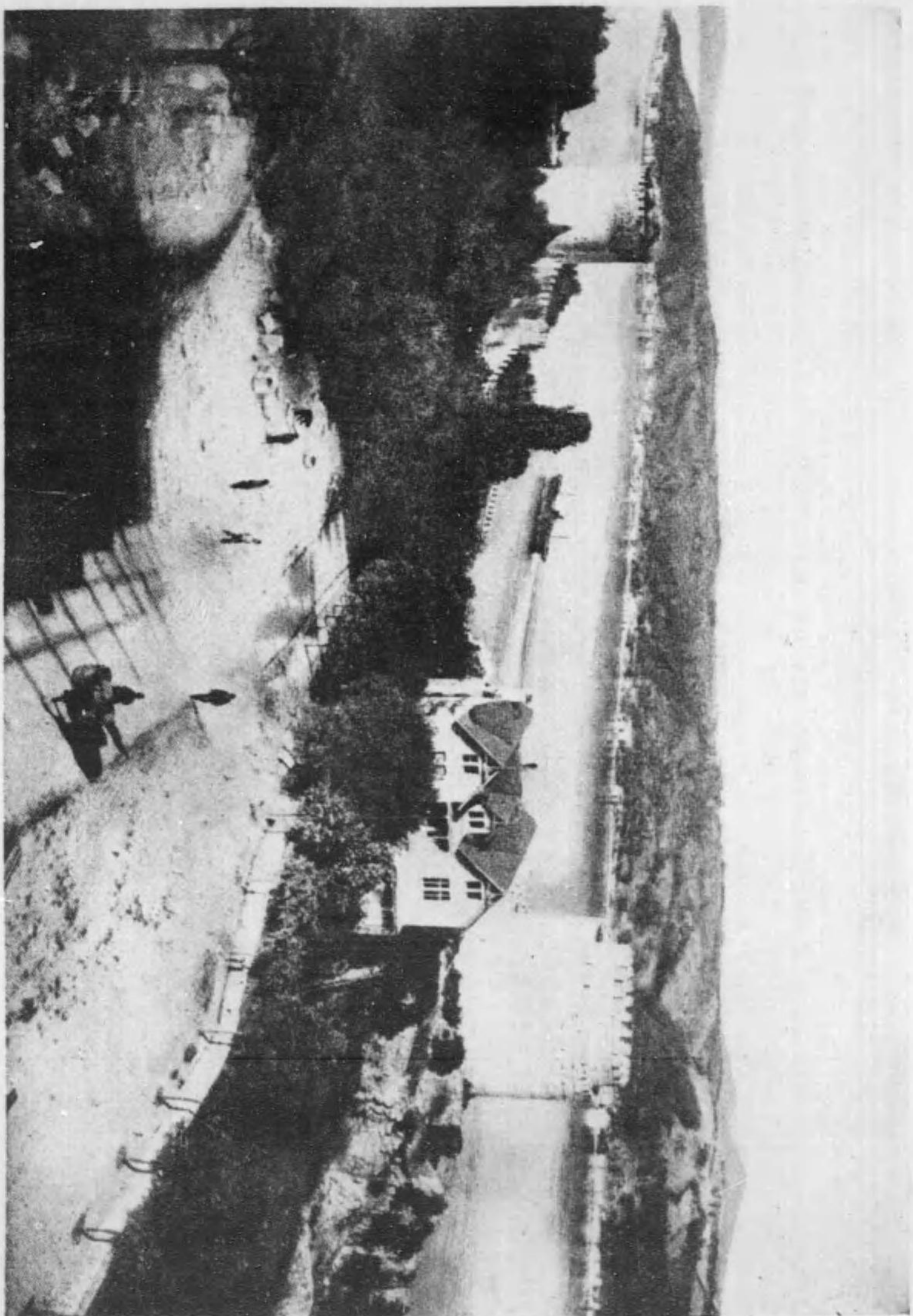
埃匈國の地位

埃國と巴威里

於ける國際形勢に對して不安の念を感じるのは無理もない状態である。併しながら埃國と獨逸との關係を見るのに、茲に一つ見逃すべからざるは埃國と巴威里との關係である。埃國と巴威里とは其宗教を同じうし、隨つて其人間も相似る所がある。巴威里の人間は質樸溫和、稍緩慢にして、而して都雅優美なる點がある。是等は恰も埃國と似通うた點で、實に巴威里の首府ミュンヘンに到れば埃國の首府維也納に遊ぶと稍似たる感じを一般行客に與へる。而して巴威里の普魯西を盟主とする獨逸に於いて、稍失意の位置に居ることは明かであるから、萬一假に巴威里が埃太利と結ぶとすれば、茲に歐洲の中原に於いて、獨逸民族の舊教を奉ずる頗る大なる國が出来ることとなるので、恰も北の方は新教の獨逸民族の國、南には舊教の獨逸民族の國が相對峙して現るゝことなるであらう。併しながら斯の如きは今日の國際政局にては夢想に過ぎぬ事、姑く架空の想像を回らして見たに過ぎぬのである。

埃國とスラヴ民族と凡スラヴ主義

埃國とスラヴ民族との關係に就いては、凡日耳曼主義あるに際し更に同じく有力なる凡スラヴ主義と云ふものがある。即ち其種々なる小民族國語、宗教等の



土耳其國。

君斯坦丁堡附近なる、ルメリ・ヒッサル、
及ボスフォルス海峽の景。

亞細亞歐羅巴の間、僅に此一衣帶水を隔つ。

兩岸の家屋、郊樹、歴々指點すべし。

埃匈は寧ろスラヴ國

ボスニエ・ゴッツイエナの併合

差如何を問はず、苟もスラヴ民族である限りのものは、總て一致結合すべしと云ふの考である。其中心の露西亞に在るは言ふまでもない。埃太利匈牙利に於いて、四千六百萬の人口の中、其半數二千三百萬は實にスラヴ民族で、外三百萬がルウマニヤ人而して二千萬がスラヴ以外の民族である。故に埃匈國を一言にしていふと、きに、其主なる文化よりして、埃匈國は同じく獨逸文明の國、隨つて獨逸民族の國の如く誤想するけれども、實は埃匈國はスラヴ民族の國か、日耳曼民族の國かと云ふならば、寧ろスラヴ民族の國といはねばならぬ、實際の状況であるのである。埃匈國の人民の半數を占むるスラヴ民族と同族なるものは、露西亞帝國、殆ど總べてがこれである。其他南して巴爾幹にも、巴爾幹スラヴが頗る多くあるのである。故に、凡スラヴ思想を一條の連結原理とする所の、埃匈國とスラヴ民族との關係、隨つて埃匈國とスラヴ國との關係は、國際上の地位を論ずるに於いて、極めて有力なる一の因子となるのである。

埃匈國の國際上に於ける輓近の成功は、ボスニエ・ヘルツェゴヴィナの併合である。尤も此事件の基礎は夙に置かれてあつたので、例へば我國の韓國併合の如きもの

と云はねばならぬが、併し列國環視殊に半島列國の利害挾錯の間に立ちて、事もな
く此大事業を仕遂げたのは、確に奥國外政の大成功と云はねばならぬ。奥國は近
來餘り目覺ましき活動を、内治に於いても、外交に於いても、平和事業に於いても、軍
事事業に於いても爲さなかつた所から、其政治家の健在を疑はれつゝあつたこと
であるが、此一大事件に於いて、近年稍、世界の耳目の前に、一個の立脚地を占め得る
に至つた。

併しながら、奥國の國際上の位置を論ずるに際し、更に一層重き注意を以て見
なければならぬのは、奥國兩國の關係である。奥國太利皇帝にして匈牙利國王たる
有徳なるフランツ・ヨーゼフ陛下百歳の後は、奥國の結合は直に解體するであらう
とは、列國の政治觀察者、歐洲の有力なる新聞等が、前世紀の末以來頻りに論じて居
る所て、現に前世紀の末、巴里に於ける有力なる新紙の、最も好んで論ずる題目の一
つは是であつたのである。併しながら有徳なるフランツ・ヨーゼフ陛下は、實算既に
八十を越えさせられて尙且嬰鑠たる氣力を維持せられ、乃ち右の推想が事實とし
て現るゝや否やの機會は、恐らくは容易に到らぬことであらう。今我輩を以て見

奥國兩國
の關係

分離不可
能

奥國今日
の最大急
務

社會學の
妙用

るに、奥國は當分分離せむと欲するも能はざる國と云はねばならぬ。奥國の人
民には、奥國と分離することを以て極めて快心の事業であるが如く考ふる急激主
義の人々もあることであるが、併しながら斯の如くにして、今日僅に二十萬の人口
を有し、然も其中の主要民族たるマジール人は、未だ其半數にも達せず、而して各種の
人種を其中に蓄へ、人種の融合は未だ成らず、斯かる民衆僅に二十萬を有するに過
ぎざる、而して何等海上權にも接近するに至らざる所の國家が、如何にして十二分
の強みを以て列國の間に介在することが出來やう。即ち奥國にして、若しも奥國
と離るゝならば、早晚更に他の國と結ぶ必要が出來て來る。今日濫に現狀を破壊
して、奥國の分離を夢想するが如きは、大局に通ぜざるの議を免れぬことである。
奥國の爲に計るに、今日の最大急務は、其衆人種の融合所謂アマルガメーションを實
現すべく力むる點に在る。併しながら此大事業は、政治上、政策上、如何に力めたり
とて、早急に結果を見るべき事柄ではないのである。此大事業は、必ずや大なる年月
を要して而して成るべき事であるが、併しながらそこが社會學の妙用で、苟も社會
學の原理、法が教ふる所を、充分に各政治家が注意し、苟くも機會の施すべく、事情

奥國國の地位

人の振見
せて我直

末節に
肩たり

官僚政治
の弊か

奥太利の
將來

の許す限りに於いては必ず人種の融合に向ふべき處置を執るに餘力を剩さず細心の注意を怠らぬならば例へば歴史上數世紀を費して始めて成つたであらう所の人種融合も或は僅々一世紀の間に極めて目覺ましき實現を見ぬとも限らぬ。

奥國の爲にも亦人種融合の極めて望ましきは勿論である。然るに奥國の政治家の力むる所は毫も斯かる國家の經綸の根本問題社會經營の基礎問題に觸るゝ所の社會學上の智識を磨き及び之を應用して國家を經營し國本を培養するに存せずして滿廷の臣僚其得意とする所其運用する所は唯是れ成文法律の解釋及び適用と云ふが如き區々たる末節に肩々たるに至りては我輩中央歐羅巴に旅行し其美術に感歎し其民俗の醇良なるに快感を催し來りつゝも實に嗟然として評する所を知らざる次第である。官僚政治の弊も亦此に至るかとは獨り我輩の嘆のみではなからうと思ふ。併し是は官僚政治が悪いのではなく法律政治の弊と云はねばならぬのである。官僚の二字は必ずしも常に法律と離れてはならぬと云ふ譯のものではないのである。

之を要するに奥太利の將來には二つの途が開かれてある。一つは獨逸の一部

匈牙利の
將來

奥國の
將來

となること。是は獨逸人が次第に勢を得て他の衆民族の勢が減る時に於いて特に獨逸と離れて居る必要を感じ念が次第に尠くなり即ち凡日耳曼主義の實現として獨逸兩國を獨逸民族が打つて一團と爲せる今日より一層大なる獨逸民族の大帝國を形造るときである。今一つの途は獨逸人が次第に減じ而して今日では劣勢なる波蘭人、ボヘミア人等の強國を中心とせる聯合となること。之が亦第一と反對なる事情の下に出來べき奥太利の將來である。

匈牙利の將來には亦二つの途が開かれて居る。第一は次第に鞏固なる一國となること。第二は強隣に席捲せらるゝこと。匈牙利にして人種融合を講じ政治殊に教育に全力を注ぎ一國として次第に鞏固を増進するに成功する能はずんば、第二は必至の運命とならねばならぬ。さて此場合に於いて匈牙利を席捲する所の強隣は、スラヴであらうか獨逸であらうか、是は頗る判断に苦しむ事である。獨逸よりも更にスラヴなるべき形勢の方が幾分強いと云はねばなるまい。

更に之を總括して奥國の將來を斷ずるならば、要するに奥太利及び匈牙利の國家、社會、民族の融合に於ける成功が早く來るか、若くは獨逸の包括的勢力發展の

成功が更に早く来るか、此二點の孰れになるかに随つて、埃國の運命は分るゝのである。埃國の國家社會民族の融合に於ける成功を妨ぐるものは、匈牙利の健全なる教化的原動力の缺乏である。埃國兩國の法律本位の官僚政治の餘弊である。而して獨逸の包括的民族發展に於ける成功を妨ぐるものは、即ちスラヴであり、日耳曼主義の酸を妨ぐるものは、凡スラヴ主義の亞爾加里である。

第五 バルカンの形勢

一 地勢

バル幹半島

バル幹半島は、歐羅巴の中原を貫流するドナウの下流に位して其咽喉を抑へ、其間カルパチアンの山脈ありて、北より南に、西より東に連亘し、東は黒海を劃り、南は地中海に濱し、西はアドリアチック海を隔て、遙に以太利半島と相對し、而して黒海と地中海との間は、マルモラ海にして、黒海よりマルモラ海に入るには、ボスボルス海峡を通り、マルモラ海より地中海に出づるには、ダルダネルスの海峡を通過せねばならぬ、而して出づる所は即ち地中海の一部たる多島海、古のエエギアン海である。

ボスボルス

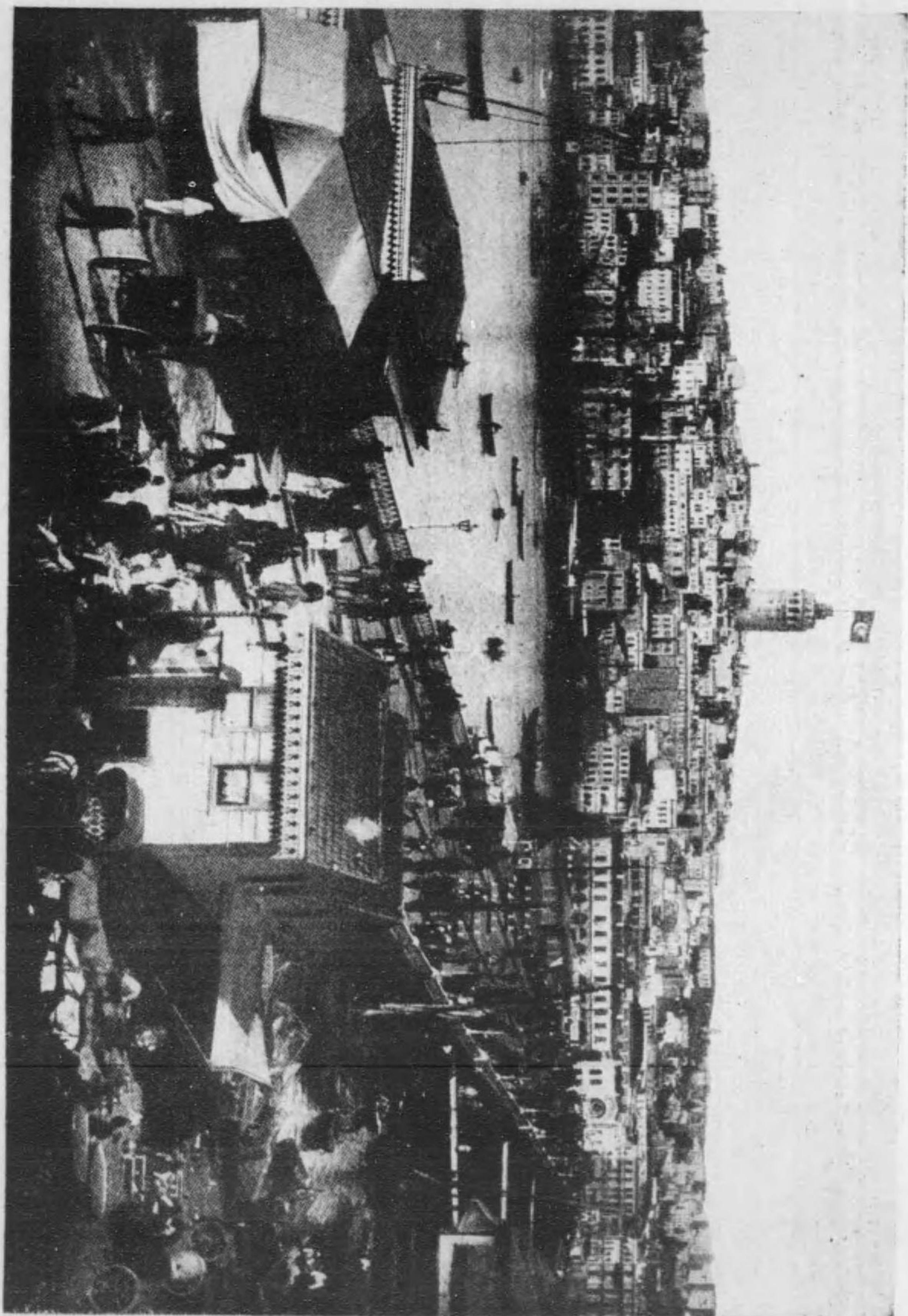
バルカンの形勢

ボスボルスの海峡は南より北に約八里、幅は最も狭き所六町より最も廣き所二

十餘町に過ぎず、兩岸の丘山、樹木、家屋、海に佳き景色である。北黒海の海角には要塞砲兵隊在りて要害を固め、實に亞細亞と歐羅巴との咽喉を扼し、而して黒海の出口を塞げる險要の形勢である。丘山の松樹は多く、朝鮮松の高きもの折柄彌生の空に咲き誇れる梅花と相映じて、頗る日本流の趣味を成して居る。

マルモラ海は約五十里、ダルダネルス海峡の長さ十餘里、此所にて再び亞細亞と歐羅巴との括りがある、但し幅は概してボスポルス海峡の倍ぐらゐるはある、埃太利及び佛蘭西の郵船のみが夜間の航行を許され、其他は海峡の入口にて夜の明けを待つべく餘儀なくされて居る次第である。此所は其昔波斯の大王クセルクセスが二百萬と號せる大軍を率ゐて、彈丸黒子の希臘を一揉みに揉み摧かむと進軍せる土地、大王はヘルレスポントの一岬角にて大軍の海を渡るを瞰下しつゝ、噫、百年の後、誰か一人の亦今日の威風を語るべく生存いまだふべきと大息せる、恰も是れ東洋の昔、漢の武帝が、秋風起つて白雲飛び、草木黃落して雁南に歸るの風物に對し、樓船を泛べて汾河を渡り、歡樂極まつて正に哀情の多きを歎ぜるを憶ひ起さしむる次第である、其舊跡は即ち正に此處であるのである。我輩が此處を航海せる時は、折

ダルダネルス



土耳其國。君斯坦丁堡府。

金角灣頭、ガラタ橋を隔て、ペラ街を望む。

ガラタ橋、實はカニコイ橋といふ。

前面に聳ゆるはガラタ塔。

柄如月の八日、半月中天に懸り、星斗空に滿ち、丘影、山色、暗憺として、夜色轉た寒き時であつた。大王の昔しの夢や浪の月句成らずと雖も、亦一種の感なき能はざりし次第である。

マルモラ

マルモラ海は、斯の如く寧ろボスポルス及びダルダネルス、二つの天工の運河に依りて連結せられたる一の湖水たるに過ぎぬ、而して此運河及び此湖水が纔に亞細亞と歐羅巴とを劃つて居る次第で、亞細亞、歐羅巴の接壤は、此間に於いて約百里の延長を有する次第であるから、巴爾幹半島の形勢の最も世界に特視する所以は、實に此地域、此水面に在ると云はねばならぬ。半島の南面東半は多島海に臨み、西半は即ち希臘半島を控へる、此南面の海岸と希臘半島の突出せる其海隅の要所にサロニキの一港がある。サロニキは君斯坦丁堡と遙に相應じて土耳其古の最大要港である、此地に向つて歐洲大陸より南下する鐵道敷設が、國際係争の重要な問題となるも怪むに足らぬ。

サロニキ

アルパチ

アルパチアン山脈は、巴爾幹半島の稍西部を南北に連亘し、其南に延びたるが希臘半島と云ふが如き地勢に於いて在る。而して此山脈の西、アドリアチック海に至

る所の地域は、地勢稍、山丘多く、險峻て且つ狭まつて居る。全體巴爾幹半島、總體の地勢は、餘り大なる原野を控へて居らぬ、幾分小地域に分れて居るが如き地勢であるが、アドリアチック海方面の地方、即ちアルバニアの地方に於いて殊に地勢の狹窄を覺ゆる。

君府

君斯坦丁堡は、即ち右の亞細亞歐羅巴の接壤の地點の最も東の端、ボスボルスの海峡が黒海より入りて、マルモラ海に口を開かむとする其咽喉を扼して居るので、形勢は實に完全なる理想的の要害に於いて在る。我輩一日、君斯坦丁堡を、歐羅巴の側より亞細亞の側、即ちスキュタリに向つて散歩を試みた。小蒸汽を待つまでもなく、二つの艀を押す所の一人の水夫に依て操縦せらるゝ小舟を就うて渡つたが、其時間は僅に十五分にして達した、宛がら我郷國の新潟に於ける信濃川を渡るの時間に過ぎぬのである。此要害の形勢の上に更に所謂金角灣と稱して約三里に近き入海がある、大なる地勢上の要害に加ふるに更に小なる地勢上の形勝を以てして居る。此金角灣の入口に架してあるのが即ち有名なるガラタ橋である。此地昔は亞細亞より歐羅巴への勢力の大通路であつたが、今は歐羅巴より亞細亞へ

亞歐の間
僅に十五
分金角灣

ガラタ橋

梅花多き
巴半島

の勢力の大通路となつた。地勢は千古萬古依然として變らぬが、人文の勢、民族の勢力の消長よりして能動所動、今古其趣の相反するは、亦是非もなき次第である。千九百十年三月十四日の午後、匈牙利の首府ブダペストを立出て、十五日の朝、汽車中起き出でて見れば、山の峽、梅の花、杏子の花、今を盛りである、丘陵山峽の形は、宛がら鎌倉山の趣がある。汽車は未だセルヴィヤの境を出てぬとおぼしく、山廓水村、洵に雅趣の多きを覺えた。

ソフィア
ポボリス

ソフィア、フィリッポボリスなど、荒涼たる大野に、常盤木なき小市街の光景、西比利亞の都會とさも似て居る、唯ソフィヤの終南山とも謂ふべきウイトサ山、標高七千六百尺、半白雪を戴けるが、些か平原の單調を破りて、氣高い。

東羅馬の
遺物

三月十六日、早朝、君斯坦丁堡に近づけば、先づ嚴めしき古城壁の廢殘が、蜿蜒として海端を壓するを見る、是は東羅馬帝國の遺物である。山河の固、國家の守も、人に在りて險に在らずと云ふは、如何にも此際にも見ゆるのである、始皇の長城、今や巴爾幹の一隅に於いても見らるゝ次第である。君斯坦丁堡に於ける聖ソフィヤの寺、是は東羅馬の偉大なる建築を其儘用ゐて、回教の大寺院となして居る、地下宮殿の

宏壯なるも亦東羅馬時代の物で、孰れも東羅馬の強大と榮華とを語らぬ物は無い。斯くばかり盛なりし東羅馬の首都を攻め陥したる土耳其人、土耳其人の勢威に對して、當時歐洲全體が震懼せるも尤もの次第であつた。然るに四百年後の今日、其土耳其の勢威も亦既に漸く衰へつゝある、實に『浮沈千古事、與誰問東流』の感に堪へぬ次第である。

一日モハマド二世の廟所に詣てた、其結構は獨逸シアロテンブルグの廟所などと異ならず、唯此地の外の寺院と同じく、段通を敷詰め、坐して詣て得るの違ひがあるだけである。廟所の別室に衆くの嬪御の墓があり、廟の外には國葬せられたる大臣の墓がある。梅花兩三枝、今を盛りに開き、若木の青芽吹きたる下に、井あり、いづれ東洋の趣味に近からぬは無し。

二 民族

三大別

歐洲の東南に於ける民族は、極めて種々の混淆である。先づ之を大別すれば、北

北スラヴ人

スラヴ人、非スラヴ人及び南スラヴ人の三群に別るゝが其北スラヴ人は、第一がポーミア人、六百萬、第二がスロヴァク人、二百萬、第三が波蘭人、千八百萬、其中歐羅巴に住する者が千五百五十萬、北米に移住せる者が二百五十萬、ルテニア人が二千七百萬、其中二千三百萬は露西亞に住し、四百萬は埃匈國に住する、其露西亞に住する者は主としてウクライン人で、露西亞波蘭の争點となつて居る。

非スラヴ人

第二群に屬するは非スラヴ人で、其第一は純粹の匈牙利人、即ちマジール人である、第二はルウマニア人、これは比斯麥も嘗て千八百六十七年にドナウ河畔のベルジックと評した様に、頗る進歩せる有望なる國力の發展あるべき民族で、總數一千萬居る、内五百五十萬はルウマニアに住し、三百萬は匈牙利に住し、三十萬はブコヴィナに住し、百萬はベッサラビアに住する。第三が土耳其人である、併し是は歐羅巴に住する者は至つて尠い、即ち僅に百萬に過ぎぬ、亞細亞土耳其に住する者が千七百萬、亞刺比亞に住する者が八百萬、埃及及びトリポリに住する者が五十萬、總計二千六百五十萬を算ふる。全體歐羅巴土耳其の人口を擧げて見ると、總體六百萬で、其内譯はアルメニア人が二百萬、ブルガリア人が百五十萬、セルヴィア人及び希臘人が百五

歐羅巴土耳其の人

バルカンの形勢

三三

土耳其の
無極極の

十萬、土耳其人は僅に百萬に過ぎぬ。土耳其人は歐羅巴に於いて強大なる帝國を打建ててから既に五百年を経て居るが實は何等の根柢を歐羅巴に有して居らぬ。蓋し回教は極めて排他的若くは自尊的にして、唯天の特命ある民族に於いてのみ大なる力を有するの傾向があるの、其同化的傾向は極めて乏しい、これが重なる原因であるのである。されば回教に歸して居つても、ブルガリア人、アルメニア人、ボスニア人は少しも土耳其風とならず、唯其宗教を變へただけて、其國俗は依然として何時までも保存して居り、回教の土耳其人若くは土耳其の回教は、亦必ずしも其國俗の變化を彼等に要求せぬと云ふ次第である。

第二群の第四類は即ち希臘人、是が五百萬、其中二百六十萬は希臘に住し、三十萬は君斯坦丁堡に住し、而して二十萬は多島海、地中海沿岸の各海港、若くは海島に住して居る。第五類はアルバニア人、是が二百萬、其七割は回教、一割は羅馬加特力、而して二割は希臘加特力である。

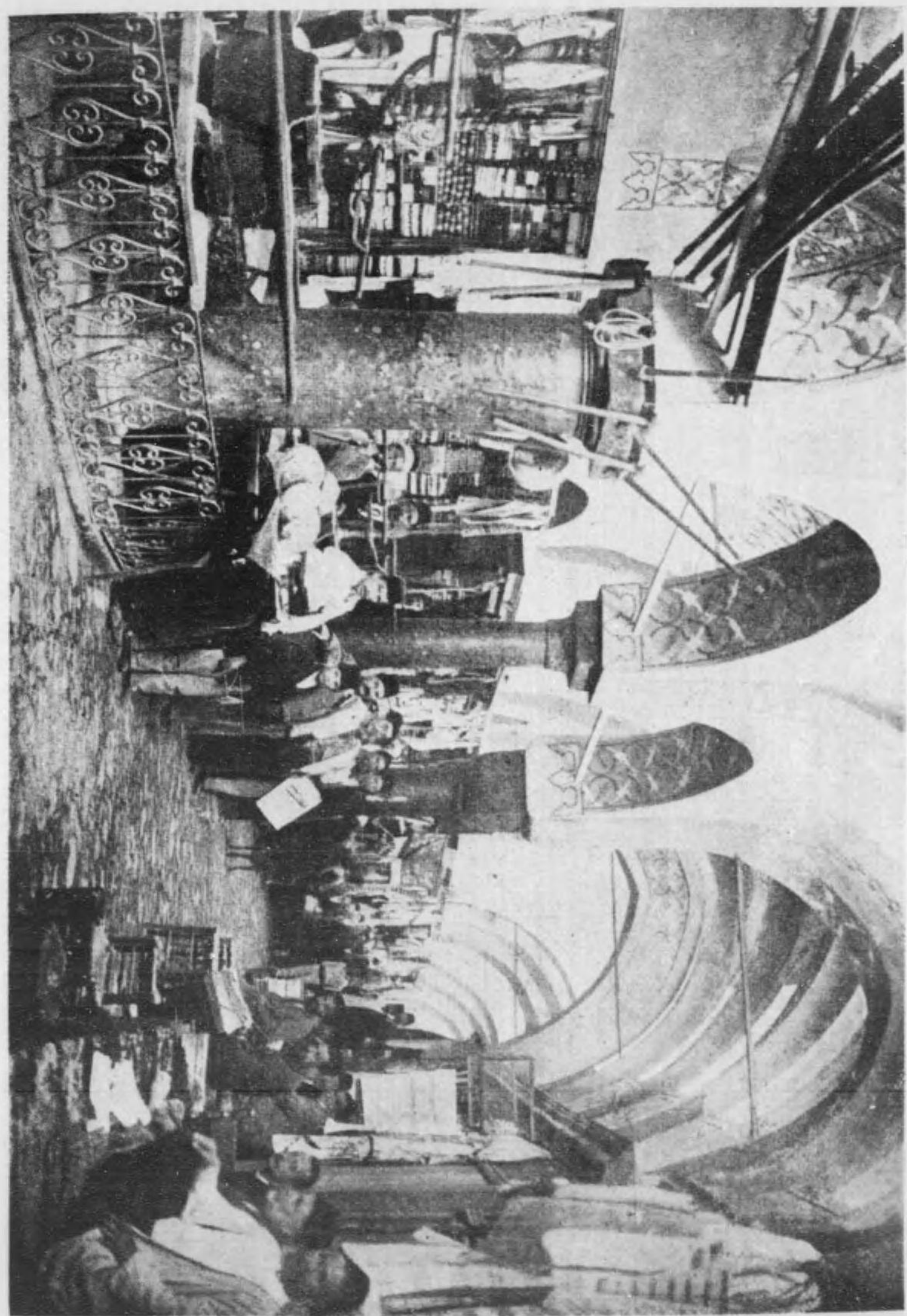
それからして東南歐羅巴に住する民族の第三群は所謂南スラヴ人である。其第一類はブルガリア人、六百五十萬、内四百萬はブルガリヤに住し、二百五十萬は

南スラヴ
人

民族の雜
駁

歐羅巴土耳其及びマセドニアに住して居る、其勢力は極めて乏しい。第二類はセルヴ、クロアチア人、八百二十五萬居る、其二百七十五萬はセルヴィヤに住し、二十五萬はモンテネグロに住する、是が希臘加特力教を奉じて居る、五百二十五萬は埃太利及び匈牙利に住し、其内譯七十五萬はダルマチア、イストリアに住し、二百七十五萬は南匈牙利、クロアチイ、スラヴニアに住し、亦希臘教を奉ずる、百七十五萬はヘルツェゴヴィナに住し、内五十五萬は回教を奉じて居る、此クロアチア人は、政治的には分れて居るが、人口は稍、密集の傾を有して居る。第三類はスロウ、エン人、三十萬居る、是が埃太利匈牙利に住し、獨逸に對する反抗心の熾なるを以て著名である。

以上埃太利匈牙利を包括して、東南歐洲に於ける諸の民族に就いて述べた次第であるが、斯の如く民族の錯綜せるバル幹半島、而してその餘勢は延いて匈牙利及び埃太利にも及んで居る。幸に埃太利匈牙利は、國家組織の今日尙確然秩然、牢平として抜くべからざるものがあるが故に、民族の雜駁は唯、大なる、不利益と云ふのみで、未だ國本を危くするに至らずと雖も、轉じて、バル幹地方に見れば、土耳其の強大なる勢威、既に漸く衰へ、バル幹は最早政治上の渾一體に、非ずして、單に、地學上の名



稱たるに止まり、一世紀と云はず、各十年期毎に、或は獨立國を見、或は邦國の分離を見る、と云ふ如く、政治上の地圖の色別が次第に變遷し、行くは止むを得ざる次第である。歐羅巴土耳其に於ける、乃至巴爾幹半島に於ける土耳其人の數僅に百萬に過ぎざること、回教は多少の傳播を爲しても、土耳其民族の風俗慣習が毫も異民族を同化せざることとは、最も注意すべき事と云はねばならぬ。

三 巴爾幹諸邦の一瞥

アセルヴィ

匈牙利の國境を出て、先づ所謂巴爾幹地方に入ると、其第一の國は即ちセルヴィアである。此國の人氣は活動的進歩的で、隨つて稍、急激なる變化の爲に、時として民族發展の機運が其弊に堪へざることも無いが、併し頗る目覺ましき進歩を爲すこともあるのである。既に第十九世紀の下半に於いて、國語就中記言の獨立を成し遂げた、これは主として此國の有數の言語學者たるダニチッチの功績である。其他詩人にはムシキイあり、熱心にセルヴィア民族の愛國的民族的感情を鼓吹

土耳其國。君斯坦丁堡府。

グラント・パザアル(大勸工場)

内部の光景。

土耳其風俗の一斑。

した。セルヴィアの科、學、士、院は、亦巴爾幹半島に於いて一つの名物として稱せられて居る。是は最初は文學の組合であつたのが、次第に進んで此國の相當の學者を網羅する、鬱然たる一の學術中心機關となつた次第である。之を率ゐるものにヨフアン・ポボウィッチが居る。

ブルガリ

ブルガリアはセルヴィアと頗る相反して、人氣は甚だ靜溫、頗る保守的で、且風俗は儉約素朴である。此國の社會にはザドルウガと稱する一種の種族結合が今尙盛で、此結合に於いて、教化、風俗、道德等の維持が頗る行はれ、亦此國人をして質素にして且平和なる生活を營ましむるに、與つて大に力ある社會體制である。經濟的、關係より見れば富まず、さりとて亦餘り貧しきと云ふ程でもなく、全體極めて著實なる地歩を占めて進む國柄で、頗る前途の希望に富めるものと云はねばならぬ。此國の文典の創立者はネオヒトリルスキイで、是に依りて國語は頗る進歩し、文學も亦國運の如く新たに興り、頗る少壯の氣風に充ち満ちて居る。此國の最大なる學者は露西亞のカルコフ大學教授ドリノフで、史學及び教會史の泰斗として有名である。

ルウマニ

セルヴィア、ブルガリアを経て更に東方大鐵道の幹線を進めば土耳其に入るの
 あるが、之とは少しく方向を異にして、稍北、即ち是等の國々と匈牙利との間に介在
 し、東黒海に濱して若干の海岸線を有し、境域も廣く、人口も最も多いのがルウマニ
 アである。ルウマニアは第十九世紀に至りて國民的精神盛に勃興し、ジオルジ
 サアキイ及びジアン・ヘリアアドラドウレスク等は、此際の國民的精神を鼓吹する
 文學者として有名である。殊に皇后イリザベス、雅號をカアルメン、シルヴァと云
 はれたる方が、此國では大詩人として大に國民の精神生活を率ゐられた。此國の
 科學學士院も中々精良なる人士を集めて居る。科學者の數は、其人口等に比して決
 して乏しい方ではないのである。ルウマニアの首府ブカレストは人口三十萬を
 有し、バル幹半島に在りては、百二十萬を有する君斯坦丁堡に亞ぐ大都會で、而して
 其市街の外觀及び其市街生活は、匈牙利のブダペストに接踵し、バル幹に於ける小
 巴里の稱があるくらゐである。巴幹爾半島中、兎も角も立派に形を備へたる大學
 のあるのは、唯、此ルウマニアのブカレストのみである。セルヴィアには法科、工科及び文
 全體、バル幹半島の教育は甚だ低き程度に在る。

巴爾幹の
教育

理科の三分科より成立する高等學校あり、學生四百九十人、ブルガリアには、國立中
 學に専門學校の附設あるのみ。獨りルウマニアには大學ありて、良き教授もあり、
 殊にその礦物博物館は著名て、學生は總體に於いて三千三百人を算ふる。人口か
 ら云へばセルヴィアは二百七十萬、ブルガリヤは三百六十萬、ルウマニアは六百十萬
 されば之を北歐羅巴の國々に較べても、些かの遜色なき次第であるのに、如何なれ
 ば巴爾幹の諸邦、殊にスラヴ人の國々の斯くも文事に疎きことぞと怪まる、次第
 である。されば二千萬の人口を有する匈牙利の二大學も、稍、毛色の變れる特色を
 示すものと謂ふべきである。

土耳其の
教育

土耳其には、君斯坦丁堡の對岸、亞細亞區、わが東京ならば、本所深川とも云ふべき
 ハイダル・パシヤに巍然たる軍醫學校ありて、是が露西亞に於けるが如く醫科大學の
 代用を爲す。その外には専門の學校としては唯、法律學校あるのみ、是以外に高等教
 育の機關は無い、皇立中學校はあるが、是は學習院で恰も中學の程度に過ぎぬ。さ
 れば大方の官吏は、埃及の士人官吏同様、中學卒業ぐらゐの學力に過ぎぬ、次第であ
 る。

士官學校は、君斯坦丁堡の山の手と云ふべきベラの北部に在る。海軍兵學校は、亞細亞を更に三里許り南へ行つた所のプリンス群島の一つに在る。されば文武の教育の中で、殊に文の教育の振はざるは、然るべきである。此國にて外國語の統計表、就中教育統計を所々て求めたけれども、全くこれ無しと答へる。追々の事であらうなど嘯いて居るものもある。此國の衆議院議長アアメッド・リザ・ベイ君は、先年巴里に於いての舊知己であつたので、君に依頼したけれども、遂に何の得る所が無かつた。

教育の事を一瞥すれば、續いて宗教に關する風俗を瞥見せねばならぬ。凡そ回教の寺院は、唯、其教祖マホメットの墓地たるメッカに對しての遙拜所たるに止まりて、何等の祭壇も無く、何等の偶像をも留めざるは、實に意外にもゆかしき次第である。されば聖ソフィヤの大寺院を首め、東羅馬帝國の耶蘇教寺觀として立てられたる建築を、何等の遠慮も無く、若くは何等の憎惡毛嫌ひも無く、直に之を回教の寺院として利用し、唯、其内部に於ける基督教的濃厚なるしちくどき裝飾、祭壇、偶像、儀式用の諸の物品を取除いて、廣やかなる伽藍堂と爲し、之に一面に段通を敷詰めて以て、回

教寺院即ちメッカ遙拜所に充つるといふ次第である。土耳其は坐禮の國であるから、段通を敷詰めることは寺院に取つて必要である。さて參詣人にメッカの方角を間違なく知らしむるが爲めに、寺院の建物の向きの如何に拘らず、段通だけは無頓著に斜めに敷き列ねてある、即ち、此段通の向きの通りに向いて坐れば、自らメッカの方に向いて遙拜が出来るといふ趣向である。勿論遙拜の爲にする祭壇の堂々たるものも無く、殆ど形ばかりの、目標的小龕あるのみで、實に餘りに規模のさつぱりとして居るのに驚く次第である。

此事は併し、土耳其人に取っては、或る程度まで必要止むを得ざる事であるのである。全體土耳其人は戦に巧にして、征服者たり、治者たり、官僚である、そこで農にはルウマニア人あり、工商には希臘人、アルメニア人、猶太人あり。されど、武士のみで近世的社會は成立し難い、此國が議會政治を施くに至れる以上、農工商の勢力の時代が來て、或は遂に實業階級、就中商業階級の勢力増進を來たし、遂に土耳其の内政に一大變遷を來たさずとも限らぬことであらう。併し兎も角も過去に於いて純然たる武士たる土耳其人其者は、實に耶蘇教寺觀に劣らざるが如き回教大寺院

カアリエ
寺

を建築せむとするも、力到底能はざりし次第であつたのである。

カアリエ寺と云ふを君斯坦丁堡の西方の一區に見た、其象眼の天井は、耶蘇一代記を現して居る、其數度の火災と時代の消磨とで、大方は破損して居るが、今尙往時の美觀を髣髴することが出来る。是は聖ソフィア寺に於いても稍同様である。勿論聖ソフィア寺と同じく、カアリエ寺とても純然たる回教寺院として使用せられて居るのである。是は土耳其人の雅量と謂ふべきでも、あらうが、異宗旨の斯かる遺跡をも廢棄せずして、其儘己が宗門の寺院に充て、居るといふのは、實に西洋の史乘で見ると奇妙とも何とも申しやうが無い一條である。併し武士たる土耳其人には、到底之に優る寺院建築の出来ぬことでもあるか、將た亦人種には勝ち得るも、文明には勝ち得ぬといふことであるのか、基督教は人に於いては敗者であつたが、物に於いての勝者であるのであるが、凡そ斯かる物の存立は、人の勝利を完全にすることに於いて、結局大なる妨障となるは疑ひなき事柄である。

土耳其の軍隊こそ、頗る紀律ありて見るに足るものである、役所でも陸軍省のみは目星しき建築となつて居る。

人の勝利を不完全にする
軍隊

風俗

君府所見

巴爾幹半島に入りては、風俗の變化は、匈牙利を經來たる目には、次第々々であるから、餘り目立たぬ事であるが、併し顧みて、埃太利と土耳其とを較べると、實に驚くべき對照がある。セルヴィアの東の境なるピロト驛で、人々が襤褸にて造れる草鞋を穿いて居るのを見た、其造り方は我國の草鞋と等しい。驛の名前若くは様々の揭示などに於いて、露西亞文字の此所まで入り込めるは、一寸驚かるゝ事柄である。羊を牧することは、匈牙利よりは巴爾幹諸國に入りて愈々繁昌すると見えた、牧羊者の風俗は、草鞋を穿き、合羽を著、四尺裕かの棒を持ち、宛がらの牧師である、其顔が皆赭黒なるも頗る可笑しい。

君斯坦丁堡に入りて、先づ著しく感ずるは、富の程度の極めて低く見ゆる事である。家と云へば殆ど總べて木造であること、それも頗る傾けるものゝ多いこと、街衢の不整頓にして狭く、且つ歪み、我大阪を一層貧弱にしたやうに見ゆること、到處喪家の犬の累々として眠れること、物賣るやつこの聲囂まじきこと、物をつひばみつゝ道行く者の多きこと、いとわびしともわびしい。左れど山の手ともいふべきペラの北の邊りには、中々に莊麗なる邸宅が多い、衆議院議長官舎の邊りはいづ

男女不同
室

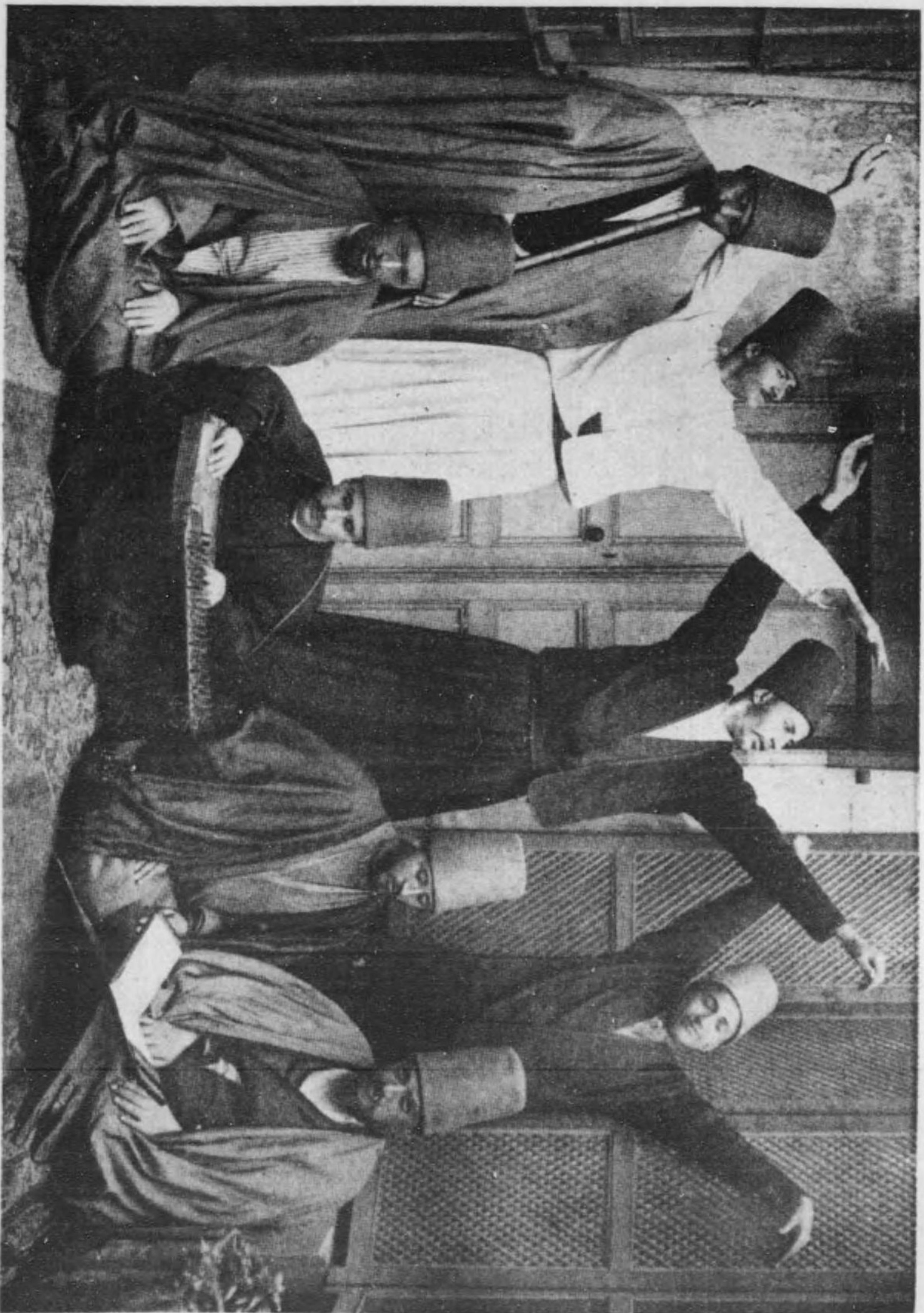
女は女
らしく
男は男
らしく

坐禮
論者何と
か見ると

れ劣らぬ態に見受けた。

男女の室を同じうせざる風俗は、殆ど極端にまで厲行されて居る。乗合汽船と云はず、乗合馬車にまでも此風の厲行が及んで、各女の室を仕切つて居るは實に煩しき有様である。乗合馬車の如きは、我東京の先年の鐵道馬車よりも遙に小さきに拘らず、箝め外しの出来る中仕切りがあつて、乗客の多少に応じて女の部分を伸縮する。女は皆な黒巾を以て覆面せるが上に、更に斯く隔離されるのである。併し之と關聯せる事實と見なければならぬことは、女は女らしく、随つて男は男らしく、歐羅巴の大都會にある如き女のやうな男又は米國にて見るが如き男のやうな女は此國では見られぬものと見えた。

坐禮は此國の固有にして、且つ一般普通である。家には皆坐蒲團を備へてある。寺の廣き禮拜所に、一面に段通を敷詰めるも之がためである。坐るにも膝を疊む、全く我國俗と同じ、然るに奇妙なるは膝が曲らず、身長の大なることは比々皆然りである。されば坐禮は必ずしも體形を害せぬことでもあるのか、是は其道の人に問はま欲しき事である。



庭園の趣味は殆ど日本的である、少しく宅地に空地があるときは、直ぐに梅松等を植ゑて庭園とする、聊か立ち優れる社會では、細小なる泉水を造り瀧を落しなどして居る、木の植ゑやうも西洋てよく見るが如き、幾何學的幼稚園的ならずして、洵に趣がある。言語に就いては、其正字學エチモロジイは全く我國の言葉と同じ様に聞いた、人種學者の定説は流石に動かすことが出来ぬのである。

君斯坦丁堡の對岸スキュタリの大墓地にて、楡にて形は箒に似たるが森を成せるを見れば、近頃持嚙さる、ビョクリンの畫材も想ひ出された、如何にも此樹は感じの強さを表現するに好都合の品である。折柄葬式あり、棺を埋める際に僧侶の讀經せる、其音調は眞言宗の陀羅尼其儘であつた。

女人が被衣カウザを被れるは、恰も我平安時代の觀がある。男女の關係は併し、さまで亂れて居らぬやうである。蓋し女人が浮氣となり、能働的となり、式部、納言などの輩出するときに、男女の關係は濫に成り行くことであるが、此國の引込思案なる女人にては、さまでの事も無いものと見ゆる。一夫多妻は公然に行はれるが、それは富める者、且田舎に多い事、都會には極めて罕なる様子である。

バルカンの形勢

土耳其國。

デルヴェイシの舞踊歌唱。

風俗一斑。

金曜日の正午國王の寺詣てがある。是は此國の古き例で、金曜は耶蘇教國の日曜と同じ日である。前の王の時には、近衛の師團が總出て、儀容の盛なるを極めたことであつたが今の王に至つて最も簡略になつたと云ふことである。されど尋常の主權者の外出とは甚だ異にして、今でも尙頗る大業なるものである。開いたる馬車で、人民歡呼の間を王様が進まる、だけは、聊か意外の心地した。

四 土耳其の革命

今や我々は、近く此國に起りし世變について一顧せねばならぬ。

土耳其の革命は、其起りし地點が歐洲の一角に在りし事と、其時期が日露戦争以後、亞細亞の革命に次いで起りし事と、而して其民族が歐洲民族の以外に在りて、日本を除くの外比較的頗る開明に進める民族なる事とに於いて、世界の注目を惹いた所のものである。今其原因を搜るに、之を遠因と近因とに別ちて著眼せねばならぬ。

土耳其革命の遠因は、先づ、近世文明の發達より、人間の思想の改善を致せるに歸せねばならぬ。抑々近世の文明は、人間の自覺大に進み、其外に向ふや天地萬有の實理を究め、小にしては之を利用厚生の術に應用し、大にしては國家社會乃至人間世界の發達に資するに至つた。是に於いて其政治上に於けるや、自由思想、立憲制度に對する希望は、火の燃ゆるが如く潮の湧くが如く、滔々として列國衆民族を席捲するの勢を成し、是に於いて既に立憲自由の政治制度を施けるものは益々其基礎を鞏くし、未だ此制度を施かざるものは、次第に其風下に立つて之が風化を受くるに至つたのである。

土耳其の政治及び社會の近代化せるは、千八百四十年來の事にして、殊に千八百五十六年以來は、其勢が駁々として進んだのである。是に於いて回教を以て社會統制の根柢と爲せる、其社會組織は漸く變遷を見るに至り、回教に依れる社會統制の權威は次第に衰耗するに至つた。之に加ふるに、土耳其の社會體制は所謂軍國主義の組織であつたのが、其次第に弊害を露すに至りて、土耳其社會全體は漸く近代化するに至り、之と同時に土耳其の國勢は次第に衰頹し、而して其有形上に現れ

たる事件としては、國家社會の次第に分裂するを見るに至つたのである。斯の如きが即ち土耳其革命の遠因より、次第に其勢を馴致するに至つた次第である。

近因

日露戰役

我輩の豫言的中

土耳其革命の近因は、先づ以て世界歴史の一大轉回期を爲せる日露戰役を數へねばならぬ。抑々日露戰役の起らむとするに先だちて、我輩は夙に日露戰役が當に極東の平和の爲我日本の體面と利益とを擁護するが爲なるのみならず、併せて亦世界の平和の爲に、及び露國其者の開發の爲に避くべからざる所以を論じたのである。當時我輩は、日露戰役の結果として、必ずや露國の内政に一大變革を來たし、而して其變革たるや、近世文明の要求、人間思想の要求たる、立憲自由の政治主義及び制度に於いて在らねばならぬことを豫言したのであるが、豫言は餘りに速に的中し、戰役未だ半ならざるに、既にオデッサの大反亂となり、而して露國は憲政を施くことを天下に向つて公約するに至つた。日露戰役の一大結果は、宗教的及び政治的專制主義の露國をして、實に政治上に立憲自由の制度を施かしむるに至つたことに於いて存する。然るに之と同根的現象と稱すべきは、獨り露國のみならず、土耳其も亦憲政を施くに至り、而して支那も亦憲政を施き、及び革命を惹起する

土耳其の憲政

軍人の革命思想

革命の發展

に至つた次第である。是れ皆日露戰役の殆ど直接と謂ふべき大影響にして、實に世界に向つて及び歴史の變遷に向つて、日露戰役が偉大なる効果を致せる次第の實績である。

實に土耳其の憲政は、嘗て千八百七十六年既に一たび試みられたことがあつた。併しながら世界の機運未だ斯の如くに進まず、土耳其の内部の要求も亦未だ今日の如く進み來つて居らなかつた所から、此試みは久しからずして消滅に歸した次第である。然るに近因中の近因と謂ふべきは、近時サロニキに於ける陸軍軍人の間に、改革的秘密結社の竊に、而も手堅く起り來つた事である、而してサロニキは有名なる海港にして、海軍も亦尠からざる新思想を懐くに至つた。此事は恰も亦右同根的現象の國々に於いて類似の現象を有する次第で、即ち露西亞に於いては、歴山一世の下に於ける露西亞の改革黨及び現今の支那に於ける革命黨、此兩者は正に土耳其に於ける陸海軍人の秘密結社、若くは新思想運動と匹敵すべき事と看做すべきものである。

斯の如き遠因及び近因よりして發生せる土耳其の革命の發展は、頗る多くの興

性質主義

味を以て我々觀察者の注目を惹く所のものである。抑々土耳其の革命の性質主義を約めて言ふならば第一には燃ゆるが如き愛國心と殆ど極端とも謂ふべき自由思想とに於いて其根柢を有する。所謂青年土耳其其と云ふ名目は以太利の復興に於いて一つの綱領として流行せる青年以太利の綱領と同様の響を有する。第二は斯の如く新思想自由思想に根柢を有して居りつゝ、然もイスラムは土耳其民族の最も著しき最も貴き標識として尊敬する。第三にオットマン帝國をば強大なる國民社會とすることが希望である。即ちオットマン帝國を一個の王室の私有物若くは王室の勢威を張る所の機關とするに非ずして實に近代の意味に於ける一個の國民社會としてオットマン帝國の強く大にかつ榮ゆるを希望しつゝあるのである。第四に人種及び宗教の別なく議政權及び兵役の普及を旨として居るのである。

一致進歩

兩策源地

斯の如き主義性質に於ける其發展の第一歩として茲に革命黨一致進歩黨が出来たのである。抑々此一致進歩黨は其本部をサロニキに置き而して支部を巴里に置いてあるサロニキと巴里とは實に一致進歩黨の東西内外相呼應する二個の

アマメド
ドリザ君

時機到る

焦點と謂ふべきである。サロニキ團體に於いては武人が最も目覺しき重要な活動を爲した實に是等武人の中には憲法といふ言葉は恰も魔語の如くに響いたのである。蓋しサロニキは希臘人猶太人の商業中心にして總べて政治上と云はず社會上と云はず傳播的策源地としては形勢の至便なるものがあつたのである。巴里團體はアマメドドリザ君を中心としメシヴェットと稱する機關紙を發行し武を離れたる文を以て舊慣多き本國を離れたる文明式思想及び態度を以て盛に一致進歩黨の信條主義を鼓吹し宣傳し發揚したのである。我輩は千八百九十九年より千九百一年に至る前回の巴里滞在中親しく此アマメドドリザ君と交際し互に相往來して天下の大勢を談じた。當時君は齡既に四十而もなほ未だ室あらず其令妹セルマリザ女史と共に巴里のブラアスモンジ第四番館に居をトして盛に其愛國の熱烈なる運動を筆と舌との力に依て鼓吹しつゝあつたのである。斯くて革命黨の仕事は時到期り千九百八年を以て一滴の血を灑ぐことなく容易に結果した次第である。アマメドドリザ君はメシヴェットの同年八月號を以て廢刊の辭を麗々と誌上に掲げ以て其雜誌事業を休め順潮に乗じて歸國し歸國するや

忽ち擧げられて第一期の衆議院議長となつた。ガラアスモンジ第四番館の四階に漂浪せる當年愛國の志士は、一躍して新立憲國の衆議院議長の榮職に就いたのである。

根柢の薄
平民の缺乏せる社會

併しながら斯の如く容易に結果せられたる土耳其の革命黨や其革命運動の根柢は如何にするも薄弱なるの遺憾を存するを免れぬ。今之れを列舉せむに第一に土耳其の革命運動には、社會的の素地の缺乏がある、抑、土耳其の社會たるや、宗教關係若くは軍隊關係の人士の外、平民の缺乏せる社會であるのである。實に土耳其の人民に於ける、平民としての發達は、始と意想外に憫れなるものがあるのである。平民を組織すべき第一の要素は農であるが、土耳其の農民は、其農業と共に極めて幼稚である、農具は多く木製にして、何等鐵製の農具の見るべき物が無い。平民の第二の要素たる工業者は、全國に跡形も無い、ただ些か外人の起業を其所此所に散見するが、これも何等土耳其人を刺戟して之に向はしむることは無いのである。平民の第三要素たる商業者に就いて見るならば、商業は全然希臘人、アルメニヤ人、及び猶太人の仕事に歸して居つて、土耳其人は何等與り知らぬのである。土耳其



土耳其青年土耳其黨首領、衆議院議長アマメド、リザ、ベイ

に於ける大なる商人は皆デメスである、デメスとは回教人種以外の人間を總稱して云ふ所の名稱である。

斯の如く革命を起すに足るべき社會的素地の缺乏せるあるが上に革命黨員の人々の修養の缺乏及び革命黨員の組織の缺乏が亦大なる弱點として存するのである。全體土耳其の革命は實際上の必要より割出したと云ふよりも寧ろ全く學問上の事件智的運動の性質を有して居るのである。近く之を喩ふるならば恰も我明治十三四年頃の自由黨の類て何等實際上の經略手段を有して居らぬ唯、ルソオの民約論一冊を讀んで直ちに自由は天賦なりと唱道し、一躍して空想的自由主義を此歴史あり秩序ある我帝國の社會に實現せむと欲した類の面影を存するのである。そこで土耳其革命黨員は學問上の結論を其儘實行せむとするが爲に議論徒らに多端にして結合的推讓的精神に乏しい。即ち聊かの議論の差が直に實際運動に於ける分裂となり、妥協交讓が行はれて以て強大なる團結を作るといふ事は殆ど不可能なる形勢に於いて在るのである。

三つに革命黨員なるものは、西歐思想に浸める者の一の群たるに過ぎず、烏合の

衆たるに過ぎずして、甚しく國士の風骨襟度を缺いて居る。凡そ斯の如きは孰れも皆革命運動の根柢を薄弱ならしむるに與つて大に力あるものと云はねばならぬ。

是に於いて豫想と實際との齟齬忽ちにして現れ來り、是に於いて一般民人の失望は忽ち反動的の激烈なる勢を以て襲ひ來つたのである。抑革命黨員は多く是れ新聞記者であつたので、彼等は一朝革命の事成らば功名富貴手に唾して致すべく、高位高官期せずして我が掌中に轉げ込むべしと豫想して居つたのであるのに、革命行はるゝも、獵官は全然不可能であつた所から、彼等褊狹なる新聞記者等は、相互に憎惡し排擠し、而して之が爲に筆と舌との利器を有する彼等は、實際以上に其醜態を猛烈に曝露した次第である。

次に種族發展の切なる望は、直に希臘人、アルメニア人、ルウマニア人等の間に起つて來た。蓋し彼等は以爲へらく革命に依て、必ずや各々自個種族の發展を致すを得べけむと、然るに實際は勿論斯の如き事の可能であらう筈はなく、革命既に行はれて、而して彼等各個種族の發展は、何等其歩を進むるに至らなかつた。是に於い

實際と齟齬

獵官の不可能

種族發展の不可能

國威の恢復不可能

民力休養の不可能

革命黨の分裂、自由協會

回教協會

て彼等の失望、隨つて革命に對する不人氣は、直に反動的の勢を以て現れて來た。

三に又平常に於いて誤想して居つた事は、彼等は過去の國威の隆盛は、憲法一たび施かれむか、直ちに恢復せらるべしと爲ししに、何ぞ料らむ憲法既に施くも、國威毫も揚らざるのみならず、歐洲列強は却て怪訝の目を以て、若くは危む所の老人の眼を以て、兒戯に類する土耳其の革命を目しつゝ、あるといふ状態であるのである。第四に農業地主も亦革命一たび起らば、民力休養條ち行はるゝこと、思惟せしに、是れ亦空望に了つた。乃ち之を要するに、右等豫想と實際との齟齬の總結果として、革命黨に對する一般の失望を來たし、人民の信用は尠くとも一時全く地に墜ち、而して左に述ぶる二つの結果產物が出て來つたのである。

其第一は即ち革命黨の分裂である。一致進歩黨の中から、自由協會、ユニオン、ベラル黨が新たに分裂の結果として生じ來つた。其主要なる目的は何事ぞ、實に一致進歩黨の覆滅に在るのである。彼等はアアメッドリザ君を誣ひて、王アブドルハミッドに買收せられたりとまで惡罵を浴せかけつゝあるのである。第二は保守黨が新たに成立し來つたことである。此黨は其名を回教協會コミテエモハミダと云ひ、ムウラッド・ベイを

反革命的
事變

首領とし、ミザンと稱する機關紙を有し、實は陰に王を中心とせる保守的反動の一派である。斯の如くにして土耳其の革命運動は、創業功未だ半なるにも及ばずして、早く既に見苦しき分裂を遂げ、敵黨に假すに利器を以てし、其前途轉た困難を覺えしむるものを生じた次第である。

斯かる形勢の下に於いて、反革命的事變の起るのは固より踵を回さぬ次第である。千九百九年四月八日、セルベスチエ新聞記者ハッサン、フエミは、ガラタ橋上に虐殺せられた之を動機として直に反革命的事變が始まつた。ハッサン、フエミは單に無名の一記者たるに過ぎぬ、併しながら此虐殺を敢てせる者は、一致進歩黨の差金に出たことである。と一般に噂せられ、既に人心一致進歩黨に飽いて居つた今日に於いて、ハッサン、フエミは、端なくも自由思想の殉教者と呼ばれ、而して、至陰に一致進歩黨の發展を擇ばざりし所の王アブドル・ハミッドは、ハッサン、フエミの横死を特に旌表せられた次第である。大なる豫想と希望とを以て迎へられたる千九百八年以來の土耳其革命の段落が、先づ斯の如くにして著いたのは、我輩特にアアメド、ドリザ君に對し、併せて、一般土耳其の有志諸君に對し、乃土耳其の國運に對しては、甚だ氣

革命の將
來國會

の毒に存ずる次第である。爾來革命の氣勢甚だ揚らざるは即ち當然の結果である。

然らば則ち土耳其革命の將來は如何になるであらうか。暫く我輩をして退いて靜に新たに成立せる國會の組織を觀察せしむるならば、議員の定員二百三十人、其現員二百二十八人、内百七十七人が回教、四十八人が耶蘇教で、而して三人は猶太教である。右回教議員には、土耳其人百八人、亞刺比亞人四十五人、アルメニア人二十一人、クルド人二人、ドルウズ人一人ある。耶蘇教議員の中には希臘人二十七人、アルバニア人十人、ブルガリア人五人、セルヴィア人四人、ウラアク人一人あり、マロニイト人一人がある。猶太教は言ふまでもなく猶太人三人である。若し夫れ黨派別の點より觀察するならば、中央黨即ち一致進歩黨は百五十人、亞刺比亞人、アルメニア人、アルバニア人、希臘人、スラヴ人、及び土耳其人の中央黨以外の人を總括せる自治派は七十五人である。猶太人は固より此外である。自治派の首領は即ちサラヘッデン公である。國會の組織既に斯の如くであるならば、是だけを以て見るも、國會の力が甚だ大なる、實行的の勢力、經綸的中樞となることは頗る難いもの

軍隊

國會既に然り、然らば軍隊は如何であるかと云ふと、近年獨逸より有名なる軍政家フォンデル・ゴルトツ將軍を聘して、大に訓練に力を竭して居る、凡そ土耳其の衆機關に於いて、軍隊の勢力は最も有力であり、土耳其の堅實なる發達の爲に、軍隊の實力は最も有望である。

若し夫れ國家の堅實なる發達のためには、其財政が少くとも稍堅實なる基礎の上に立たねばならぬ。土耳其の財政は、多くの專制國の末路に於けるが如く、言ふまでもなく頗る紊亂を極めて居る。故に眞正なる社會的國家的革命を遂げむと欲せば、嘗に立憲自由の政治制度を施くのみならず、先づ以て財政の改革を遂行せねばならぬ。然るに土耳其の財政の改革は、實に甚だ困難である、土耳其には一種宗教上の中央金庫とも謂ふべきワクフと稱するものがあるが、不倫ながら我歴史上に喩ふるならば、恰も大藏に對する内藏若くは齋藏に比すべきものである。而して土耳其は此ワクフの内藏徒に大にして、而して國家の財政即ち大藏は、甚だ疲弊を極めて居る次第である。一面之を地方の財政の根柢たる土地財産に見るも、

財政

教育

是れ亦其制度極めて混亂して、今日の支那に於いて見るが如く、假に地租を一種の確實なる財源として賦課せむとするも、全然不可能の状態に於いて在るのである。國家の堅實なる發達のためには、亦教育の如何を觀ねばならぬ、然るに土耳其の教育は、既に前に瞥見せる通り、其高等教育、其中等教育、併せて其初等教育、共に殆ど未だ其端緒にも就かざる状態に於いて在るのである。土耳其の政治家は、眞に國を愛し、國を興さむと欲するならば、必ずや茲に亦一つの大きな事業の殘つて居ることを注意せねばならぬ。

土耳其の法律は、コオランの上に立つて居る、即ち回教の教典が亦法律の淵源となつて居る。故に土耳其の法律は、歐羅巴諸國との風俗慣習、法律生活の上に、尠からざる不調和を來たし、而して法律其者も亦發達することが困難であり、法律の根柢は、宗教と共に動搖するを免れぬ。而して其一つの重大なる現れとして、神制と議院制とは、到底調和すべからざる不整合の状態に在る次第である。土耳其の各地方は、ミレットと稱する聚落が社會の單位である、假りに之を宗村と名づけたら宜からう、即ち宗教を以て其結合原理とする所の俗世に於ける自治體である。此

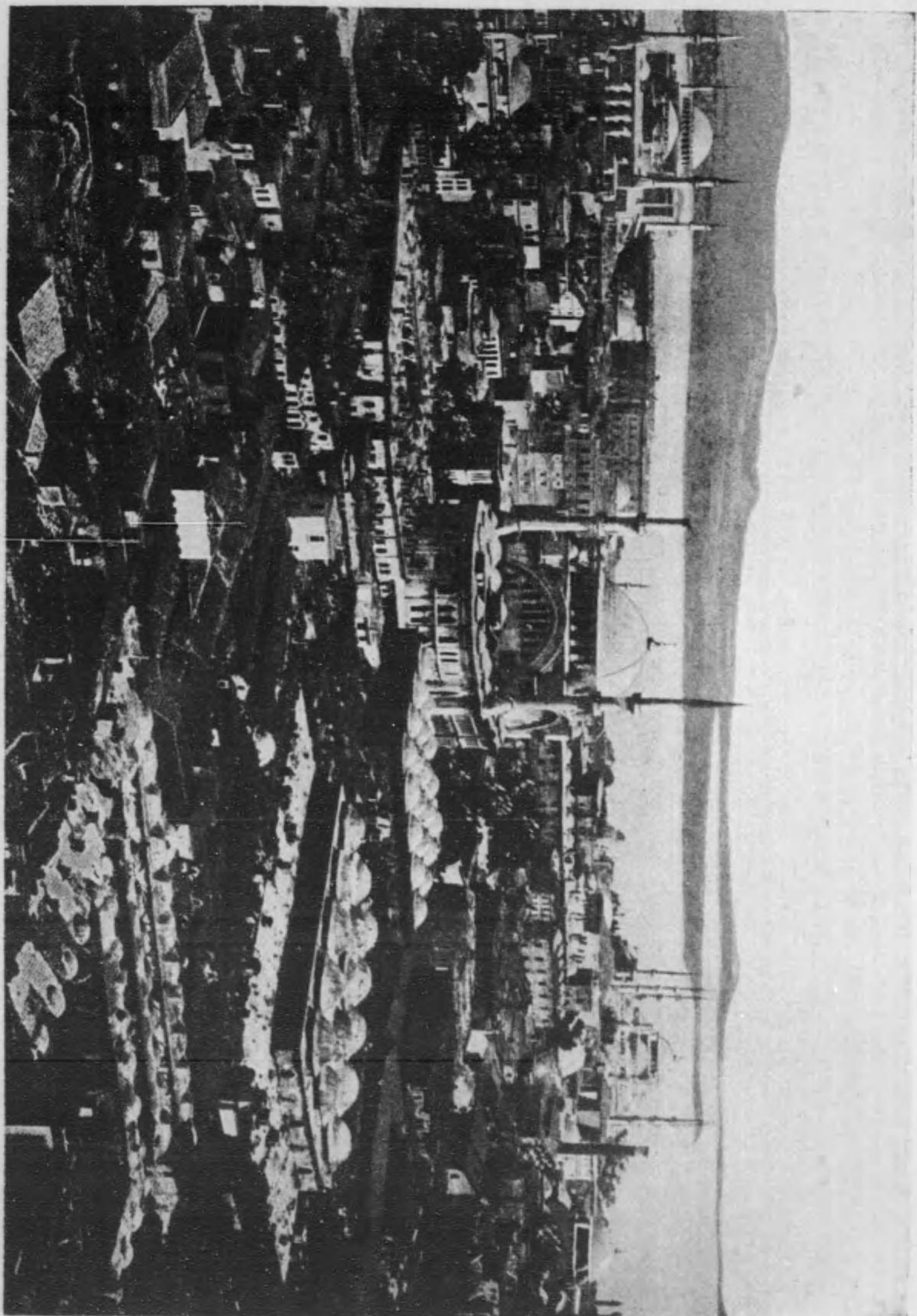
法律

宗村

宗村の長は随つて必ず僧侶であり、宗村の村會議員は俗人が之に任ずる。宗村には人別帳あり、凡そ財産の管理も、登記も、相続も、皆此宗村役場の管轄に屬し、裁判も亦宗村役場が之を爲し、而して讀んで字の如き寺小屋教育は亦此宗村に依て行はれる。斯の如き單位より成立する土耳其社會の政治制度は、到底新しき歐洲的法治主義とは調和すること能はず、又革命以後の土耳其が採用せる所の自由主義の上に立てる議院制度とは調和すべき筈が無いのである。然らば則ち革命の新機運を飽まで實行せむと欲するならば、地方自治體社會單位の根本より、或は改革、或は革命、或は破壊を敢てするの決心を要する次第であるのである。是れ實に革命の前途に横はれる非常に重大なる困難事と云はねばならぬ。

バクシシ

是は極めて些々たる事であるけれども、土耳其に於けるバクシシの流行は實に著しきものである。支那に於いて官吏には俸給無く、月給と云ふ名稱の代りに養廉銀といふものを給し、然も官吏には賄賂公行し、コンミュシンの如きは當然の約束となつて居ることであるが、今土耳其のバクシシは亦此類である。下は立ん坊より上は總理大臣に至るまで、バクシシを握るを以て尋常茶飯の事と爲すといふ状態



土耳其國。君斯旦丁堡府。

バザアル(大勸工場)の市街附近。

左端なる大寺觀はセントソフイア寺、

前面の海は、ボスフォルス海峡より、右の方

マルモラ海に連る、彼方の山々、山

畔の街屋は、是れ亞細亞。

依然たる
前途の暗
懨

スラヴ人
の人口

他人種

であることは、是れ實に土耳其の社會の發展の前途に横はる、非常なる妨礙物と云はねばならぬ。

之を要するに世の所謂青年土耳其黨即ち土耳其革命黨即ち土耳其革新の機運の前途は依然として四ヶ年前と同様に暗懨たるものと云はねばならぬ。

五 全露主義

巴爾幹半島の形勢を論ぜむと欲する者は必ず凡スラヴ主義即ち全露主義に向つて仔細なる觀察を費さねばならぬ。

今人口を大觀するに歐洲に於けるスラヴ人は其數總體一億二千七百六十萬人にして其内露西亞人及びルテニア人八千八百萬、波蘭人千五百五十萬、ボヘミア人六百萬、スロウアク人二百萬、セルヴ、クロアアト人八百三十萬、ブルガリア人六百五十萬、スロウエン人百三十萬である。次に埃太利、匈牙利、露西亞及び巴爾幹半島の他人種の人口は總計三千九百萬である。其内譯獨逸人が千二百萬、匈牙利人が九百

バルカンの形勢

萬、ル、ウ、マ、ニア人が千萬、土耳其人が百萬、アル、バ、ニア人が二百萬、さて希臘人五百萬。即ち右人口を大觀するばかりでも、全露主義の一度は必ず生れざるべからざる運命に在ることは明かであらう。

今全露主義の來歴を見るに、其始まりは實に千八百四十年代に在る。千八百六十年代の中葉に、莫斯科に人種博覽會が開かれた、其折、全スラヴ人種の結合は、必要なりと云ふ説明が公けに掲げられた、是に於いて全露主義の綱領は、始めて汎く一般俗衆の注意を惹くに至つた。千八百八十七年四月二日、聖彼得堡のスラヴ公益協會に於いて、將軍イグナチーフは、全スラヴ人が、ツァールの帝位の下に、結合することを以て、最終目的とせざるべからずと云ふ主張を公けにした、爾後、此スラヴ公益協會は、實に全露主義運動の中樞となつたのである。

全露主義の綱領は、左の四點に約めて擧げることが出来る。第一、スラヴ人の自治獨立權を保全する事。第二、正教信仰を維持し、宣揚する事、正教とは希臘加特力教のことである、即ちハリストス正教の謂である。第三、露國の一致結合を完成する事、即ち全スラヴ主義は、是に於いて一轉して、全露西亞人主義と合一するのであ

全露主義の來歴

綱領

新全スラヴ主義

變態

る。第四、國性剝奪政策を着々實行する事、乃ち先づ第一にウクライン人、及び波蘭人に對して此政策を實行する例へば、ウクライン語を嚴禁し、國語を總べて露西亞語に統一せむとするの政策などが行はるゝのである。

然るに近時に至りて、茲に新全スラヴ主義が発生した、是は實に矢張り露戰役の一大影響と見ねばならぬ、日露戰役は實に全スラヴ主義に多少の變態を加へ、然も數層之を強むるといふ影響を與へたのである。

然らば新全スラヴ主義に於いて、從來の全スラヴ主義は如何に變態せるか。其要綱を擧ぐれば、一つに、信教の自由が加味せられ來つたのである。二つに、國民的發展の趣旨が現れ來つたのである。此二ヶ條は、千九百五年十月三十日の勅令に於いて明かである。三つには、波蘭の自治を許すの傾向を帯び來つたのである、其趣旨は波蘭の自治が露西亞其者に必要であるといふことに基する、即ち露西亞は波蘭に對して幾分緩和主義の政策を執ること、日露戰役後の新局面に於いて其必要を感じたのである。四つに、波蘭と露西亞との近接が、全スラヴ主義には根本的必要ありと認めらるゝに至つたのである。五つに、將來は匈牙利人、ルウマニア人

バルカンの形勢

三三

希臘人而して出來得べくんば、埃太利に於ける獨逸人をも、新全スラヴ主義の大旗の下に包含せむとするの希望を示すに至つたのである。

新全スラヴ主義の手段としては、波蘭に全スラヴ主義の機關が生れ出づるに至つた、クラカウのソロヴァンスキイ、スウアト(スラヴ世界)が即ち是れ、これは一つの月刊雜誌で、千九百六年の創刊である。其標榜する所の主義綱領として、波蘭主義は波蘭以外に弘まらざれば意味を爲さず、波蘭と露西亞との近接、是れ全スラヴ主義の新紀元である、露西亞の没落は直に、是れ波蘭の没落を意味する、若もワルシャウより露西亞軍隊の撤退することがあるならば、是れ直に波蘭の没落を意味する。以上は是れ千九百八年一月の同紙に掲げてある事であるが、抑、這裡何等の消息があるか、聰敏なる讀者は、必ずや多少看破せらるゝ所あるであらう。

是に於いて更に反普運動、即ち普魯西に反抗する所の運動が新たに起つた、有名なる首相の弟にして新聞記者たるストリピンは大に此運動を煽動し、即ち埃匈國のスラヴ民族が亦聯合して、獨逸人及び匈牙利人に對抗する氣勢を昂むるに至つた。千九百六年より、此思想の系統に屬する出版物が頗る多いのである。

凡そ新全スラヴ主義の效果は、露西亞に向つて大に好都合を感ぜしめたのである。既に此思想が斯の如く駸々として、巴爾幹は固より、匈牙利乃至埃太利にまで弘まり來るに至つた所から、露西亞は最早ドナウ河畔に出兵の必要を感じなくなつた。蓋しブルガリアには三十萬の兵があり、セルヴィアにも若干の兵があり、モンテネグロには少數ながら能く訓練された強兵があり、假令埃匈國が強大となつても、埃匈國民の強半はスラヴ人である、ボヘミアは軍隊無きも、其護郷兵が亦甚だ強い、即ち全スラヴ主義若くは新全スラヴ主義は實に露西亞に向つて甚だ其意を強うするに足るものがあるのである。

凡そ名義上より云へば、新全スラヴ主義は舊全スラヴ主義と異なるも、意義は何等相異なることは無いのである。

六 巴爾幹聯合及獨逸の勢力

全スラヴ主義に對して、巴爾幹聯合は、一種の國策として考へられ得るのである。

巴爾幹
蘇教國聯

埃匈巴爾
幹の關稅
同盟

反土巴爾
幹同盟

巴爾幹
ラヴ聯合

併しながら巴爾幹聯合には種々の困難がある。
先づ巴爾幹耶蘇教國の聯合は千八百六十年ルウマニアのカアル王が之を首唱した。維也納の政治家も、東方問題の解決上、巴爾幹に於ける耶蘇教國の聯合は、埃太利のハプスブルグ王家の利益と考へた。
次に埃匈及び巴爾幹聯合の策としては、千八百八十年に埃匈、巴爾幹の關稅同盟策が出たが、露西亞が反對し、巴爾幹地方にも賛成なくして不成立に了つた。
英國の反土巴爾幹同盟論は、バクストンを會長とせる巴爾幹協會の主張で、是は埃匈國と土耳其國との間を裂かむとする策である。自由黨は之に左袒しつゝあるのである。

次に巴爾幹スラヴ聯合は、千九百八年、露西亞の外相イズウールスキイが之を論じた。乃ちブルガリア、セルヴィア及びモンテネグロを聯合し、土耳其とは道徳上政治上に和親の關係を保たむとするものである。是は取りも直さず全スラヴ主義の考である。此勢は又日露戦争に依て進められた。蓋し日露戦争前は、巴爾幹の小國は、露西亞が其自治を脅すことを恐れたが、近頃は安心して聯合同盟に向ひつゝある。

巴爾幹
聯合の困難

獨逸の活
動振り

御手洗

獨逸大使
館

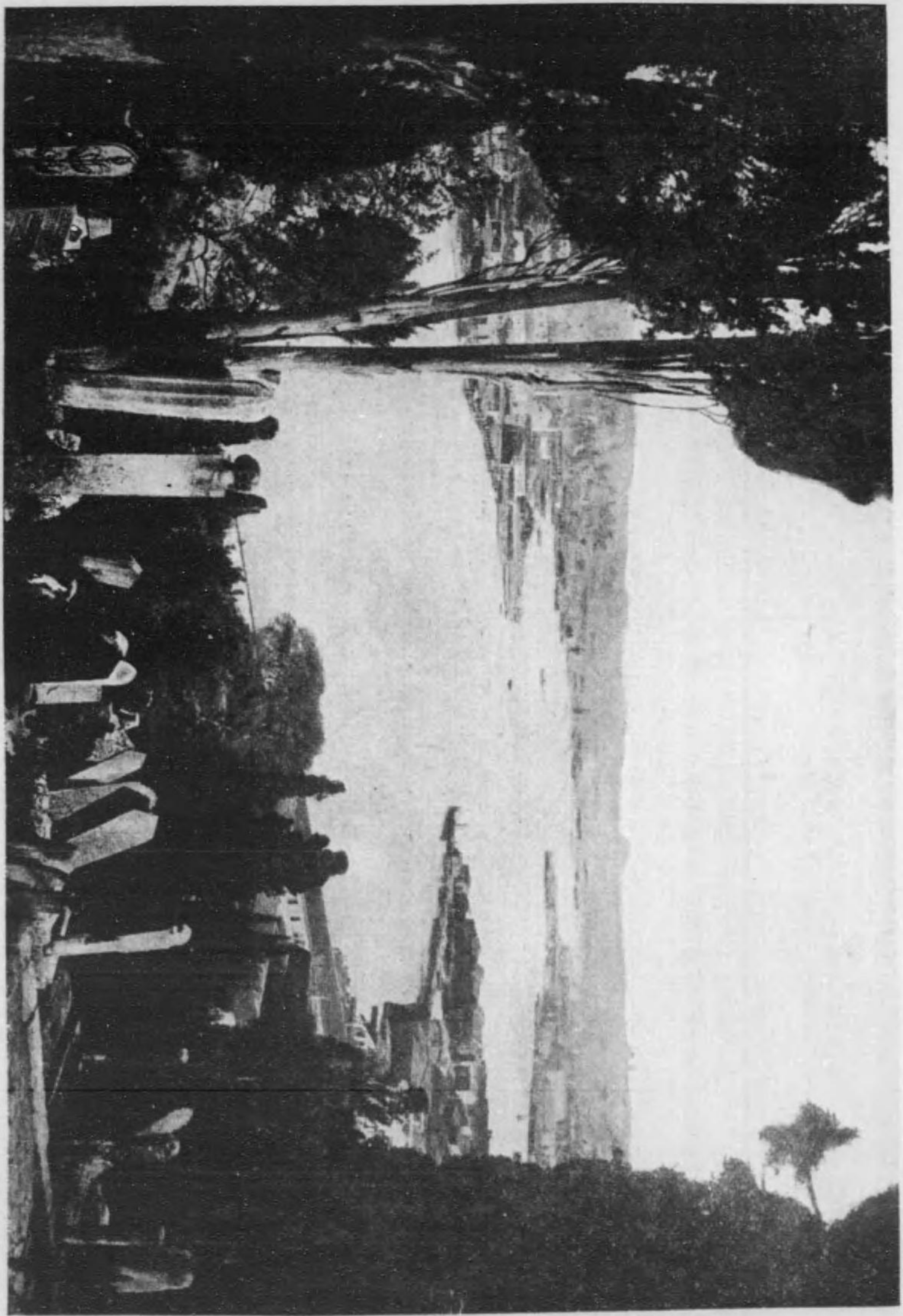
獨逸外交
官僚

是は實に一種の紆餘曲折ある日露戦争の影響と云はねばならぬ。
右の如く各種の巴爾幹聯合の策があるのであるが、要するに巴爾幹諸國は、スカンデナヴィアに於ける瑞典、那威の兩國よりも更に政治上、經濟上、諸の關係の困難があるから、完全なる聯合は容易に期し難い次第である。而して獨逸の勢力は、巴爾幹聯合の困難に伴うて、強大を加ふる關係に於いて在る。
獨逸の巴爾幹に對し、殊に土耳其に對し、目覺しき活動振りを爲しつゝあるは、極めて注目を値する。

君斯坦丁堡の聖ソフィヤ寺の前に、バクダッド鐵道に對する土耳其の合意の禮として、獨逸皇帝が君斯坦丁堡の市民に贈與せる御手洗がある。

君斯坦丁堡に於ける獨逸大使館は、ドルマ、バクチェメと云ふベラ區の山上、金角灣口の海角を壓して立てる、壯大なる白色の建築である。獨逸人は實に勤儉節約であるが、金を使ふに巧みなることは概ね此類である。

獨逸官僚政治の粹は、其外交、部面にも著しい。官僚政治を行ふからには、獨逸の如く、其實を擧げ、其力を逞しうしたきものである。凡そ最も有効に専門的能力を發



獨逸の大
經營

我國の鼠
式議會

我國の猫
式官僚政
治

世界列國の大勢

矣

揮するが官僚政治の一特色である。嘗に官僚をして専ら官の事に任せしめ、非官僚をして官を覬覦せしめざるに止まらず、實に外交政務は外交官僚が専ら之に任じ、他方面の飛入を杜絶し、教化政務は教化官吏が専ら之に任じ、全然他方面からの飛入を杜絶する、之が官僚政治の大なる特色である。是から見ると、我國の所謂官僚政治の如きは、是れ猶虎を描いて猫に類するに過ぎぬ。さて官僚政治國では所謂他方面なる彌次馬連が斯かる老練にして熟達し、海に千年山に千年の代物たる官僚の逸物を捉へて、屢々ぎうの音も出せぬ程の牛耳を執る晴れの舞臺がある、之を名づけて國會と云ふのである。左れば彌次馬も力無くては叶はず、官僚も眞面目でなくては應戦が出来ず、斯くて國會と政府とは切瑗琢磨の機關となり、國民は安心して國運の發展を享樂することが出来る。我國の議會の如き、動もすれば未熟なる官僚、猫式官僚にすら翻弄せられむとしつゝあるは、夫れ將た何の面目であるか。政府、議會、國民、孰れも今少し眞面目にならぬ以上、獨逸の如き國運の發展は當分斷念する方が宜いのである。

話は、大分餘談に入つたが、我輩は、君斯坦丁堡に遊び、獨逸大使館の構造に見、亞細

土耳其國。

君斯坦丁堡附近、

エウヅブ墓地より金角灣を下瞰するの景。

亞の對岸、ハイダル、バシヤに於ける、バクダッド鐵道の起點、巍然たる、ハイダル、バシヤ大停車場を見、其亞細亞歐羅巴に跨つて雄偉なる形勢を制するに足るべき廣大なる堂々たる規模に於ける、獨逸の經營を見、而して又君斯坦丁堡に於いて、早晚我國が一個の大使館を置くことの必要ある事を洞見したのである。俱に遊べる陸軍將校と共に、獨逸大使館より程遠からぬ所に於いて、我輩は一つの豫定地を論定したこともあつた。ハイダル、バシヤの停車場に起り、蜿蜒として千里を横行し、遂に波斯灣に達すべき、バクダッド鐵道の經營の如きは、實に輓近獨逸帝國の活動の由々しきものと云はねばならぬ。之を終生の恨事として、骨を此停車場の向ひの山に埋めよと遺命せる英國大使、オオコンノルの氣概も面白い。スキタリ及びハイダル、バシヤに遊びて感ずるは、世界の大きな奕棋である。

七 總括

凡そ巴爾幹半島の形勢を論ぜむと欲する者は、埃、太利、匈、牙利及び巴爾幹を、一

バルカンの形勢

の物として解決せねばならぬ。

二大勢力
英吉利

之を牽制する二つの大なる勢力は、ゲルマン及びスラヴである。埃甸及びバル幹は實に此兩大勢力の角逐の場である。而して英吉利は南の方埃及附たりシブロス及びクレトより牽制的勢力たらむと試むるが英吉利の現状は寧ろ防禦的であると云はねばならぬ。

土耳其

土耳其は亞細亞及び亞弗利加に勢力を有するを以て、他の諸の民族よりも若干有力である。併しながら回教及び其風俗よりして、其が物質的、經濟的大發展を能くすべしや否やは實に問題である。併し風俗は由來後天的のものである。社會的政治的の大革命が若しも能く行はるるならば、風俗の如きは、尙之を矯め之を革むるの望が無いではない。

當面と究

右二大勢力の中、當面の均衡、經濟的優勝がゲルマンに在ることは明かである。併し究竟の均衡の那邊に歸著すべきかは、一つはスラヴ民族及びゲルマン民族の同化力の如何に依て決すべきである。

第六 希臘の古今

一 風物

チャイルド
F D ハロルド

嘗てパイロンのチャイルド・ハロルドを読み、若草句よ春の彌生の日和に、南歐羅巴の一角に歐羅巴文明の淵源地を訪ひし多恨の詩人の感懐に、轉た感情を惹きしことを記憶する。三月十九日の朝十時、君斯坦丁堡を船出して、舊跡多きマルモラ海を渡り、夜九時より十時の頃に、ダルダネルス海峡を行き過ぎた。兩岸の市街、燈火明滅の所、新月半天に懸り、星斗闌干、徐ろに船の舳に切らるる、濛々たる波の音を聴きつゝ、當年クセルクセス大王の夢の迹を、春月の淡き光に迎つた。

小雨をば降る三月二十日の午後一時、我船は希臘、ビレウスの港に入つた。馬車にて二里許りの、雅典の舊跡にと急ぐ、北歐羅巴とは、甚く氣節の違ひがあり、霸王樹

ヒレウス

棕櫚蘇鐵の類は云ふも更なり、木々の綠葉すら今は既にさばかり新たなりとも見えず、野は一面に萋々たる芳草を見、麥も稍秀てむとする態、我國の鎌倉に較ぶるも一月餘りは早いやうに見受ける。斯かる氣候の國柄なれば、希臘人の裸體を好み裸體の習慣を有したことも幾分説明さるべく、美術の形式も自ら明かなるやうに思はるゝ次第である。

二十一日の朝、取敢ずアクロポリスの遺墟を訪うた。堅き岩より成立てる一つの丘を西の方より上り行き、古の階段の迹を覺束なく踏み行きて、先づプロピレエの門の殘墟に入り、右に精巧なるニケ堂を訪ひ、更にバルテノンの莊麗廣大なる遺墟を訪ひ、エレクテオンの優雅なる建築を見、古の政治の稍簡易なるにも驚かれた。是等はいづれ古の民族の繁榮と發達との路ならぬはない。

ニケ堂より南を展望すれば、サラミスの入江、アッチカあたりの山々、近くはピレウス、フアレロンの寄る波さへ鮮かに古へ今の物語をしつゝある。さては地中海及びその中の島々、古の神話人の歴史の活ける舞臺も、今我が眼前に現れて居る。

リニカベントが岡の夕陽こそ心行くばかりの眺めてあつた。此岡は雅典の東北

アクロポリス

ニケ堂の展望

リニカベントの夕陽

の一隅に在る孤つ山で、ピレウスに船が入り着く前、遙にアクロポリスの古建築と共に、逸早く我々行客の眼底に入り來つた所のものである。時は三月二十三日の夕暮六時頃である。岡の上に登臨すれば、近くはアクロポリスの敗零、二千年の昔を語り、右に續く入江はサラミスの海戰の跡、キレエヌ、アガレオス、メガラの山々、その右に連り、入江のあなた、左にはエギナの島山夢の如く、夕日は正にキレエヌの山の端に落ちかゝれるに、ささらぎ十二日ばかりの月は、東ヒメタトス山の上にさし昇つて居る。今の雅典も、小さいながら一つの獨立國の首都として、さしも生氣の無きにはあらねど、二千年來、奴隸の苦域に在りしながらの民を、民としては、これら古語る遺蹟の莊大に酬ゆるに足るであらうか。さばかりの首都の賑ひを眼の下にして、さながらに淋しきは古希臘の遺蹟の影である。

ファイレエの野の春望は、其昔しバイロンをして古の希臘文明を偲ばせた所のものである。今はプラトオンの墓、アカデミイの遺蹟等尋ねるに、由なく、丈高からず趣味豊かならざる建築が、彼方此方、三々伍々、點在するのみである。此野を圍んで、南方は海、東北西の三面は山々である。雅典の地勢は恰も我が京都に似て居る。而し

ファイレエの春望

空氣の都

て鐵道の開通も、此叢爾たる半島の首都のことであるから、大なる運搬力あるべしとも覺えぬ體裁て、文明の利器が古來の遺跡を蹂躪するの少きは喜ぶべきも、電車鐵道の外、餘り二十世紀の陸上交通の勢力の多く及ばざるが如き感あるは、さらだに寂しき此舊都をして、一層の寂しさを加へしむるに足るものである。

併し此土地は實に空氣の良き所である。日光も充分であり、水蒸氣も亦充分であり、而して此三方を圍める山々は、孰れも此土地の空氣を清潔にするに與つて力ある。斯の如きは實に此土地の人氣に影響し、此土地に棲む民族の性格にも影響すべきにて、此點に於いて、今の希臘人は、フィチアス、ベリクレス等と同様の恩恵を、天より享けつゝあるものである。

戶外生活

今日こそは裸體の人を見受けることが多くない、准裸體の如き服装も、國際的となれる服装風俗の影響として、之を見むとするも見る能はざる次第であるが、併し戶外生活は、今日と雖も頗る之を營む者が多いやうである。勿論今日は劇場の如き、或は國會の如き、皆相當の建築を有して居る。併しながら古の希臘に在りては、人民が集會して國家の政治を議する所は實に野外に於いてし、劇場の如きも天井

劇場

スタヂオン

虚榮

を蔽はざる、唯、階段を以てせる座席、即ちアンフテアトルが築かれてあるのみである。ヘロオドのオデオン、パプスの劇場の如きは、今日に於いて其敗殘の遺跡の尙歴々として見るべき者であるが、其座席には、定客と見えて、大理石の座席の所に、富める市紳の家族の名が彫刻せられてあるのも、少からぬ二千年前榮華を盡くし、此處に藝術を翫賞せる其遺跡が今あり、と見らるゝは、實に、云ひ知らぬ思ひもする次第である。併しながら、今日も亦此土地の戶外生活に適する事情は依然として變らぬ。近年全く落成せるスタヂオンは同じく階段座席式で、實に四萬人を容るゝに足る所である、其用材は悉く白色の大理石を以てし、世界に有名なる米國ハヴァリアド大學の同様の建築に較べて、尙三割だけ廣大なるものである。

凡そ戶外生活の盛なる所には、必ず虚榮心の熾なるを見る。蓋し一家族爐邊に打集りて、團欒の樂みを享くる時には、何等の虚榮を容れず、虚偽を容れず、眞に心と心との打解けたる温情を味ふことが出来るのである。併しながら戶外に於ける社交、家族以外に於ける社交となると、業に既に多少の虚榮が加はり、殊に戶外の一層數多き、大規模なる社交となつては、虚榮の加はる機會が最も多く増すのである。

希臘の今日は姑く言はず、希臘の古にても、戶外生活より、美術の發達、民族體格の發達は必ず之ありしを疑はぬが、之に拂ふ所の價として、希臘の國運の根柢を幾分腐蝕する所のもものがあつた事も、亦大方は想像せらるゝ所である。

二 文明の古今

希臘美術

眦の釣り

希臘美術の自由にして高雅なる、自然の趣を具へて、瀟洒たる趣味を發揮せる形式に捉へらるゝことなくして自在なるに接すれば、愈々基督教文明の壓付けるやうに窮屈なるを感ずる。

アクロポリスの博物館に、希臘美術の萌芽時代よりの遺物がある。凡そ是等の彫刻に現れたる當時の希臘人には、眦の稍、釣上れるが多い、此事は殊に、其初期に於いて著しい。蓋し民族進運の初程に在りては、斯る勇ましき相貌の多かりしなるべく、殊に希臘人は、一夫多妻をも斷行して、未だ今の歐羅巴人の如くさまで女に降服しなかつたことであるから、さばかり眦の下らなかつたことであらう。これに



古希臘の彫像。

ブラクシテレス作、

デオニソス小兒を携ふるヘルメス。

出目

古彫刻

バルテノ
ンの其後

附けたりに注意すべきは、初期の希臘人に較、出目の多かつたことである。これも人情の眞率と好尚の淡泊との表現である。

希臘古代の彫刻の淡然たるは殊に著しく感ぜらるゝ。淡泊の中に高雅の趣を存するは實に古希臘美術の何れにも通ぜざる真相の一つと見ゆる。中に就いて、リアン式最も渾厚雄大如何にもバルテノンに現れたるやうに希臘建國勳典の氣象が充ち満ちて居る。イオニア式は優麗都雅希臘美術さては民主政治の盛時を偲ばしむる。コリント式に至りては既に頗る誇榮浮華纖巧の趣味があり自由を失ひ獨立を失ひ羅馬人の控御の下に在りて、單に文化の淵藪として立て、此地此時代の産物を表明する。唯、オリンピア堂の規模の雄大なる、パドリアン塔の結構莊麗なる流石に羅馬皇帝の尊榮を偲ばしむるものがある。是はパドリアン帝の附基である。

バルテノンは其後耶蘇寺となり更に轉じて回教寺院ともなつたのである。耻かしき繪などが西側の残れる壁を汚漬せるにも知らるゝ。基督教美術の壓迫的な、洞濁にして毒々しき比例を逸脱して不調和なる此を以て彼の古希臘美術に比

べ斯かる美術のをかしき對照に見るも、歐洲の天地がいにしへ今に思ひの外なる大變遷を爲せることが明かに知らるゝ。實に歐洲は文藝復興に至り希臘文明を憧憬するに至つて始めて自由なる天地を拓いたのである。今日尙幾分耶蘇教の名残を留めては居るが其消えて迹無からむ後歐洲文明は如何に進まうか、今より之を攻究するも敢て晚しとせまい。

歐洲史の縮圖

バルテノンが右の如き經歷を閲し來つたのは實に歐洲社會の大なる經驗を縮圖的に自ら經驗したのである。美術も社會の特性、民族の特色を現すものとして見るべく宗教も亦時代の特質を現すものとして見るべきものである。希臘美術の高雅なるに比べて如何に近代の美術さては中世以後の美術の毒々しさよ希臘人の自由なる虚偽なき宗教に比べて如何に基督教のさては其舊教殊に希臘正教の無理なる壓迫的なることよ。希臘の宗教には何等の神科大學をも要せなかつたのである、何等の宗務省をも要せなかつたのである。

希臘の宗教、基督教

希臘羅馬の宗教は其民族の氣力と共に逝き社會人心は何等か新たなる人の耳目を一新すべき宗教を要求するに至つた、此機運を電睨して一つの或物を捕捉し

得たるがコンスタンチンであつたのである。さりながら人心は之に依りて濟はれず耳目の一新は一時に止まり更に新たなる民族が此土を支配するに及びて其清新いな空虚なる頭腦に宿り幼稚なる頭腦幼稚なる趣味幼稚なる精神生活幼稚なる社會生活の中樞として、一千年の間基督教は兎も角も宗教の位に備はつて居つたのである。

人心の解放

希臘宗教と基督教とを比ぶれば、自然と不自然、自由と權力、現實と幽冥、眞實と虚偽との絶好なる對照である。歐西民族が斯の如き基督教に浸潤しつゝあつた時に際し、回教徒の優尙なる事、亞刺比亞文明の優尙なる事が、十字軍に依て此歐西民族にも顯はとなり、さて羅馬法皇の非道に憤激せるが導火線となり、文藝復興と相俟ちて人心の解放は遂に到つた。

解放にも程度がある。回教、希臘舊教、羅馬舊教、英國新教、獨逸新教、ユニテリアン教、等、程度は區々である。

宗教交代

斯く宗教交代は歴史の大勢であるが、絶對的、人心の解放は何時か一度は歐洲にも來らなければならぬ。斯かる文藝全興と云ふべき時は何時であらうか、之に對

して今より策を講ぜなければなるまい。
米國の如き物質經濟の方面に偉大なる進取力を役する民族は、精神的方面には案外後れを取るものである。此國の前途人心解放の先驅となり先鋒とならむは覺束ない。若しも我國にして嚮ふ所を誤らざれば、此點に於ける先驅たり先鋒たらむは、さまたて困難事ではなからう。さてこそ世界文明の指導者たる資格も生ずるのである。

マリヤと道眼
バルテノンにて宗教交代の舞臺を見、宗教交代の大勢を思ひ來れば、バルテノンは實に歐羅巴の縮圖である。唯、バルテノンは無機體であるから、其崩壊し頽敗するが儘に委せられてある。歐羅巴の社會は有機體であるが故に、今なほ盛なる生氣に充ちて居る。されどバルテノンの西の壁に描かれたるマリヤが色を失ふ如く、歐洲社會にも何時かは聖母マリヤの壁畫は剝落するであらう。此運命に就いて我國の宗教諸派も亦思ひ半に過ぎねばならぬ。永平道眼禪師などは、中々慟巧の人と謂ふべきである。

希臘の古の美術を見、顧みて其民が今高帽黒衣のハリストス正教僧に支配せら

るゝに想ひ到れば、實に黯然たらざるを得ざるものがある。

斯かる宗教交代の行末は如何に落着いてあらうか、所謂宗教の垢離を洗ひ盡くして、古希臘の自然に復る日は何時來るであらうか。

風俗も亦古今に於いて著しき變遷を爲しつつある。希臘の古は勇ましき相貌を有し、一夫多妻をも行ひ、今の歐羅巴人は一夫一婦を兎も角も表には嚴守し、その代り男子が女の如き華奢風流となり、古の希臘人は眦が釣上り、今の歐羅巴人は眦が垂れ、古の希臘人は多神教を奉じ、今の歐羅巴人は一神教を奉ずる。古の希臘人は美術に裸體を題目とし、今の歐羅巴人も亦美術に裸體を題目とする。古の希臘人は實際に裸體を露すことあり、今の歐羅巴人は實際は美術と全く相反する。實際が美術と相反するに非ずして、美術が實際と相反するのである。古の希臘人は奴隸を役し、今の歐羅巴人は奴隸を役せぬ。古の希臘人は所謂閑散級の發達が著しく、而して其結果として々もあるか、今日に至るも尙希臘の土地には實業的の勞働が發達せぬ。これがヘレニズムの最大缺點である。

三 今希臘の社會

パイロン
の
見
當
違

パイロンは少しく見當違ひをしたやうに思はるゝ。土耳其人の衝の下より希臘の土地は濟はれ、其遺跡は救はれたが、それにて古の希臘人が蘇り來るのではな
い、今の希臘では遺跡をば唯、營利の物件として、精々よい所で、唯、骨董品として取扱
ふのみである。乃ち古希臘人の遺跡は、何等之に依て精神的の鼓舞振作を感ぜぬ所
の別異なる人民の手に渡つたのである。希臘人の手に希臘の物が渡つた、さりなが
ら古希臘人の手に古希臘の物が歸つたのではない。希臘の土地は回教の衝の下
より濟はれたるも希臘の昔人希臘の古文明は長へに蘇らぬ、パイロンの詩句

Fair Greece; sad relic of departed worth;

Immortal, though no more; though fallen, great!

は實に「昔人已乘黃鶴去。此地空餘黃鶴樓。黃鶴一去不復返。白雲千載空悠悠」の
感に堪へぬ次第である。

名所舊跡
の保存は
何の意味

輪切學者
何と言ふ

バラシチ
スムスチ

希臘の名所舊跡の保存は我國の名所舊跡の保存とは意味が大に違ふ。我國の
名所舊跡は、我固有の過去の歴史の跡を保存する所以であるが、此國では、土地こそ
同じ、棲む所の民族は大に相異つて居るのである。民族の系圖は幾分の傳統
ありとするも、古希臘は全く壊れ、さて全く新たなる歐洲諸民族の御多分に洩れざ
る、新たなる風俗慣習、思想、信仰の社會が、次第々々に起り來れるものであるから、此
名所舊跡の作り手は、今の希臘人とは何等縁の無いものである。我國に在りては、
祖先の遺跡を保存するものであるのに、此國人はまるであかの他人の遺跡然も、實
に我祖先の會ては大に打壊せる物を、單に錢儲けの上に好都合なるが爲とだけ
保存せむとするものである。其教育上、社會上の價値は彼と是と同日にして語るべ
きてはない。社會を以て輪切體の平面體と看做す外に、能の無い學者共は、さぞ此
關係を認め、此差異を認むるに困難するであらう。

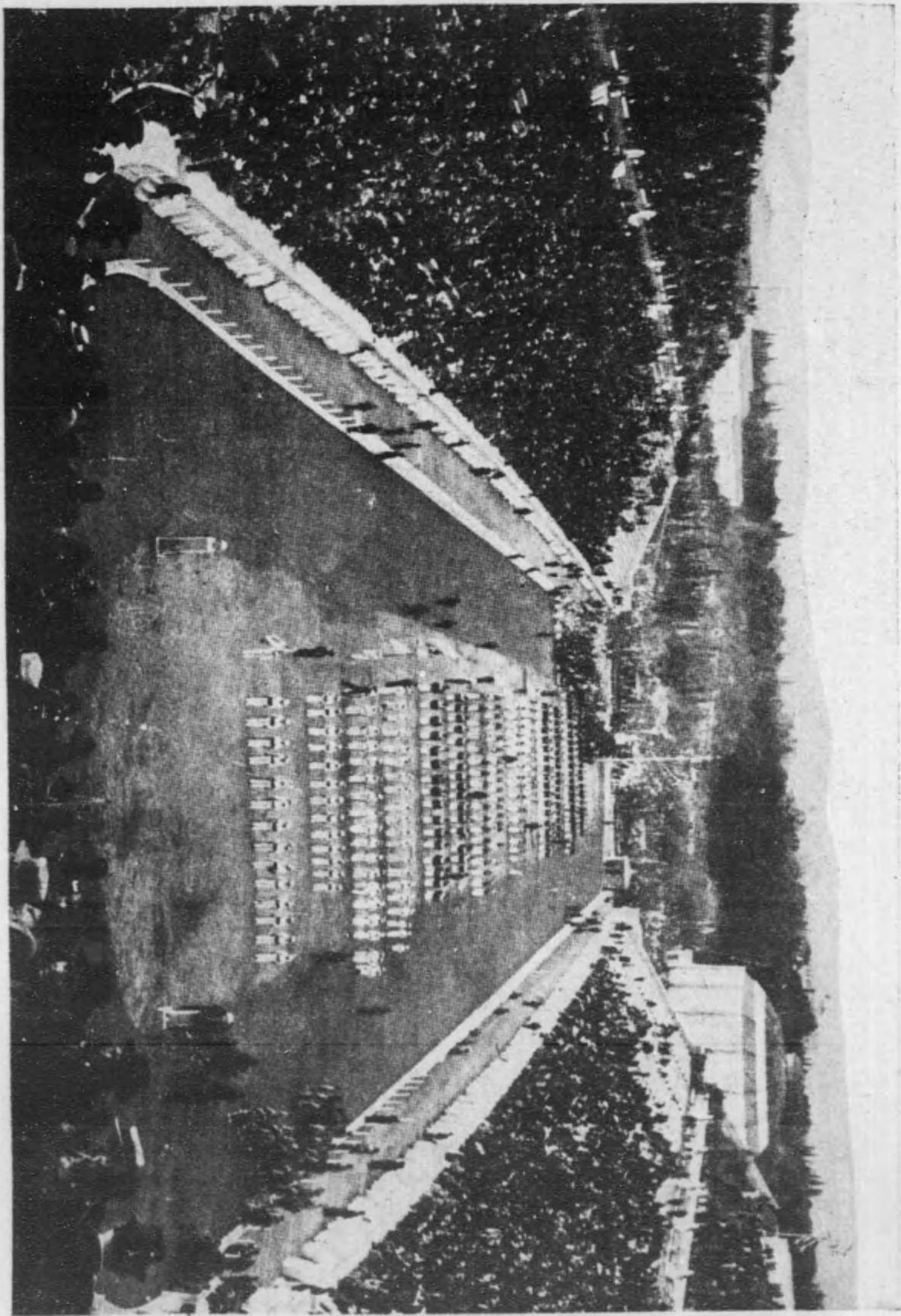
希臘人の寄生生活、乞食根性は亦旅客の目に着き、餘り愉快なる感じをば與へぬ。
希臘人の寄生生活に、外的及び内的の兩方面がある。外的寄生は、君斯坦丁堡に三十
萬、其他に二百四十萬、或は曰く四百萬、凡そ三四百萬は猶太人の如く外國に寄生し

て寄生生活を營みつゝある。內的寄生は外國より來る所の旅客から絞り取るのてある、其人口、即ち絞る所の機關となる所の人口が二百六十萬、此內的寄生は即ち直接若くは間接、乞食主義の發揮である。遊覽人を對手の土地として、子供等に乞食根性の現るゝのは是非もない。是は必ずしも神社佛閣と云ふてはないが、凡そ能力若くは物品に對する報酬以外の財物を他人より受くるの習慣は、遂に乞食根性を成すものと見ゆる、是等は面白い、所謂社會心理とても謂ふべきものであらう。

ミニアチ
ニウル

議會專横

希臘の事物は、實に雛形的に、小規模なるものが多い。希臘の國會を傍聴した、其議員總數百四十五人、人口一萬八千につき一人の選出である、我國の縣會議員の選舉よりも細かく選舉したものと云はねばならぬ、即ち我縣會議員よりも安直である。役所へ行つて見ても、矢張其通りて、洵に雛形的に小規模である。然るに此百四十五人の議員は、黨同伐異に於いては、中々大國の政黨にも劣らぬ。希臘目下の政局は、議會の專横に苦んで居る。それも其筈である、人口二萬足らずから一人を選ぶ所の議員より成立つ議會であるから、假令解散しても、大抵出て



希臘國、雅典府。

今代新設の階段式大競技場、スタヂオン。

圖は學生運動會の光景。

優に四萬の觀客を容るゝに足る。

日本と希臘

政治的懷疑

教育には熱心

來る人の顔は定つて居る、即ち此意味からして解散は無意味となつて居るのである。我國の如く解散の結果再選が覺束ないと云ふことの爲に議員が弱腰になるのも困るが希臘の如く解散しても議員になる者が大抵定つて居り、我を措いて其れ誰ぞやの考て、議會が専横を極めて居るのも亦餘り衰めた事でない。斯かる事情からして、目下希臘の政局では、立憲制に對する懷疑思想が盛に行はれて居る、即ち全體立憲制と云ふ者が、好いものか悪いものか、果して其名の美なるが如く、國運の發展に必要なものかと云ふことが、随分疑問となつて居るのである。併し既に議會を開いてすら、斯く黨同伐異の盛なる國柄であるから、若しも議院が無かつたならば、官僚の内部に於いて更に一層見苦しき軋轢を生ずることであらう。故に議會の専横は固より衰むべき事ではないが、之が爲に立憲制に對する懷疑に至るなどは、餘りに短見なる批評眼と云はねばなるまい。

併し希臘人の教育に熱心なるは實に嘆美すべきである。大學は教官百六人、學生二千五百人、法、醫、文理及び神の五分科大學より成立し、大學全體より一年の任期にて選ばれる、總長、各分科の選ぶ學長、副總長及び各分科より選ぶ五人の評議員を

以て評議會を組織して居る。工部大學校が雅典に在る、土木、機械、技術の三學科を有し、何れも四學年、學生は二百餘、教官六十餘を有して居る。學士院は維也納に住する或る富める希臘人の寄附で出來て、既に十四年になつて居るが、未だ一人の會員に選ばれたる者が無い。中學は正則中學四十、實科中學一、之に次ぐものは公民學校二百八十六、小學約二千、中等教員は文科若くは理科大學出身の學士たるを要し、大學は之を供給して十分である。外國留學生の有無を此國の大學總長に問うた所、總長は侃然として、弊邦小なりと雖も、外國留學の如き制度は其必要を認めぬと答へた。凡そ高等文官は、大學卒業試験の上に、更に國の試験を受けなければならぬ。學士院の未成立に就いては、國運未だ之に達せずと言ふだけで、更に他を言はなかつた。斯の如くにして、此國は、どちらかと云へば、寧ろ夥多教育の弊を呈して居るのである。

實業の不振

教育は斯の如く進んで居るが、併し、農業及び一般實業の此國に於ける萎靡不振は、亦頗る著しき次第である。全體古希臘からが、既に農業を卑める國民であつた。斯かる餘り衰へてからざる點は、古も今も變りは無きことであるが、商業上に於いては、大體寄生的商業を營むに傾き、隨分國外に於ける希臘人の富を作る者は頗る多いが、それに依て國富の著しき増加、殊に國運の發展を見ると云ふ程には行かぬ。右の學士院の如く、外國にて富を作れる希臘人の遺産を、本國の教育宗教事業に寄贈することが頗る流行する所から、大學などは頗る財産を有し、單に教職員の俸給を國庫から受くるだけである。圖書館も頗る整頓して居るが、矢張此類の資金で建設されて居る。併し、斯の如き寄生資本で發達した所、希臘が國として大に富むといふ譯には、少しも行つて居らぬ。

國外の希臘人

希臘人の土耳其に在る者が約二百萬を算ふると云ふが、是は政治的、自由を犠牲として、金儲けに營々たるもので、殆ど猶太人と擇ぶ所が無い。併し一般に、斯かる寄生的生活と云ふものは、全體物質の上では割合に成功に好都合なるものである。つまり他人の取つた滋養物を更に吸取るもので、斯の如く外的及び内的兩面の寄生氣質は、遂に卑屈なる、拗けたる、卑吝なる性質となる。是等は實に高い價を拂うて、餘り貴からぬ物を買ふものと云はねばならぬ。

土耳其身中の蟲

土耳其は其領内の希臘人に教育の特權を與へて居る。希臘政府は此特權を行

使して、在土耳其の土耳其臣民たる希臘人に教育の制度を施して居る。是を獅子身中の蟲ではなからうか、併し土耳其は是と同等なる教育制度をも有せぬ故に、如何とも詮方がないのである。若しも土耳其が明に優強なる武力を備へて居るならば、露國式に壓制を以て之に臨み、強ひて民を愚にするの政策をも施すことが出来やうけれども、既に鼎の輕重の列強の間に知れ渡れる今日にては、斯かる生ぬるき政策に出づるも止むを得ざる所であらう。

四 國民的精神

希臘には、さばかりの美しき歴史上の遺迹があるが、是は少しも希臘人の誇りとなるべきものではない、恰も出來星の紳商が莊大なる美術館を建て、我家には縁もゆかりも無き他人の美術家の作を蒐めて得意になつて居るの類である。若しも之を以て、由緒ある、修養ある、家族の祖先以來の遺物を、陳列せる、小さな家庭博物館と比ぶるならば、其得失果して如何であるか。小なりと雖も、斯かる祖先以來の

紳商の美術館の美

小ホオヘ
ンツカ
ル
物館

兒孫の感
奮興起

製作品、使用品を陳列せる家庭博物館こそは、實に、兒孫をして、感奮興起せしむるに足るものであるが、出來星の紳商の、雜駁なる美術蒐めは、何等の精神的の價値の無いものである。

ボリス
主筆の來
訪

雅典第一の日刊新聞「アクロポリス」の主筆及び記者二名、外務省局長カクラマヌス氏から我輩のことを聞いたと云ふので、特に二たび刺を通じて面會を求めて來た。さて其主なる問は、目下の希臘の政局を、社會學上から批判して欲しいと言ふのである。政局の大體を先づ以て承りたいと言へば、主筆は答へて言ふ、今や議會政治が全く民心と乖離して居る、現代の有司及び雅典の識見あり思慮ある人民は皆議會を廢止して、銳意國政の改進を計らむと希望して居るが、田舎の人民は受身にして何等政治的活動を取てせぬ、されば今や希臘が、抑、議會と云ふものを有することが善いか悪いか、問題である。そこで、王陛下は何故に議會を解散したまはずやと問へば、陛下は餘り公平に涉らせらるゝと、且は議會を解散せりとて、百五十の議席の中、僅に二十席ぐらゐの變更に過ぎずして、餘は皆依然たるべく、大體議員になれるやうな人は定まつて居ることであると答へる。成程人口一萬八千に

賢明有力なる政治

き一人の議員であるから、政治商賣は、我が縣會よりも遙に輕便なる譯である。學術上の批判は今固より容易に下し難い、唯、議會と行政府とは、水に於ける水素と酸素、空氣に於ける窒素と酸素との類ではないか。一國の進運を致すに最も有効なるは、賢明にして有力なる官僚政治に在るけれども、官僚政治をして有力ならしむるが爲には、一つの有力なる中樞がなければならぬ、是は實に武力若くは歴史的に成立し來れる有力なる君主に存する。獨逸は主として官僚政治に依り、英國は主として議院政治に依り、其國の進運を致しつゝあるが、希臘には賢明なる官僚は蓋し之れあらうが、有力は如何であるか、且議會が假りにその存在を失ふとするならば、必ずや官僚相互の間に軋轢を生じて、國運の發展を阻礙するは孰れにもせよ一つ事であるであらう。

國民の力

獨逸國民は何を以て彼の有力なる中樞を生じ成せるか、其根源は、矢張國民の精神に在る、然らば國民の精神を振作せるは何に在るか、曰はく、文學者、音樂家等に存する。國民が鬱勃たる精神を有し、而して之を捕捉し之を運用せるものが即ち、ウルヘルム、ビスマルクである、乃ち獨逸官僚政治の力は、其本源を辿り、其基礎に遡れば、

ば、矢張國民の力に外ならぬのである。

資料の豊

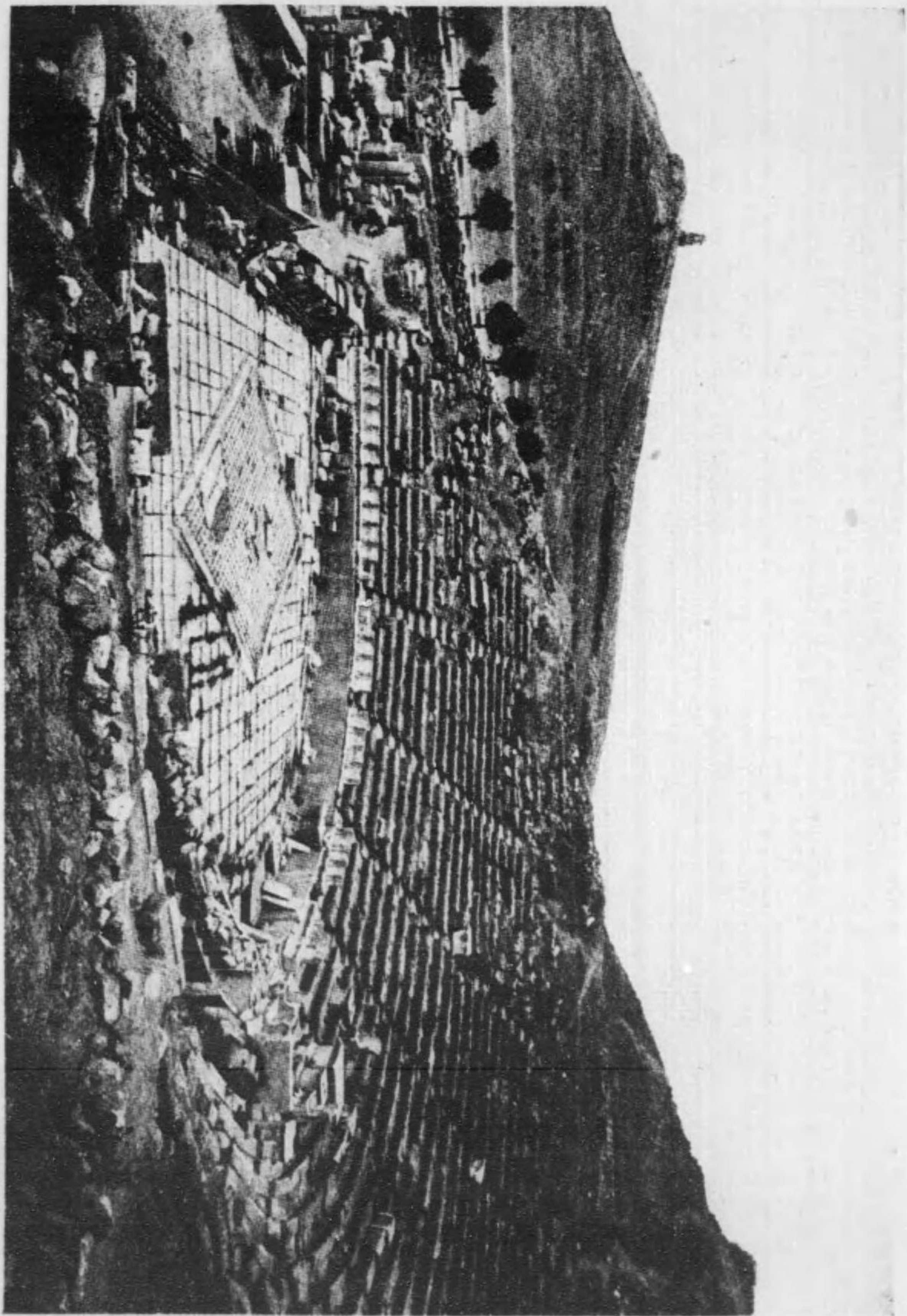
知らず希臘には斯かる力を振作すべき資料に缺くるあるか。ホオヘンスタウフエンとホオヘンツォレルンとは五世紀を隔つるに、古希臘と今希臘とは實に二千年を相隔てゝ居る、乃ち其結合復興の困難古と今とを貫通する渾一的社會意識の作興、獨逸と希臘とに於いて、其難易固より同日の談てはない。併しながら、兩君請ふ注意せよ、バイロンは英國人ではないか、希臘に於いて何の利害相關する所はないのである、然るにも拘らず、尙且古希臘を憧憬して善く戟を把つて立つたてはないか、古希臘の思想は、文藝復興に於いて羅馬法王に反抗し、在來の基督教文明に反抗して實に能く全歐洲を復活せしめた、何故に希臘民族を作興することが出来ぬと言ふか。

自覺の手

希臘人の自覺は、先づハリスタス正教に反抗し、耶蘇教に反抗して、新文藝復興新教法改革を實行するに端緒を發かねばならぬ。

個人的利害の念

併しながら凡そ個人的利害の念ばかり國運の進歩を阻礙するものは無い、希臘の諸子の竟に悉くバイロンたる能はざるは、其利害の念より超脱し能はざるが爲



である。日本民族は、事苟も國家に關するあるときは、直に個人的利害を脱却して遺瀝を留めぬ蓋し、日本の精神修養は、宗教に在らずして教育に在る、教育の根源中樞は、皇室に於いて代表せらるゝ、渾一社會即國家に在る。我輩嘗て奧太利に於いて、匈牙利に於いて其國教育の根本主義は何ぞと問ひしも、遂に明答に接するを得なかつたのである。こゝまで語り來つた所が、主筆は言葉を挾んで言ふ、私が之に答へて申さう、官が奨勵しつゝある希臘現時の教育は、古典の諳誦に在り。

噫、古の希臘は、亡び美術は、纔に残つて居る、古の希臘國民の社會的活力は、今や浪焉として、竟に能く之を繼ぐものある無し、悲しいかな。

希臘國。雅典府。

古希臘のバプス一名デオニソス劇場。

舞臺は圖の右邊に在りしなり。

國にして衰へむか、

スタチオンの運命は乃ち此劇場に現るべし。

第七 埃及及印度

一 緒言

十年以來我帝國と特別に親厚なる關係、同盟關係に於いて在る所の、英帝國の樞要關係に於ける土地若くは版圖たる埃及及び印度に就いて其形勢を一瞥するは、強ち閑人の好事業でなからう。

埃及は英帝國の勢力地域に於いて蟹目の位置に於いて在り、印度は扇面たる位置に於いて在る。扇子の効用を爲すは其扇面に在るが、扇子をして扇子たるの形を維持せしむる樞要なる仕掛は、實に其蟹目に在る。扇面に揮毫せられある書畫に依て扇子の價值を生ずるも、蟹目微りせば扇子の扇子たる所以を失うて、唯、尋常一様の骨董品と化するるのである。印度の富は、恰も扇面に揮毫せらるゝ書畫の如

し、併しながら印度をして、英帝國の樞要版圖たらしむるは、實に蟹目たる埃及に倚り繋るのである。

而して此蟹目此扇面埃及及び印度の英帝國に於ける關係は、其中間に突進し來れる獨逸のバクダッド鐵道に依て、少からざる影響を受けつゝあるのである。若しもバクダッド鐵道が之を小にしては獨逸之を大にしては歐羅巴の亞細亞に對する關係の至大なる因子たるの意味あるに於いて間違なしとせば其右と左とに在る英帝國の樞要地域埃及及び印度の形勢は、亦是れ大なる注目を以て觀察せられねばならぬ所である。云はねばならぬ。

加之埃及及び印度の考察は、英吉利の對東洋關係に最も重大なる意味を有する。隨つて日英同盟との關係も、亦等閑ならざる所があらうと推想すべき理由がある。凡そ斯の如き意味に於いて、我輩は特に埃及を歴遊し、而して得たる所の若干の材料を以て、今より少しく埃及及び印度の形勢及び運命に就いて、觀察を試みやうと思ふ。

埃及印度
とバクダ
ッド鐵道

埃及印度
と東洋

二 埃及一般の印象

埃及に入
る

千九百十年、三月二十四日、午後四時、希臘ピレウスの港を發し、越えて二日、二十六日午前七時埃及アレキサンドリアの港に着船した。三時間の後汽車發し、百二十九哩を三時間と十五分にて汽車は駛り、十二時過ぐる頃カイロに着いた。

希臘にて棕櫚の矮小なるものを見たが、埃及にて其十分成長せるを見れば實は椰子であつた。アレキサンドリアよりカイロに赴く途上、麥の穂の最早大方出揃へるを見、耕地の能く整理せらるゝを見、稻にほの形せる、矮小なる、土壁にて造り做せる農家の聚落を見、屋根の多く藁屋に擬ふ椰子の葉に葺かるゝを見る。農耕にも駱駝を用ひ、騎るに驢馬をも用ひ、畑行く農婦も被衣にて覆面し、裾長く引けるを見る、何れも此國の風物である。

ナイル川のデルタは、面積約我四國に近く、頗る廣き耕地であるが、既にカイロに至れば東西より沙漠が迫り來り、是よりは眞にナイル川の兩岸、帯の如き地が耕地

ナイル及
デルタ

沿道所見

であるに過ぎぬのである。埃及全國の耕地が僅に越後一國に比して少しく廣さのみとは驚かるゝことである。

ナイルと
カイロと

カイロは、沙漠の間、ナイル一帯の市街地であるから、風多く、砂が吹立ち、動もすれば其景色は荒涼落窶の状を呈せむとする。纔に東の郊外に出づれば、カリフの廟所など、全然沙漠の中に立つ、西の方ギゼエのピラミッドは云ふに及ばず。凡そナイル川微りせば、カイロ府の無きは明かである。

住民

此國の人種所謂埃及人即亞刺比亞人、土耳其人、アルメニア人、希臘人、猶太人、コプト人、黒人は更に言はず、英國其他の歐洲人あり、カイロの市街にて支那人にも遣ふは珍らしい。埃及人は土耳其人と略、同様の風俗であるが、巧慧なるに於いては少しく過ぐる所あるやうである。亞刺比亞人は、法衣の如き寛める衣服を纏うて居る。

婦人の風俗

婦人の風俗は更に珍奇である。土耳其人の被衣を以て足れりとせず、鼻梁の所に、角製金屬製、又は木製の、三重の塔のやうな物を着けて、被衣の上部と下部との界とし、兩眼のみを出して街上を婆娑として徘徊する、宛然山法師の武裝に於ける頭

土人區と
歐人區と

巾の姿である、よく見ても、土耳其婦人の艶麗窈窕は無いやうである。往々下駄足駄を見るは土耳其に同じい、但し緒の附け方は我國のと異にして羅馬式である。

カイロ市の北部東部は主として土人の住ぶ部であり、西部は主として歐人の住む所である。歐人の區域となれば、街衢も廣く且淨らかにして、殊に老樹の亭々たる、伯林などにも一寸見難き莊麗である。公園イヅベキエエなど、全く英國趣味を發揮して居る、菩提樹(フィクス・ベンガレンシス)の枝から根を許多垂れたるが、翁鬱として數頃の地を蔽へる、芝草あり、低地の庭あり、泉石あり、運動場あり、市塵の裡ながら清楚閑雅と稱ふべきである。

文明の勢

市の利便は、郵便、電信、警吏、電車の均一賃銀、剩へ此國君主の寺廟の頽破せるを修繕せる等、總て保護國となつて以來の事である。此修繕には、政略の意味も含まるべけれど、孰れにしても、文明の勢力は、恰も戸の隙間洩る風の如く、高氣壓より低氣壓に向つて進み入るは、争ふべからず、避くべからざる事實である。さて、此文明の造り手は、教育である。露西亞の東亞、滿洲、蒙古に於ける、其勢力は、又比較上實に文明的氣壓の高低あるに基づく、英國の埃及に於けると同様の現象である。

カイロの市中の並木は、巴里のサンミシエル、サンジェルマンなどの如く、丈高くして且風致がある。歐風家屋殊に大都會の家屋の鉛直にして廂無きは、斯かる樹木と相埃ちてこそのことである。新潟の市を經營せむ人は心して欲しい。但し西洋にても、中世の建築にも、將た近頃の建築には、益、バルコンの數の増さむ傾きがある。廂の無いのが當世と思ひ誤らぬやうありたい。

此國の公園を首め、所々に竹のあるは、氣候に引較べて勿論のことである。唯、其竹が梢から二間許りにて折れ、折れながらも依然として元氣よきは奇妙である。倒さ竹の多きを見れば、見真大師は埃及へも御垂迹あつたものと見ゆる。

スルタン・ハサン寺を首め、此國固有の建築の式に依り、寺院は實に雄健にして莊大である。層々たる技巧を用ゐず、方形の體を極めて大にして、大膽に列べたるが其様式である。特に壓迫の感を與へないが亦與みし易きやうな感じは少しも與へぬ。建築の用材、様式、孰れも斯の如き感じのものである。斯くて土耳其のセント・ソフィア寺の如き、借館的習氣の些かも無いのは洵に心持好い。障壁の如きも亦同様の式で、莊嚴雄大なるが取り柄である。カイロ市の西の郊外、カリフ寺廟の如き、殊

に其バルクウク寺廟などは、餘りに偉大なるを造り做して、後世子孫の修繕の手の逆も行届かぬといふ殃を貽した。之に比べると、我國の山陵は偉大といふ點に於いては更に遙に之を凌駕し、然も斯かる弊を貽すの虞が少しも無い、是に依て見ても、我國の歴代の爲され方には及ぶべからざる點のあることを發見するのである。カリフ寺廟の修繕の届かぬまで、大規模なるは、蓋し祖先の先見の足らざりしか、抑後世子孫の不肖に坐するか。さて數年來往々修繕の進み行けるが多い、是は喜ぶべきか將た悲しむべきか。

三月二十七日午前、古カイロに遊ぶ。人民の生活は稍、支那人に近く、不潔にして洵に蠅が多い、人畜の尿屎杯の街道にまき散らさるゝ爲てあらう。我國の古も斯様であつたであらうか、五月蠅なすと云ひ、素蓋鳴尊の荒び給へる事と云ひ、何れの國も文明の進まざりし折は、斯かる事もあると見ゆる。女人は頭の上に種々の物を載せる、壘などが最も屢である、我舊記にも壘のへ、壘の腹などの言葉が屢見ゆる。總て壘と云ふことの多きは、粗末なる陶器、寧ろ土器の使用の盛なりし状態である。今日は日曜と云ふ爲か、土人の掛茶屋にて、雙六して遊ぶ者が多い、又楞蒲するもあ

長袖

る、餘り勉強せぬ者の多かりぬべき所である。衣服の制式にても、國民の勤惰は大
方見らるゝものである。鎮西八郎が惡左府の戰略を評せるにも、嗚呼、長袖者焉ぞ兵
を知らむやと言うて居る。

耶蘇寺

セルギ寺はコプト人の耶蘇寺である。回教の寺から耶蘇寺へ入ると、其畫像の
毒々しく、且如何にも幼稚であるといふ感が起る。さて油煙の香が鼻を衝き、異
様の節づけにて讀經の聲が悽じい、害の中に、聖母が其子を伴れて猶太の子供殺し
の災難を連れて、一ヶ月間潜匿したと云ふ舊跡がある。

物賣る聲

街道に物賣り呼び歩く聲の囂しきは東洋以上である、人々の訛聲高く罵るも、亞
刺比亞化して殊に著しい、電車の内などても、四邊に構はず言ひ罵るが多い、音聲も
我國人の如く餘り朗かならぬが多い。物賣りは新聞、麵包、水、南京豆菓子、の類是等
が到る處に多い。

古物博物
館
變遷妙し

二十八日午前埃及古物博物館を觀る。五千年前より三千年前までの二千年間
が、此國の上世、中世、近世史期であるが、其間美術の造詣及び形式に、さばかりの變遷
を認めぬは如何にぞや、想ふにその交通の範圍稍、狭かりしと、四隣に特色ある文明



埃及國。

風俗一斑。

娘の手踊。

を發揮せる國の殆ど少かりしとに因ることであらう。併しながら五千年前より既に精巧大規模且直觀的なる美術の盛なりしに徴して此國文明の程度及び性質は大方は知らるる。

此國の文明に希臘風の入りしは今日の支那が西洋の文物を入れたるの類である。さて羅馬時代を経遂に頭に圓笠著たる金色の佛畫を見るに至つては此舊國も亦如何ともし難くなりさてこそマホメトをせめてもの救ひ主と仰がねばならぬ機運とはなつた次第である。

ラムセス二世の木乃伊が此博物館にある、黒く炭化か石化させるたけて、今も尙臨終の姿に異ならず、三千百年の物とは如何にしても見えぬ。其鼻梁の大なる、耳朶の厚き、如何にも英雄の人相あるは面白い、否、寧ろ面黒く、毛髪も赭色ながら存し、齒も數片依然として著いて居る。

二十六日到著の其夜、恰も満月に際し、月光に於けるギゼエの高塔は最も趣ありと聞及んで居つたから、月明に乗じてギゼエのピラミッドの下に遊んだ。駱駝を薦むる土人に逢ふこと二三、それに拘らずギゼエの塔下を彼方此方徜徉し、限りなき

埃及の希
臘化の

ラムセス
二世の木
乃伊

月光のピ
ラミッド

再び訪ふ

絶漠を照す所の月の光に、巍然として聳え立ち、大なる重みある、永久の沈黙に、五千年の昔を語る高塔の姿は何とも云はれぬ、一種の老蒼萬古の色を示して居る。

二十八日午後更に此地に遊び、有名なるスフィンクスを見た。沙漠とは云ふ條一體に磊々たる砂礫の場で、遠く彼方に尙若干のピラミッドを淡影模糊の間に見る。田園あり樹林ある一般の景色と違つて、寂寥千里、眼界を遮る物の無い所では、實に距離の目測が全く不可能である、近きが如く遠きが如く、是等の遠近のピラミッドも亦實に宛然として淡き紫色の大空に浮ぶの感がある。

メンファイ

是等はメンフェイス及びシヤッカアラアのもので、之を探るべく、三十日にナイル川を

汽船にて三時間餘り遡り、驢馬を馱うて約二里半の距離を、ナイル川の氾濫に依る耕地を經過して沙漠に向ふ。途中一哩餘にして、普通の西洋史にも記載のあるラムセス二世の巨大なる立像あり、今は此立像は地上に倒れて之に小屋掛を爲し、棧橋を架し、此棧橋に上りて、像の全體を一目の下に見得る仕掛である。沙漠の驢馬旅行は餘り工合のよいものではない。シヤッカアラアは純然たる沙漠の中で、而して此所に存する遺跡は、悉く皆砂礫に埋もれたる地下の物である。併しながら土

シヤッカアラア

セラベウ

地及び空氣の極めて乾燥して居る所から、餘り硬き質の石とも見えぬもので出来たる柱、若くは壁を以ての建築も、さながらに古へ在りし如くに保存せられて居る。加之その壁に描ける文字及び繪畫も、依然として明白に見らるゝのである。シヤッカアラアに於ける最も偉大なる遺蹟は、セラベウム、又アピス墳墓といふ古代の墳墓にして、地下の隧道に幾多の枝道を作り、其枝道の一つ毎に一つ々々石室あり、此石室の一つ々々極めて巨大なる石棺を安置してある、此石棺の高さ八尺、幅九尺、長さ一丈餘、如何にして斯の如き物を斯の如き地底に運んだか、殆ど疑問とすべきである。然も斯の如きが二十有餘室あるに至りては、實に驚かざるを得ぬ。此邊一帶が皆砂礫にして、しかも其地に到り見れば多少のうねりあり、即ち多少の高低あり、驢馬の歩行は、或は緩に或は急に、其氣の利かぬ體たらくは、我れ自らも亦五千年前の民となつたやうな氣がする。

驢馬旅行

耕地の狭

ナイル川を航行する間、西岸は若干の耕地を隔て、限りなき沙漠に連なり、東岸は更に狭き、十町乃至一哩の幅の耕地を隔て、多く砂礫の丘阜、時としては山嶽もある、勿論一樹一草を生ずること無く、實に見るからが熱苦しき景色である。是に

依て見るも、埃及が人の住ふべき所となつて居るのは、全くナイル川、而して唯、一のナイル川のみを頼ることが分る。古へ希臘哲學の鼻祖タレスが、埃及に遊んで萬物生々の原理を究め、宇宙の源は水に在りと爲したと云ふ、未開人の思想、さもありさうな事である。

船に乗り、船より降り、驢馬に乗り、若くは驢馬より降りるときに、所々錢を乞ひ、残りの食を乞ふ乞食の多いのには、實に呆れざるを得ぬ。

調査上の所用のために一二官廳を訪問した、即ち外務省には大臣ルシヂ・バシヤに會ひ、司法省に行き、更に文部省に於いて大臣ヘシマアト・バシヤと相語る、其間丁度法學校長の英人も來合せて、是とも語つた。官廳は中々莊嚴にして頗る堂々たるものがある、官吏は何れも多少の威嚴がある。併しながら外務大臣は土耳其人なるに、文部大臣が亞刺比亞人なるが如きは、頗る異様の感あり、殊に彼等がその英風の堂々たるに拘らず、權限の實際上甚だ小なるは、何とも遺憾なる、情なき次第と考へられた。

乞食

官廳

三 埃及の教育

埃及に固有なる古風教育の一つの大なる例は、亞刺比亞宗教大學に於いて之を見る。

抑、教育は生れたる後の事である。されば今、埃及人亞刺比亞人の子供が、蠢々として嬉戯するを見ては、彼も亦人の子に非ずやと、黯然として襟を正しうせざるを得ぬ感じがある。亞刺比亞宗教大學は、今より千年許り前の開基なる、アズハル寺と云ふを、やがて宗教大學としたのである。建築は極めて廣大、例の四方みな寺觀で一種の七堂伽藍を成し、中庭の廣さも、わが東京の工科大學にも大に優つて居る。さて需めらるゝ儘に參觀人名簿に署名して進み行けば、到る處粗末なる蘆を敷列ねたる中に、此所彼所三四五名の僧侶が跏坐して、體を前に揺りながら、經文の復讀を爲し、中には上衣を頭より纏うて午睡せるもある。其中を分け行けば、やがて中庭に出る、此所にて見る物も例の如く、唯、中庭續きの廻廊には、二三十人の僧俗混淆

固有なる古風教育

アラビア大學

の學級と覺しき群がある、年齢は七八歳乃至壯年に至る、大に不同である。さて正面に本堂あり、其廣さたけても數百坪もあるべきを、例の如き僧侶達の行跡である。中には師僧が童僧に經文の素讀を授くるもあり。本堂の左には種々の寮がある、例へば土耳其寮、トニス寮、アビシニイ寮など、各國からの留學生を收容して居る。此時見たる在學生徒は、少くも千人には餘つて居る。ところて斯かる學校にて教育せらるゝ者が、天人の分を説き、それに隨喜する國民と思へば、宗祖の高徳は、それにも知らるゝことながら、斯かる門末を有する宗祖をも高徳と仰ぎ、ついある民族が、世界競争場裡の劣者たる運命を荷ふべきが、熱感ぜられた。

埃及の教育は、此兩三年來著しく、國民主義に傾いて居ると、外務大臣ルシデ、パシヤも強く之を言ふ。初等教育は、寒村僻地の教育では、今もなほ宗教的、即ち寺小屋的色彩を帯び、土地の僧侶の與る所が多きに居る。其外に一般の初等教育があり、是は一定の教科を具へ、近世の意味に於ける小學教育を與ふる。中等教育は、其上に位する、外に女子教育もある。

數年前までは、教科用語は主として英語で、土地の言葉即ち亞刺比亞語を以てす

近時の傾向

教科用語

高等教育

るものが無かつたが、此三四年來の傾向として、教科用語は全然國語を以てするに至つた。勿論外國語として、英語若くは佛語を課することは言ふまでもない。右の外、小學教師及び中學教師を養成する師範學校あり。高等教育としては大學はまだ無いが、各種の高等專門學校がある。即ち法學校、醫學校、工學校及び農學校がある。是等は皆中等教育を了へて然る後に入學する者、其外特殊學校として工藝學校がある。

校長教員

さて法學校以下の四つの高等專門學校は、孰れも其校長に、英人を戴き、教員は、英人及び佛人に、極めて少數の埃及人を加へて、以て成立する。我輩が文部大臣と談話の折柄、大臣を訪ひ來つた英人某氏は、法學校長て牛津大學出身である、其語る所を聽くと、法科教師には英人八人、佛人七人、埃及人一人、此埃及人は亞刺比亞法律を教ふる。是たけの教官あり、是等はみな埃及官吏として、二十五ヶ年在職、五十五歳に達せる上にて、埃及政府より恩給を受け、英國政府よりは、何の俸給、恩給、稱號、若くは身分をも受くることは無い。

埃及大學と云ふ私立學校は、昨今成立を告げたるばかりの法文專門學校である、

埃及大學

官吏養成

其卒業生を如何に待遇すべきかは未だ問題となつて居らぬ。學校卒業資格は直に官吏任用の資格で別に國家試験があるてはない。第一卒業證の所有者は月給五磅第二卒業證の所有者は月給八磅第三卒業證の所有者は月給十二磅の官吏となり以て官歴を始むる。高等專門學校卒業者は右の第三卒業證を受ける英國若くは佛國に留學せる其大學卒業者も之に準ずる。

留學制度

此國には我國の如く留學制度があつて以て専門教育の不足を補ひ且つ其仕上げをする。其定員六十人學費總額年一萬四千磅現に英國に五十二人内五人は婦人て將來女子教育に當るべき者である其外佛國には唯三人あるのみ。文部大臣ヘシマアト・バシヤは自身佛國に三十五年前に留學し其子は二人とも今現に牛津に留學しつゝある。

外國教師

外國教師は任期の定まれる者は無い一定の年限の後に解備することは全く出來ぬ。これが出来る我國の制を語りしに文部大臣は大意して弊國は政治上の關係より貴國の如き良制を採るを得ずと言ふ。終りに服裝に就いて洋服の不便なるを語りカイロが歐風の麗はしき町々を有するよりは本來の穢き埃及風の宜か

服裝



埃及國。

風俗一斑。

士民の禮拜祈禱。

土耳其語

國立學校
の不景氣

實際の弊
害多々
休暇

かしを言ひ、日本の驚くべき國なるを歎稱し、自分は老いたれども、息子等を一遊せしめたしと言ひ、昨夏現王陛下の弟の日本に遊べることを、當時我陛下には遂に拜謁をも得ざりしことなどを悵然として語つた。

土耳其語は、土耳其の權力時代には勿論慣用語であつたから、教育語として最も力あつたが英國の權力時代に及びて、全く教育界を去つた。

今少しく占領以來二十五ヶ年を経たる今日、此國教育の實狀を觀察するに、第一には國立學校の不景氣である。埃及は千百萬の人口を有するにも拘らず、其生徒の數は僅に小學六千四百九十四人、中學千三十三人に過ぎぬ。實業教育は、殊に不振を極めて居る。小學及び中學の課程は甚だ不適切で、何等實際上の効果を齎すが如きものでない。然るに斯の如く不適切不親切なる學校制度に拘らず、之を便とするものがあるのは不思議である、それは誰かといふと、高給閑散なる英人の職員のみが斯かる學校を總べて極めて便利として居る。

第二に、教育の實際に於ける弊害が頗る夥しい。學校の休暇が非常に長い、殆ど授業をする爲の學校と云ふよりも、休暇をする爲の學校と云ふべき状態がある、然

回教 歴史 地理 英語教科書 外國語 英語 國民主義 獵官準備 訓練なし

るにも拘らず更に回教を授業する時間が甚だ少い。歴史は國民性の陶冶を旨とすべきであるのに、唯年月及び事件の名稱を擧ぐるに止まる乾燥無味にして何等國民の元氣を揮擢するの力が無い。地理は固有名の諳誦たるに過ぎぬ。總べて英語を以てせる教科書は孰れも獨立自由の公民教育上不適切なるものゝみである。之に加ふるに近頃外國語の時間は益削られ、佛語すらも小學から削られて了つて、而して殆ど各學科は益多く英語を用ゐる故に十四五歳の國立學校生徒は英語だけは甚だ巧い、此英語の巧なるは回教及び亞刺比亞語を放逐して以て買ひ得たる代物である。是に於いて國民主義の運動があり、此運動を強ひて壓迫するとは多少不利益と考へて、近頃は頗る國民主義の成功を諛ひつゝあるが、併しながら今日に於いても尙教育は自由でもなければ義務でもない。
第三、然らば教育の性質は安くに存するかといふと、國立學校の教育は全く獵官準備主義である。唯獵官の準備の爲にのみ學校は存在し、生徒は學問する、乃ち教育は實に番頭教育、若くは通辯教育と謂ふべきである。學校教育に於いて何等の訓練の認むべき無きは、左の事實に照して考ふれば必然と云はねばならぬ。即ち

英人の徳現れず

英人視學官は、埃及教師に、教室に於いて生徒の面前に於いて、實に言語同斷なる叱責を與へる。英人は、埃及に於いては、何事に拘らず己れと、少しく違ふ者を、直ちに劣等なる者と認めて居る。

第四に、英人の寛裕の徳が教育上に、少しも現れて居らぬ。英人教員と埃及人教員とは、全く別々の控室に居る、英人教師にして之を不當とし、反對せる者が嘗てあつたが、彼は直に免黜せられた。是に於いて生徒は英人教師を信ぜず、然も尙其暴慢の風に染むことは極めて速である。斯かる學校教育に於いては、剛毅又は自重などは、夢にも教育せらるゝ機會を有せぬ。斯の如き次第なるが故に、埃及人は總べて學校教師たることを好まず、而して師範學校は、遂に閉鎖の厄運に瀕して了つた。

國民性の長所短所

全體、埃及の國民性は、頗る長所と短所とを有して居る。先づ其長所は、穎敏なること、伶俐なること、物事に熱心にして、且勞働を樂み、勤勉懈らざること、是等は埃及國民性の美點である。併しながら其短所は、道義に對する勇猛心の缺乏せること、多くの半開民族に見るが如く、創始的の能力の缺乏せること、及び自營の缺乏せる

義務教育の必要

土人教師の必要

初等教育の必要

教育費の一般負擔

ことである。凡そ斯かる短所を矯むるは、實に教育に待つの外は無いのである。是等の急要なる目的を達すべく教育の弊風を矯正せむとするには、先づ第一に義務教育、一般教育の必要がある、乃ち一般人に必要な教育を義務教育として授くる必要である。第二には土人教師が必要である、克く忍耐し、克く勞働に服する所の埃及人の教師に依て、埃及の青年、少年は教育されねばならぬ。第三には健全なる初等教育が差當り必要となつて来る。第四には教育費の一般負擔が必要である、乃ち教育費は子供の數に依て負擔するが如き偏頗なる制度を以てせずして、負擔者の資力を標準とせる課賦でなければならぬ。斯の如くにして、教育は根柢より面目を一新することが必要である。右は埃及現今の識者の痛切なる要求、且輿論にして、實にそれ等識者の一人が公開書を以て英本國の議院に訴へた所である。

四 英國の埃及經營

同情と評論

朝鮮經營の評論家亦此態度

司法制度運用の不備

混合裁判

埃及の如き國土を經營するは英國に取つて頗る骨の折れる事項に相違ない、故に英國の埃及經營を觀察せむとする者は、必ず多くの同情を以てするの必要がある。併しながら此同情は總體に之を割増することとして、我輩は今簡單明瞭の爲に暫く此同情を抜きにせる事實談を試みやうと思ふ。故に我輩の語句が時に多少酷薄に流るゝことありとも、讀者は之を我輩の英國に對して有する深く且厚き同情を以て割増して理解せられむことを豫め希望して置く。

第一司法制度運用の不備。刑事事件は年々増加する。英吉利の法官の素養は甚だ不完全である、實に一般に埃及に於ける英國官吏は老朽に非ずんば若朽である。此點に於いて印度太守カルゾン卿の印度に對する豪語と埃及に於ける實際は正に反對である、カルゾン卿の豪語に曰はく、英國の官吏は生涯の花時を印度に費すと。若し果して斯の如き事が印度にあるならば、何故に埃及に於いては是と正反對なる事實のみであるであらうか。さて此國の司法廷は有名なる混合裁判で而して控訴院に於ける法官は英國法官と埃及法官と、數だけは相匹敵して居る併しながら其力を以てすれば、英國法官は常に埃及法官を常に對等として視ざる

植民地官
吏氣質

のみならず、常に嘲弄の態度を執りつゝある。實に植民地官吏の冷笑的態度、不眞面目なる態度、腐敗的態度は、是ても英人であるかと思はるゝくらゐ、本國に於ける眞の英人とは、全然別人種と見ねばならぬ爲體である。故に埃及に於ける司法は、全く其獨立を失却して居る。

英人法官
の素性

凡そ埃及の官吏は、何事でも英國官吏に對して盲従を必要とせられて居る。總べて考慮するは一種の罪惡である。而して埃及人を裁判する所の英吉利法官は、亞刺比亞語の一語をも解せざるも妨ないことになつて居る。全體埃及に於ける英國法官の素性を洗つて見ると、本國に於ける法律、ごろが、一躍して埃及の法官になるのである。とまで埃及の識者は憤慨するが、幾分斯の如き事實が無いでもない。年齢僅に二十六歳、インス・オブ・コウルトにて一二の法律術語の試問に及第せるのみにて、何等實際の經驗無き者が、直に埃及の法官と化ける。所て埃及人法官も、亦實は、未だ歐洲の法官の一般の道德水準に達して居らぬ。そこで埃及人法官だけでは、未だ埃及の司法は完全に行くと云へぬ。さて右の如く英人法官が亞刺比亞語を解せざる所から、是非とも通辯の必要がある。然るに言ふまでもなく、通辯は

埃及人法
官

法廷の通
辯

通辯せらるゝ者に比べて、一層下等人種にして、一層腐敗し易いことは、必至の事情である。法廷に通辯を使用することは、是れ直に法廷を腐敗せしむるに與つて大に力ある原因となる。

立法の繁
冗

第二、立法の繁冗。法律規則は雨の如くに下り、繁瑣底止する所を知らず、而して是等は英人の都合を見たるものゝみ多く、又英人にも不便にして、埃及人に不便なるものが多々益發する。

財政の失
計

第三、財政の失計。埃及土人には、美術の如きは、今尙猶に小判であるにも拘らず、考古學的の事業に向つて、實に巨額の金が支出されて居る。千九百四年の年報に依れば、これが爲にする過去十年間の支出は、左の如く、總計約七百萬圓に達して居る。考古局費十一萬五千磅、博物館新設費二十五萬一千磅、同目錄費一萬四千磅、カルナク、フイレエ、及びエドフウの古物保存費二萬六千五百磅、亞刺比亞及びコプト古物保存費八萬二千磅、亞刺比亞美術及び圖書館新設費五萬八千磅、同保存年々費用、政府の支出四千五百磅、ツクフの支出が五百磅、古泉現品購入費四千磅、アレキサン、ドリア、希臘羅馬博物館新設費一萬磅、同年々費用千二百磅、地質調査年々費用一萬

糊塗粉飾

民政の等

一文吝み
の百知ら
ず政策

カイロ市の
財政

五千磅、地質博物館及び氣象地震觀測所は、建設中にして何程金が掛るか分らぬ、カイロ動物園費用七千四百磅、其維持費四千三百磅、科學探察費五千磅、ダジレエ水族館費千五百磅、ナイル魚類研究費三千六百磅。斯の如きは皆、人民の必要と云ふに非ずして、全く外國の遊覽者に自家の功績を示さむとする英國官吏の糊塗粉飾政策として、土人の目には冷眼に視られつゝある所のものである。

土人連の斯かる見解は固より偏頗なる考に相違ないが、埃及人の識者も尙且斯かる酷評、怨府的言論を右の政策に投ずるのは、民政上の設備が頗る等閑にせられて居るからである。埃及國民は、未だ衛生、清潔、秩序、自重の何たるを能く知らざる國民なるが故に、結核病の蔓延甚しく、然るにも拘らず家屋の改良の如きは未だ曾て策せられたることが無い。

財政の失計として、租税過重の苦情、たけは無い、併し之に對して亦埃及の識者は一種の怨言を投じて居る、即ちクロオマル卿の教育費に吝なるは、是れ實に一文吝みの百知らず政策である、と言つて居るのである。

カイロ市の財政も、容易に想像せらるゝ如く、頗る紊亂不體裁を極めて居るので、



埃及國。

風俗一斑。

士民の少女。

例へば市の點燈の如きは、實に亂暴なる配當を爲す所の私設會社の獨占を、英國人の政府は保護しつゝある。給水事業も亦獨占で、其營業を爲す會社は實に埃及に於いて最も富める會社となつて居る。カイロの市街は西十町にして直ちに沙漠に接して居る所から塵埃が多く、然も其塵埃たるや極めて悪性である、爲に眼病が甚だ多い、是は撒水を儉約するに基づいて居ると云ふので、是も亦埃及人の英人政府に對する苦情の一つである。

民政の弊
小兒の死
亡

第四民政の弊。小兒の死亡が非常に多數に上つて居る。カイロ市では人口千人中、一歳以下の小兒死亡が三十七人七分、アレキサンドリアは三十四人九分、實に此の數は印度の孟買を除くの外世界無比である。是等は多く小兒營養の不良より來り、而して小兒病の夥多なる結果が茲に生ずる。成程埃及にも模範村がある、是はマリオンといふ村であるが、全く英人に依らずして實に埃及王の事業である。

家屋問題の全く閑却せられて居ることは前にも言つたが、流行病の手當などは、實に不完全を極めて居る。

家屋問題

埃及及印度

救貧制度は甚だ不完全で、此國には國營救貧制は無い。假令回教の法では、父子相救ふの義務があるとは云へ、是は亦餘りに後れたる事である。成程統計に餓死と云ふ箇條は無い、死亡の原因は凍死疫死等はあるが、其孰れもが特に統計の上に擧がらぬから救貧の必要は無いと云ふが如きは、實に強辯の甚しきものである。此國唯一の救貧機關たる回教慈善會は、一ヶ年の費用僅に二百五十磅に過ぎぬ。近頃唯、政府が施療院を立てたのと、鹽專賣が廢止せられただけはせめてもの幸である。

農務省の
必要

全體此國には農務省が無い、而して紳商が跋扈し、村落は凋零し、而して民族は一般に衰廢に向ふのである。

植民地の
習氣

全體民政の如きぢみなる事業には、植民地行政官根性として、殆ど力を役するものではない、彼等は唯、漫遊客の一時の視聽を目的とする、派手なる事業のみをやりたがる。而して漫遊客も亦苦き批評を爲して、先方の顔色の變るのを見るよりも、褒めて置く方が容易いから、先づ大概の事は無責任なる褒めちぎりに去つてしまふ。斯ういふ状態で、兎角植民地と云ふものは、其發達が思はしからぬ方面に向ふ傾が

官吏任用
の惡弊
情實本位

あり易いものである。

第五官吏任用の惡弊。官吏の任用には、資格は二の次で、單に情實本位である。總べて英吉利の御用を勤むる者は榮進し、然らざる者は轉任に次ぐに轉任を以てする。凡そ官吏社會には、強制沈黙が流行する、面従が流行する。

凡そ官治に對しての出版物は甚しく拘束されて居る、而して此事は公立學校の兒童にまで及んで居る。

英人顧問

行政官廳には、其何れたるを問はず、必ず英人の顧問がある。クロオマル卿は、其官名は總領事であるが、實はデクテトルの職權を有し、而して各行政官廳の顧問は此デクテトルのマウスピースである。彼等は名義だけ埃及政府の任命で二千磅の年俸を得、加之時には、財務省の如きに於いて、顧問の外に、年俸千五百磅の第二顧問の任命すらある。

然るに埃及人官吏の低給なることは實に驚くべきもので、先づ中央官吏にして、第一種免狀の所有者は月給六磅が止り、第二種免狀は二十磅が止りである。而して右の第一種第二種第三種は、孰れも甲より乙に進むことは出来ぬ。斯の如く其

埃及人官
吏の低位

素養に随つて踰ゆべからざる限界の立つて居ることは、文明國には頗る良制と云はねばならぬが、草創埃及の如き社會には甚だ不適切なる仕組と云はねばならぬ。地方官には百磅の月給を受くる者も無いではない、併し是等は實權は全く剝奪せられ名は總督と云ふが、實は英人の番頭に過ぎぬ。

此國の大臣は月給二百五十磅、是は例の英人顧問の命を奉じて己れに責任も無ければ權限も無い、併し俸給だけは、埃太利の大臣よりも多い。判事は月給僅に二十五磅、されば苞苴内謁所謂バックシシが盛に行はる。而して官等の昇任は極めて難く、稀に唯、ベイの稱號爵位の類を得る。所謂敬して遠ざけ、收入を少うして活動を減殺する、即ち高位位だほれの已むを得ざる窮境に投ぜらるゝのである。事務官は皆日給で、僅に八ピヤートルを以て五十年も勤むるのである。

回教司法官は婚姻離婚及び相続等を掌る、所謂人別帳に關する事を掌る宗教上の法官であるが、其貧窮に至りては殊に甚だしい。千九百八年には、十二萬磅の官吏増俸豫算があつたが、回教司法官は全く此恩惠から除外されて居る、是は如何なる政策であるか、實は土人腐敗の標本を維持せむが爲である。判事がベイになる

大臣
列事

事務官
一ヒヤス
トルは拾
錢
回教司法
官

のが大學教授勅任の類と云ふならば、官吏増俸の恩惠から回教司法官を除外せるのは、我國の官吏増俸から中學教師を除外したのと、稍似通うて居るとても言はれやう。

五 埃及の將來

嚮に埃及に於いて、英佛の兩國は互に角逐を試みた。蘇士運河は佛國の之を創むる所而して實權遂に英國に移り、外債政略に於いて英佛共に地歩を埃及に占めむとしたが、是れ亦佛國は英國の爲に投倒された。抑、小人罪無し、玉を抱いて罪有り、埃及は實に世界に於ける形勝の地である。然るに此形勝の地に居る所の埃及民族は無學且微力、即ち國際上教化競争の劣者である。斯かる因縁が即ち今日の形勢を致し、現今の効果を齎らした次第である。實に宗教の弊害及び教育の缺乏、國家社會民族の運命に取つて、是れほど悲むべきものは無いのである。併しながら伊蘇普の物語にも言ふ如く、弱きこと、それが一つの罪惡である。強

形勝の罪
か民族の
罪か

弱きの罪

埃及及印度

四三

力の缺乏、それが生存の理由を薄弱にする一つの由縁となるのである。斯の如きが實に今日に於ける世界人道の實相である。保護國となりて後に教育を施くは事已に太だ晚い。埃及の文部大臣の慷慨は、深く同情を値する。我々も嘗ては罪なき洋服をも毛嫌ひせる時代のあつたことを徐ろに想ひ起さざるを得ぬ。我自主を害し、我自由を妨ぐると思へば、心ある者、坊主を憎んで誰か亦袈裟に及ぼさざるべき。カメル・パシヤは嘗て此國の首相であつたと聞く其各所に於ける演説集を讀んでは、實に亡國の悲憤を禁じ得ぬ次第である。併しながら斯の如きは、事業に既に甚だ遠い。新西蘭の會長、グイタコ氏との談話、アラビイ・パシヤの處分に對する憤慨を、今に於いて過去の物語とする、過ぎ去れる一場の惡夢とする、我々日本人は、實に幸と云はねばならぬ。

凡そ文明と文明との間にすら國際間の統制はあるものを、况して文明と半開との間の統制は、依然として力強い。強力無きが埃及民族の最大禍根である。強力有りしことが、日本民族の禍を轉じて福となしし所以である。然らば則ち日本民族の強力は何處より出て來れる。封建割據群雄の下に、國民が數百年間鑄を削り來れ

強力の缺乏が最大禍根
埃及と日本

歐洲

支那埃及印度
封建の功

過を補う
もて餘ある

一屈の膝
は復伸び

るの賜ではないか。徳川三百年の泰平の爲、國民は表皮のみかは、稍、真皮の邊りまで柔軟となつたけれども、數百年の古き素養は、三百年を以て骨髓血肉までを軟化するに至らず、さては利かぬ氣を以て、歐米に對抗せるが、是れ實に日本の今日ある所以である。歐洲の今日あるも、又々同様の次第である。各地各國相列び相競へばこそ、國際法も發達し、外交術も發達し、富を致し、兵を練ること、皆それ／＼發達を致したのである。之を以て純然たる文治の下にあること、數千年なる支那に臨み、之を以て埃及に臨み、將た印度に臨む、向ふ所として破れざるは無い。唯、日本民族の割據組織は、國民の力を鍊るには便利があつたけれども、組織としては何の長所あるてはない、それには萬世一系の皇室の下に、極めて鞏固にして、完全なる社會組織を成せるが、恰も國を以て海外に對峙すべき機運に恰適したのである。日本民族の運命は、文部大臣ヘシマアト・パシヤならぬも、實に三歎艶稱に値すと謂ふべきである。

土耳其の下に、埃及の服屬したの、亦是れ、英國の下に、立つの、頗る容易なる所以である。外務大臣ルシチ・パシヤは、父母共に土耳其人なりと文部大臣ヘシマアト・パ

埃及及印度

埃及と列強

埃及と英吉利

埃及の運命と埃及人の運命

シヤは語つた、今公けに用ゐる言葉は亞刺比亞語なりとも、是等兩民族の人々の間には、なほ幾分の隔てあるを見るに足る。唯、一たび膝を東に屈すれば、再び膝を西に屈せむ、人生膝を屈するの國民となること勿れ。

埃及は、或る意味に於いて幸にして、獨逸の通路を除けて居る。されば獨逸は寧ろ欣んで英吉利と勢力範圍の分割をするであらう、然らば其幸も亦必ずしも幸とするに足るまい。佛蘭西は寧ろデブラタルの方に垂涎するであらう。實に佛蘭西の力は既にアルジェリイ、モロッコにすら十分行き亘らぬ次第であるから、此上更に埃及に向つて有力なる壓迫力となることは無いのである。露西亞は全力を印度方面に注ぐてあらう。

右の如く列國の形勢から考へて見ると、埃及が英吉利の手より離るゝことは、差當り到底望むべき次第でない。併し民政だけは、埃及の慷慨家不平家が頻りに訴へるのを縦しや實狀としても、英人の文明思想に富める必ずや若干時日の間には若干改良に就き、而して埃及人は事實上亞弗利加に於ける先進人士、内治上に於ける幸福なる國民くらゐにはなり得る望みが無いでもない。



埃及國改羅府の西ナイル川を隔て、更に三里沙漠の中なる絶大なるスフィンクス

六 印度社會の複雑

印度の將來を髣髴せむと欲せば、先づ印度の社會が、是れ如何なる社會なるかを審にすることを要する。印度の社會は、縦にも横にも極めて複雑なる社會である。印度には、上に三百の王侯あり、其大なるはグレットブリテン、日本本島以上の領地を所有し、其小なるも方二哩の領地を所有す。其次に三千の貴族あり、更に其次に數千の地頭あり、又其次に百萬の地主あり、是より遞次下つて最下層の賤民に至る。貴族の家系、古きは遡つて大古歴史の茫邈たる時代に至り、新しきはつる昨日を以て貴族の列に入れる者もある。地頭は亦其家系を尙び、家風を尙び、家格を誇り、而して譜代の小作人を有する門閥にして、其聲威實に二十里四方に開ゆる連中である。地主も亦地頭には及ばないが、同じく其血統を誇り、而して大體の傾向が保守的で、唯、其大きさに於いて、地頭の約十分一に止まるものである。斯の如く、印度の社會は、之を縦に見、即ち上下の層々に就いて見れば、極めて複雑なる組織より成

横の複雑

り、今日文明社會の主權者の一族と一般人民とより成ると云ふが如き事とは、極めて其趣を異にして居る。

然るに印度の社會は横にも亦極めて複雑なる組織に於いて在る。全國は幾多の小區域小階級に分れ而して是等の區域と區域との間階級と階級との間は絶對の秘密を以て踰ゆべからざるの障壁が築かれて居る其狀恰も我舊幕時代仇討などの行はれし時代に於ける三百諸侯の割據に似て居る。甲の領地より乙の領地へ流れ込むときには間諜として猜疑の眼を以て睨まるゝに非ざれば、關守より情なく拒絶せらるゝと云ふ狀態斯の如きが今日の印度に於いて實際の事實として行はれて居る。

渾一社會に非ず人氣

原因

是故に印度は大なる國であり其人口は實に三億千五百萬を算ふと雖も實は一つの大國渾一的大社會に非ずして數百千小國の集合たるに過ぎぬ。而して其各人の心理狀態に就いて見れば人間の不一致何事にも又何人にも隔て心を以て對するといふ餘り馨しからぬ人性を馴致するに至つた。

斯の如き社會複雑の原因は抑何に在りて存するであらうか。蓋し社會的尊敬

救済策

に對する絶對不可侵の思想、慣習及び關係これが其原因であると云はねばならぬ。社會的尊敬とは何ぞや、一つには權力である、二つには血統である、而して三つには聖權である。權力に對する社會的尊敬これが政治的である。血統に對する社會的尊敬これが社會的である。聖權に對する社會的尊敬是が宗教的である。而して多少の權力、多少の血統、多少の聖權に對する關係に於いて、自覺を有し、誇りを有する連中は皆己れを以て絶對不可侵の神聖なるものとする。然るに一般社會も亦見て而して之を異し、斯の如くにして此概むべき到底融合調和すべからざる社會狀態が生じ來つたものと認めらるゝのである。

然らば則ち之に對する救済策は何であらうか。恐らくは回教を以てする宗教的統一の外以上の社會的弊害を消滅せしむるの望は無からう。是に於いて我々は更に進んで印度の宗教狀態に就いて一瞥を費さねばならぬ。

七 印度の宗教狀態

回教

布教の態度

一に熱誠

二に宣教師任用

印度の宗教は之を大別して回教、耶蘇教及び印度教の三類に包括すべきである。回教徒の数は印度人口の五分の一を有するに過ぎず、且其布教は其初め極めて遅々たるものであつた。ヘギラ即ち回教紀元より三世紀を経て、回教は既に印度の最も豊富なる地方を占めた。爾後九百年間、一張一弛以て今に至つた、即ち回教の弘布は到底當年の耶蘇教の神速なるに及ばぬ。

併しながら回教の布教の態度は頗る注目を値するものあり、實に其吸引力の大きな、其奏功の偉大なるに引較べて如何にも此因あつて此果ありの感を爲さしむるものがある。

回教の宣傳者に固有なる隨つて回教の信徒にも普通なる最も注目すべき精神的態度は、其常に焔々たる熱誠を伴ふの點に存する。斯の如くに言へば、凡そ西來の宗教は皆然り、特に回教を擧ぐるに當らぬてはなにかといふ疑問が必ず提出される、てあらうが回教に於いて特に爾か言ふ所以のものは、是れ耶蘇教に對して言ふものと認められたい。

回教に於ける新しき信徒は、一たび回教に歸依するや否や、信徒たると同時に、直ちに宣教師に任せらるゝ、即ち回教徒は子となると同時に親となる。是れ回教の改宗者の數に於ける總體が、必ずしも鼠算を以て進まずとも、少くとも回教信仰の宣傳が、明白なる鼠算を以て長足の進歩を遂ぐる所以である。斯の如きは、仕組の上、に於いて、回教布教の方法の、甚だ好都合なる奏功の偉大を來たす所以のものである。

回教に於いては、改宗者歸依者を見ると、人種の如何を問はず、如何なる人種に屬する者をも、如何なる身分から來る者をも、同一に之を子の如く看做し、娘を與へて婚姻せしめ、以て舅として一視同仁の態度を執る。苟も回教の宗徒となれば、身分上の不利益、人種上の侮蔑の如きは、一掃して、迹を留めず、拂ひ去らるゝに至るの利益がある。斯の如きは回教の布教に取つて、大なる吸引力の原因たりと云はねばならぬ。

印度人の宗教心は、實に複雑多端である。印度人の宗教に於ける、安くに其要點があるかは、殆ど何人にも容易に認められぬことである。而して印度教は之に應ずるが如く、實に複雑にして多端である。然るに、回教は之と正反對で、實に直截簡

三に通婚一視同仁

四に直截簡易

易の、一、神教を、鼓吹し、つゝ、ある、ので、ある。支那に於ける佛教の發達に於いても、乃至我日本に於ける佛教の發達に於いても、繁瑣なる哲理と議論との、天台三論等の法門の行はれたる後には、直截簡易なる禪宗の興起を必要とし、儒教其物の中に於ける發達に於いても、繁衍叢脞、性理訓詁の學に對し、陸象山王陽明の直截簡易なる學說の興起を必要とするは、是れ古今思想界の大勢である。印度人の多端なる宗教心、印度教の複雑に對し、絲の紊れを一つ一つに解くといふ手数をせず、直ちに刀を揮ひて結塊を切り、而して紊れたる萬條の絲自ら脱落する、是れ即ち回教の實に印度思想界の大勢の必要に應ずる所以にして、是れ亦回教の奏功の一大原因に數へねばならぬ。

右に述べたる如く、回教の改宗者は相互に相親しむこと實に骨肉も管ならずであるが、たゞ歐羅巴人に對しては、極めて冷かに、又極めて猜疑の眼光を以て對する。回教は内に向つて階級打破の一大導引力であると、同時に、外に向つては、國內を結合する所の重要な力となり、つゝ、あるのである。

六に寛な
係る男女間

回教に於いては、男女間の道德規範が頗る寛である。斯の如きは長らく一種の

五に階被
打破と社
會鞏固

風俗に於いて生活し來つた民族に取つては、極めて必要なる事である、是れ亦回教が印度に於いて行はるゝに、頗る好都合なりし所以である。但し斯く言へば、回教のみが男女間の道德規範を寛にすると言ふが如く聞え、随つて回教の印度社會に於ける生存發達の理由とはなつても、人或は回教を非難して、甚だ高尚ならざる宗教慣習を含むものゝ如く謂ふかも知れぬ。故に茲に一言を添ふべきは、此點に關しては、耶蘇教も亦全く同様である、耶蘇教の印度に於ける男女間の倫理道德規範は、亦極めて寛である、即ち此點は、回教が特に耶蘇教を超えて、印度に於いて隆昌となる望ありと云ふがためには、大なる原因とするには足らぬのである。唯、回教と印度社會との關係に於いて、頗る都合の好き事柄と云ふだけである。

七に親權
尊重

回教は親權を尊重し、親たる者の特權を認むる。印度に於いては、女子十一歳に達すれば既に熟す、而して回教は、親が年頃の娘を嫁せしむる特權を教義上より公認する。此事たるや實に印度の慣習に適ひ、印度の生活と極めて能く調和する所の一條である。

八に酒精
取締

酒精飲料に對しては、回教は、嚴烈なる禁制をする。然るに此事たる、亦回教と印

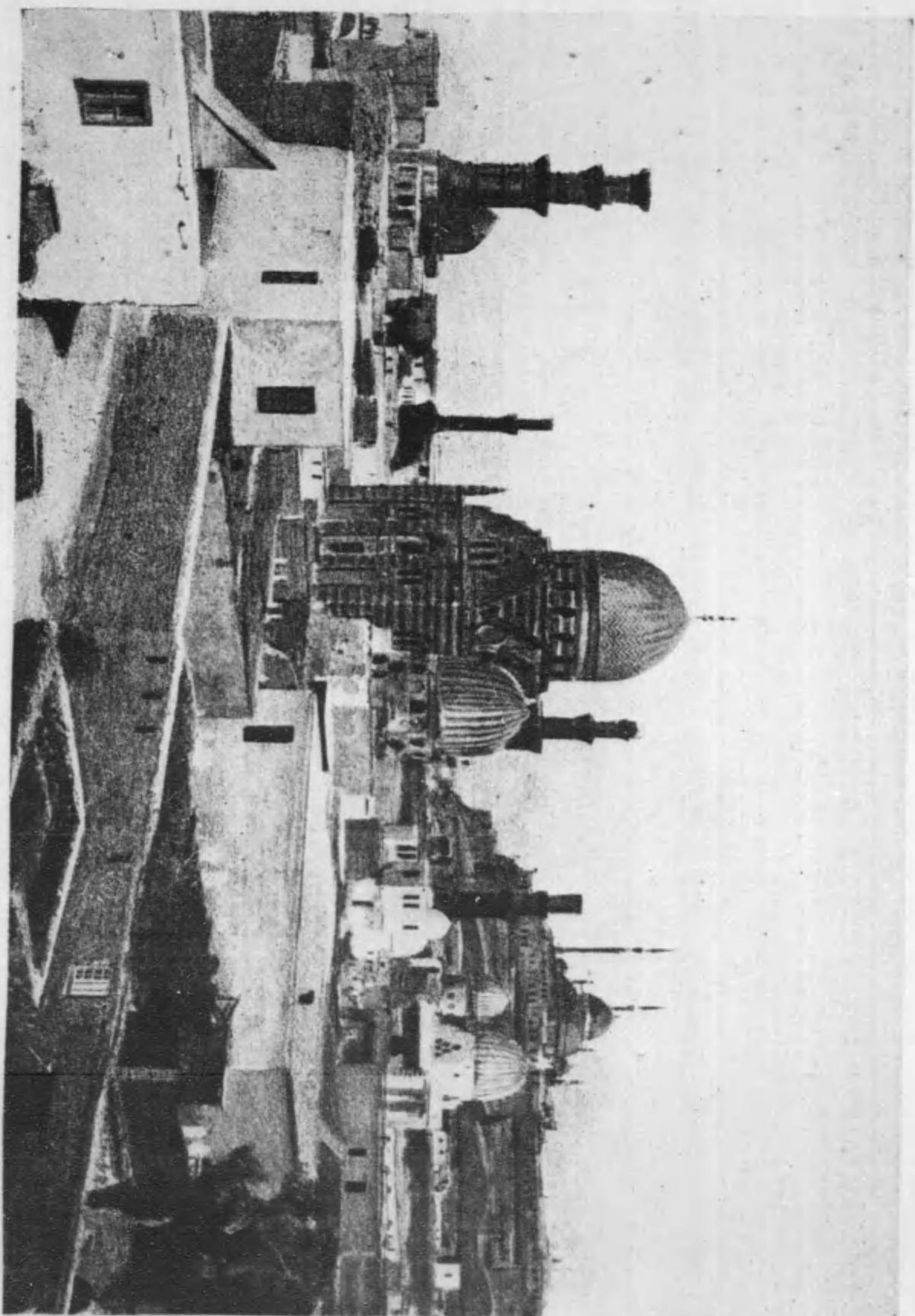
度生活との極めて能く一致する所で、印度人も亦酒精飲料に對して、從來極端なる制限を爲して居つたのである。

以上八個の點に於いて、回教は印度社會に布教し發達するがために、極めて便利にして優尙なる性質を具有して居つたに拘らず、何故に回教の印度に於ける進行は、彼が如く遅々たる事であつたであらうか、是にはまた多少の原因無きにしても非ずである。第一は在來印度教の僧侶の反對阻遏に在る。第二は印度人の保守性に在る。第三は同じく一神教と云ふと雖も、印度教は複一神教であり、回教は單一神教である、單一神教と複一神教との間の睽離は、信仰界に於いては、多少の重要と數へられねばならぬ所の一つの因子である。第四に、印度人には本國の舊文物に對して尊崇し執著するの性向がある。是等は孰れも多少の妨碍阻遏を回教の宣傳普及に向つて與へたる所の要素であるが、併しながら要するに、從來の大勢よりして、回教は印度に於いて大なる將來を有するものと云はねばならぬ。

回教の將來は、一方印度全半島の諸の小國が、漸く一の大なる統一的國家を成さむとするの傾向と相應じて、全半島の統一的宗教たらむとするこゝとであらう。實

回教擴布の妨害者

回教の將來



埃及國、カイロ府、
マメルク陵墓。

に今日に於いて英國に反抗するの中心及び勢力は半島に於ける回教であるのである。

印度の宗教の瞥見に於いて第二に注意すべきは耶蘇教である。耶蘇教徒の數今や百萬に達し而して年々の改宗者の數は回教に譲る所ないが併し信仰上の勢力から云へば、逆も回教とは比較にならぬ程微々たるものである。

今其原因を推定するに、一つには耶蘇教の教義に於いて存する。抑、印度人の宗教要求は、教理の飽くまで合理的なるを一條件とする、理窟の上、智力の上から成程と頷かせなければ、到底印度人には或る一種の宗教が入り得るものでないのである。然るに耶蘇教の教理は甚だ不合理なる事だけ、到底多少理智ある者には、成程と頷かせ得ざるが如き難點が澤山ある。又印度人の尊崇する宗教上の神格は、實に人格を超絶して極めて尊嚴のあるものであるが、耶蘇其人の人格は斯かる印度人の眼底に映じ来れば、餘りに人的にして神格を有すること、乏しく、普通人間の兄弟分の如き感じを與へて、尊嚴と云ふ要素が極めて乏しいのである。

二つには、印度社會組織と耶蘇教との扞格である。印度社會は極めて階級的で

埃及及印度

耶蘇教

耶蘇教不振の原因
一に教義

教理の不合理

耶蘇の神格の下劣

二に社會組織との扞格

複雑である。然るに耶蘇教は、斯かる階級的複雑を一切打破し去らむとし、甚だしきは親族、朋友をも打破し、郷黨をも打破し、一切の印度社會組織を根柢より崩壊せむとするものである。加之、一たび耶蘇教の門に入れば、獨り斯の如く數千年來の慣習傳承を有せる、内國人との一切の關係を打破し去るのみならず、更に進んで異人を同胞とせねばならぬ。斯の如きは實に印度人の思想に取つては、殆ど容るべからざるの大苦痛である。耶蘇教の門に入る者は、又日常生活に於いて大なる變易を爲す。生活狀態、衣食住より、吉凶慶弔、贈答應對に至るまで、所謂社交の調子に於いて、非常なる變遷を來たさねばならぬ。是れ亦極めて保守的なる印度人の堪ふる所でない。而して其最も重大なる扞格は、耶蘇教が全然親權を滅絶する點に在る。我邦人の耶蘇教關係者も容易に想像し、中には經驗しつゝあるが如く、この點は實に非常なる苦痛であり、耶蘇教の擴布に取つては非常なる拙策且矛盾である。凡そ是等の點に對して、如何に多くの衝突現象を、耶蘇教が其宣傳せむとする社會從來の思想及び事物に對して、經驗せるかは不幸にして、我邦人も亦手近く目撃せる所である。是に依て印度に於ける耶蘇教の不成功は、之を幾分想像すること極

生活狀態
の變易

親權の滅
絶

三に布教
方法の不適
當
宣教師

めて容易である。

三つには、耶蘇教の布教方法が甚だ不適當なる點に存する。先づ以て宣教師は甚だ其人を得ない、如何にも宣教師は、それ／＼宗教上の熱心及び宗教宣傳に對する必要の智識準備に缺くる所無いには相違ないが、唯、一つ、彼等の經驗が頗る缺乏して居る。印度の宗教者は、其信徒の死に瀕する時に必ず之に接吻を與ふるの義務がある。故に死に垂んとする癩病者も、亦貴き宗教者の一接吻を受け、是に依て安心して大往生を遂ぐる次第であるのに、不幸にして歐洲來の氣位高き耶蘇教の宣傳者は、此地上の汚穢に、同化するの勇氣に、缺乏して居る。加之、彼等は常に望郷の念に堪へずして、一定の年限、其宣教の任期を了ふるに當つては、若干の功績の光を荷うて、錦衣郷に歸らむことをのみ考へて居る。併し斯かる宣教師も、若しも其數に於いて、だに十二分であるならば、亦其功績の著しきものあるを疑はぬが、其數に於ける不足が實に印度に於ける耶蘇教不振の一大原因となつて居る。今印度に於いて稍適當なる活動振りを續けて行かうといふ爲には、少くも宣教師、五千人を必要とする。然るに實數は僅に七百人に過ぎぬ。蓋し宣教師一人の費用は、少く

四に征服者の宗教

も一ヶ年五百磅を要する、之が此數を制限する原因の一つで、亦其布教の上に少からざる障礙となりつゝある事實である。

四に耶蘇教が征服者の宗教たること、が幾分耶蘇教の宣傳に、不利益なるは争ふべからざる事實である。教理に至りては、印度人には幾分解し難い點があるが、併し耶蘇教の教理其物は、敢て特に難解と云ふべきでないから、是は見方に依て、長短得失區々なるものと云はねばならぬ。

效果

斯の如き理由に於いて、耶蘇教は數量上の擴布に於いては多少の成功を爲しつゝあるが、深さの上の宣傳は、殆ど言ふに足らざるものであるのである。

印度教

眞髓難知

印度の宗教に就いて第三に瞥見すべきは、印度在來の宗教、即ち印度教である。

印度教に就いて、其眞髓を知ることとは門外漢の甚だ困難する所である。佛教の如きも、既に六七千卷の藏經に於いて僅に其大體を現すと云ふが如く、印度教は殆ど出づるに随つて新たなる一派を成すの状態で、教理の組織に於いても極めて複雑で、理窟張つて居るが上に、又其教理の種類が、實に千趣萬様になりつゝある。蓋し理窟はどうにも捏ねらるゝもので、人若し印度教とは何ぞや、一言にして之を解

矛盾多々

因襲的循行

せよと問ふ者あらば、是れ恰も西洋哲學とは何ぞや、一言にして之を解せよと云ふが不可行の注文であると同様である。併し斯の如く言論の末に、趁り理窟の上、に走つて居るのは、所謂持つたが病で、西洋人の哲學に於ける、印度人の印度教に於ける、乃至佛敎と雖も往々亦其弊があるのである。今日の宗敎學、宗敎研究も、亦將に極端に其弊に陥らむとしつゝある次第であるが、斯の如きは宗敎としては益、其効力を失墜する所以となるので、随つて印度教が、印度に於ける劃一的中心、統一的宗敎を形造ることは、甚だ困難であるのである。

斯の如き次第であるから、印度教には頗る矛盾が多い。例へば或階級には多妻を許し、他の階級には全く之を禁ずるの類が屢見ゆる、併し印度教の存立は、總べて是等の矛盾、總べて是等の複雑、總べて是等の繁雜にも拘らず、尙其存立を遂げ行くのは全く因襲的循行の爲である。乃ち印度教の印度社會に於ける存立の理由は、全然消極的にして、積極的に存立せねばならぬ、發達せねばならぬと云ふべき、必然の理も勢も共に無いのである。印度教の印度に存立するは、他の宗敎の勢力無き間の事のみ、若しも交遙が發達し、他の民族、人種、他の文明が盛に、印度の社會、印度民

埃及及印度

四七

族と觸接を爲すに至らば、徐々に印度教は、春の雪の如く融け去るべき運命を有するものである。

八 趣味及生活

印度の生活の實際を知らむとするものは、常に其宗教を觀るを以て満足すべからず。

極端なる節約

印度人は實に節約なる生活を爲しつゝある、實に極端なる儉約生活を爲しつゝある。印度人の食事は朝夕二食、往々にして僅に一食である、而して其食料としては、稗少量の米、少量の牛乳及び自作の野菜、それに少量の乾酪を食するのみ。印度人の食卓に上る品は、鹽を除くの外、一切の課税品は消費せぬ。彼等は其慣習上宗教的恬淡に甘んじ、決して満腹を食することをせぬ。而して彼等の衣服としては殆ど無い。針を使用し又糸を使用することは、宗教上の作法に反するものとなつて居る。其住所は、屋内に一室と、屋外に土間及び一二の室とあるのみ、且之を建築する

安息及貯蓄

も之を修繕するも、悉皆己れの力を以てする、宛然たる松下村塾式である。斯かる極端なる節約生活を爲す者は、其収入も亦甚だ少い、即ち夫婦共稼ぎて、収入は一週間僅に一圓を寧ろ高き方とする。

印度人の生活に於いて最も希望となりつゝあるは、安息と貯蓄とである。彼等は生活を節約にし、恬淡にし、而して安息を欲することが、先に立つ、之と同時に、彼等は貯蓄に於いては頗る努むる所がある。併し其貯蓄の目的物は、殆ど常に寶玉並に裝飾品である。乃ち印度人の貯蓄は、必ずしも社會の富の増進となるが如き性質のものではない。

趣味

印度人の趣味は由來甚だちみである。彼等が尊重する所の寶玉は、人工の彫琢を施して燦爛眼を眩する物に非ずして、寧ろ天然其儘の奥底に潤澤のあるが如き物を尊重する。色は極めてくすみたる、ぢみなるを愛し、耳に聴く物も、餘り轟しき陽氣なる物を愛せぬ。凡そ是等の趣味に於いては、實に歐人殊に露西亞人等に優ること萬々である。

其品性上の効果

さて斯の如き趣味、斯の如き生活の品性上の結果は如何であるか。以上述べた

飢饉

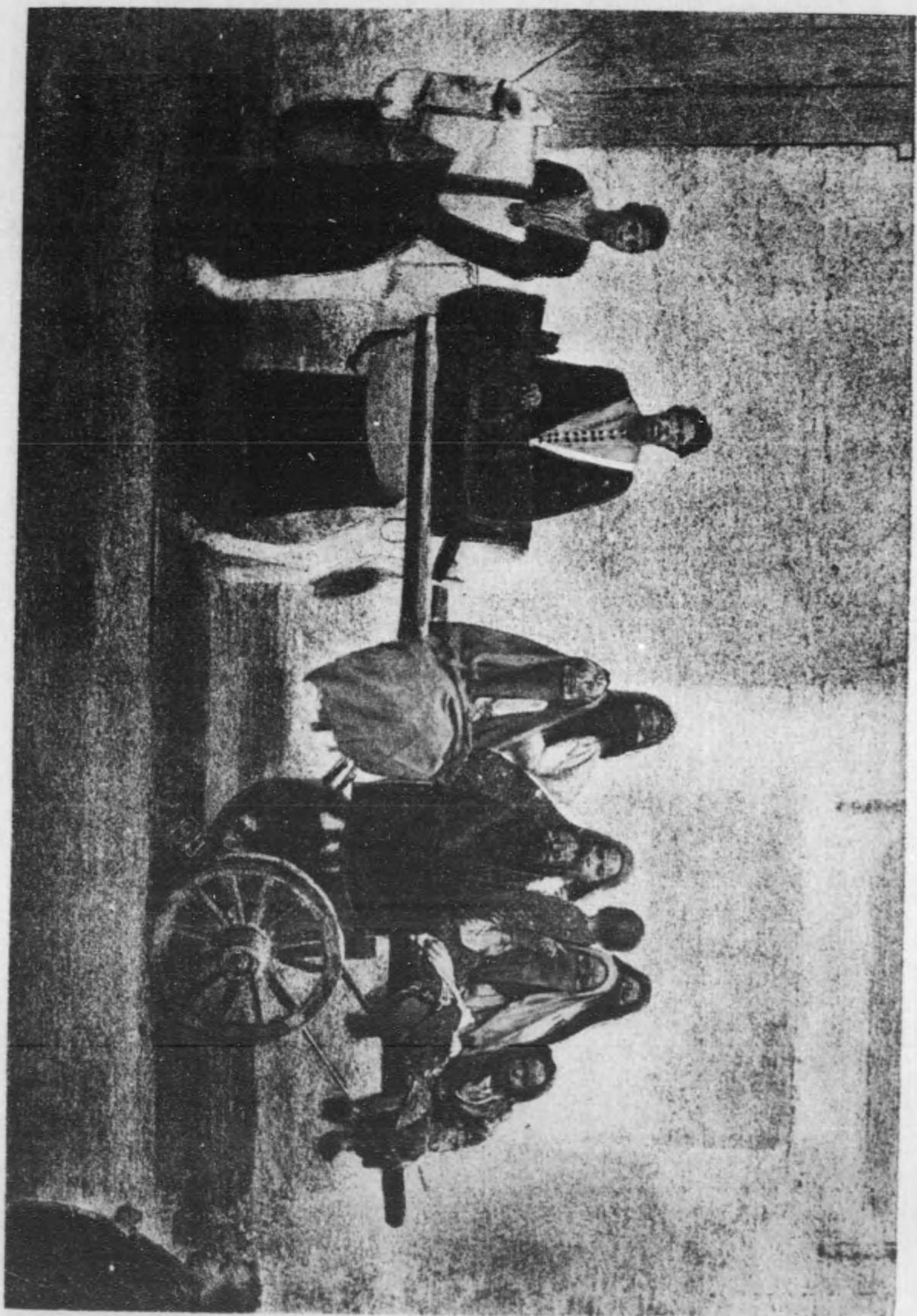
るが如き趣味及び生活に於いて、品性は向上することがあるかと云ふに、是は全く無い。印度人は宗教乃至家族的虚榮には、全然浪費を厭はず。印度人は租税の不法徴收若くは債主の非道を行ふに對し、侃然としてこれに抵抗するの勇氣は無い。故に是等の事が得たり賢しと印度の經濟状態を不安固ならしむべく行はれつゝある。且印度人の貯蓄は、毫も國富の増進とならぬ。

右の結果、印度人には貯蓄慾なく、經濟發達せず、且其極端なる節約生活と多妻主義とよりして、人口は相應に増殖するが、之に臨むに英國行政の不備、不行届を以てする所から、茲に印度の一つの名物たる飢饉と云ふものが、昔年にして屢襲ひ來る次第である。

九 印度社會の缺陷

非文明的
勢力の侵
蝕に任ず

印度社會は斯の如くにして罅隙缺陷を有し、而して此罅隙此缺陷より非文明的勢力が滔々として流れ入る。



埃及國。
風俗一斑。
アラビヤ種(主なる土人)婦人、
及其乗用馬車。

宗教の絶
對自由

印度社會の罅隙、第一は、宗教の絶對自由である。宗教絶對自由なるを以て、個人が奉行する信條儀式には、其何たるに拘らず社會は之に干渉することが出来ぬ。宗教的行爲の一切に對し社會は公安公益の上よりも何等の干渉を試みぬ。故に、宗教的行爲は社會の外に超然として立つて居る。今日我國で、一派の文藝者一派の思想家等の理想とするが如き超世的關係は、印度社會と其宗教との關係に於いて實現されて居るのである。併しながら斯の如きは、實に社會に取つて甚しき罅隙、第一と云はねばならぬ。

統治者の
絶對權力

二つには、統治者の絶對權力である。統治者の意思一つで、公安公益は破られ、商業の弛廢も忽ちにして惹起さる。是れ亦印度社會を甚だしく不安固ならしむるもので、洵に大なる罅隙と云はねばならぬ。

道德觀念
の偏倚

三つには、道德觀念の偏倚である。印度人の道德觀念は、消極的禁止的にして、積極的でない。例へば茲に村有財産がある之に對して之を犯す者は一人も無い、即ち消極的禁止的方面には、道德觀念は中々發達して居るが、併し積極的なる道德觀念の缺乏は、彼等が脱税を何等の惡事と思はぬにも明かに見らる。己れは人の

物を掠めることはせずとも、人が泥棒に遭ふの危険あることを忠告することは敢てせぬ。自ら進んで人の顔に泥を塗ることはせずとも、人の面上の泥を拭うてやることはせぬ。之を大にして言へば、印度人の道德は極端の個人的にして、誰一人全社會の滔々たる頽勢を挽回し矯正せむとするが如き慷慨義烈なる道德上の勇士、戦士は無いのである。

十 印度の前途

一、英國の印度保有如何

英國の印度保有は、抑、將來如何になるべきであらうか、我輩は如上社會の觀察を了りて、今や聊か此問題に對することが出来やう。

英の實力

今英國の印度に於ける實力を見るに、武人の數六萬五千、文官一萬五千、而して就中印度大守は五年にして去り、評定官は五年にして去り、軍司令官は五年にして去り、行政官は三十年間十郡を歴任して去る。斯の如きは、印度に於ける英國官吏の根柢を固めて、充分に印度に於ける勢力を植ゑ付ける所以として、は、少しく不利益

カルゾン卿

なるものである。

印度の舊幕時代

千九百四年六月二十一日印度大守カルゾン卿は倫敦市にて行政整理に關する演説を爲し、行政は宜しく功率を重んぜざるべからざること論じた。言論のみならず、實行上にも、行政上には流石に經驗あり、思慮ある英國の行政官の事とて、卿の施政は印度に於いて餘り多くの非難は無い。唯、斯の如き實力を以て、英國が此印度の大帝國を保有することは、尙幾多攻究の餘地あるものと云はねばならぬ。抑、英人以前の印度社會、所謂印度の舊幕時代を回想すれば、其社會狀態は、恰も今日より我舊幕時代の、仇討行はれ、町奴威張り、參勤交代あり、火事は江戸の花と云つた時代を回看すると同様否、それにも増して、實に、壯絶、快絶、祭禮を見るが如く、芝居を見るが如くであつたことは、想像に難からぬのである。總べて印度人の生活は劇詩的であり、印度社會の實際は、悲劇、喜劇、及び驚心駭魄的活動に充ちて居つたのである。之を我が舊幕時代に較ぶれば、唯、道德性の缺乏が著しき違ひとしてあつただけで、大體に於いて社會の壯絶、快絶なる狀態は、稍、似たものであつたのである。而して印度人は、此社會狀態を戀ふることに甚だ切にして、上下一般を通じて復古思

想が行はるる。

此強烈なる復古思想に對し、若しも革命一揆に一點の火を點ずるあらば、其結果は由々しき大事に至らずば休むまい。唯、斯の如きが果して行はれ得るや否や、假令行はるゝとしても、其精力が半年と續くかどうかは疑問である。印度人の民族性、就中其趣味及び生活より察すれば、眞に此點が疑問である。

且、英人は實に高尚なる思想を有して居る。印度人が熱心に官位を望むことあらば——否、現に望みつゝある——之に對し、是れ亦如何にも合理的なりと認めて、無理に之を禁遏するが如きは、高尚なる思想を有する英人の爲し切らぬ所であらう。英人の所謂識者の中に、印度は其故主の手に還るべしとの胸の裡の囁きは、頗る既に聞えつゝある。若しも一旦印度人に許すに官位を以てせば、次には武人となる、兵役に服するの權を印度人は要求し來るであらう。斯の如くにして、印度人の復古思想に對する、革命一揆は假令繼續的性質、耐久的性質を有せずとするも、英人と印度との關係に於いて、印度の現狀が變化することは、或は無いとも限らぬ。印度の將來に對して考へねばならぬ事は、之を外にしては先づ以て露西亞の勢

革命の點
火如何

英人思想
の高尚

二、露西
亞の勢力

力である。印度社會に於いて、西北より恐るべき外敵の侵入は、殆ど傳説的となつて居る。阿富汗は從來英國と露西亞との緩衝地帯であつたが、凡そ緩衝地帯の効力は、其受くる所の壓力に依るものにして、決して、絶對的なるものではない。露國の西部西北利亞經營益、進み、中央亞細亞の經營益、進み、既にアンデジアンに鐵道を敷き、クシキンスキイポストに鐵道を敷ける今日、阿富汗の緩衝地帯としての効力は、岌岌乎として危いものと云はねばならぬ。而して露西亞の勢力は、乃ち外より印度將來の運命に影響する一大動力となりつゝある。

次に印度の前途を卜するに見通すべからざるは、獨逸の勢力である。獨逸が鐵道政策を以て巴爾幹半島を貫き、亞細亞土耳其を縦貫して其勢力を波斯灣に突出するの計畫を立てたる、是れ獨逸の印度に對する一種の勢力の一つである。獨逸が支那の東岸の一點、膠州青島を經營し、山東鐵道を經營せる、亦既に一種の勢力の二つである。故に若しも此兩地點を結付くべき、亞細亞の西邊より中央亞細亞を横斷して、東山東膠州に至る大鐵道を敷設するの計畫を立てるならば、獨逸の亞細亞に於ける勢力は、互寒凜烈なる西北利亞橫斷鐵道を敷設せる露西亞にも比べ

三、獨逸
の勢力

其一

其二

獨逸政治
家の勝略
如何

埃及及印度

世界列國の大勢
て極めて重要な絶大の勢力となると云はねばならぬ。西比利亞鐵道が支那を壓するに比べて、此亞細亞の中央横斷鐵道が印度を壓することは、更に著大なるものと云はねばならぬ。

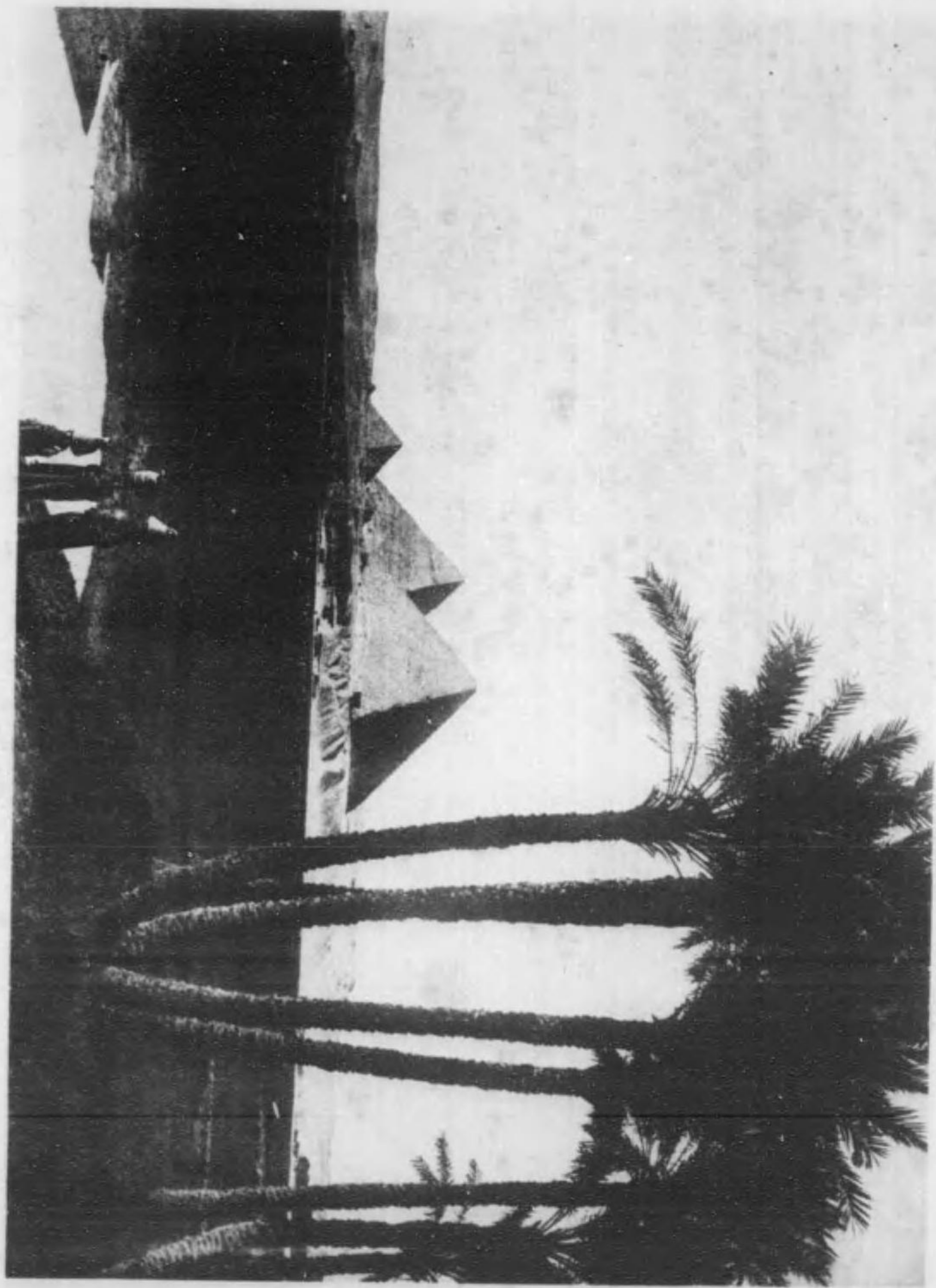
印度の前途に對する最後の考察點は日本である。日本は晩近日露戰役に於ける戰捷者となり、而して或は露西亞に、或は土耳其に、或は支那に、或は波斯に各種の影響を及ぼし、輓近に於いて殊に支那革命をも促すの遠い原因となつたことは、争ふべからざる事實である。斯の如きが印度民族及び印度社會に多少の刺戟を與ふべきは、亦是れ必然避くべからざるの狀態と云はねばならぬ。

總べて是等の衆因子を審にし、國內及び國外の四邊の形勢を審にして、然る後に斷ずるに非ざれば、一國社會の前途の如きは、之を勞髡することすらも容易なるものでない。

十一 總結

凡そ國際上の權力平均に依りては、英國の印度保有の現狀は繼續する方に向ふ。印度人の宗教脱却の遅々たるに依りては、亦此現狀は繼續に向ふ。故に此二點の移り變りがあるならば、聊かなりとも皆現狀の移り變りを來たすべき所以となるのである。

埃及が英吉利の掌中に在る事は、相互的に印度の形勢を固定する方に與かるであらう。而して此事は獨逸勢力の勃興に依りて、埃及と印度との中斷を來たすの傾向を生じ、來り、獨逸の勢力が勃興に於いて、多少の成功を遂げむ時は、英吉利の力が是より衰く弱かるべき時となるのである。



三月二十九日。見埃及國文相及
 外相焉。文相亞利比亞族之出也。
 談及國勢。慷慨大息。多不能言。予
 亦回想條約改正以前我國之情
 勢。憶亞利比亞伯顯厥流竄之事迹。
 悚然感乎古今。仍得一律。
 山河落古王庭。今看衣冠新典型。
 唯有舟中講大學。還無崖下賦零丁。
 兩關先迎沛公帥。彭邑竟留亞父靈。
 碧甌開來興廢事。長歎松柏歲寒青。

埃及國。
ナイル河原よりピラミッドを望む。

ナイルの氾濫に頼る沃土は、唯この一帯地あるのみ。

第八 以太利の春光

一 土地

メッシナ

埃及の季節シイタの盡くる時、三月三十一日午後三時、アレキサンドリアを出帆し、三日にして、四月三日午前十時メッシナに寄港し、八時間の碇泊中を利用して、暫時昨年の大地震の跡を見物した。石造、寧ろ土にて造れる市街家屋の頹敗は洵に始末に了へぬものと見えて、市街の到る處、落ち散れる建築材料を以て塚山を築いて居る。寺院の如きも殆ど崩壊し去つて、亜鉛屋根のバラック式假普請に、僅に憫れなる祈禱を捧げて居る状態である。併し港に入る前に海上遠くより之を望めば、儼然として何の變りも無い、依然たる風光明媚なるメッシナ海峽の裝飾である。蓋し海岸に面せる重なる建築の、然も海岸に面せる部分の壁だけは、立派なる建築用材を以て

築かれてある所から、窓硝子は悉く落ち散りて、窓を口めざるも、其堂々たる前面だけは依然として存して居るのである。然るに此壁一重を内部に入ると、直ちに粗末なる粘土、粗鬆なる煉瓦を以て建築してある所から、見る影もなき大破に及んで居る。是に依て見ても、地震は必ずしも恐るべきに非ず、恐るべきは建築の粗雑に在ることを、建築家ならぬ素人觀察は熟と感じた。

ナポリに著す

我本國にては神武天皇祭の神聖なる一日を、此史上の舊地、此地中海の要港の、災厄敗零の落窶たる光景の裡に暮して、午後六時、習々たる春の夕風に船はメッシーナを出帆し、一夜を海上に明かし、明くれば四月四日午前七時、拙くが如きカブリアの島を左手に見、南チムブリアの山嶽を右手に望んで、船は漸くボンベイ、ヘラクラネウムの海岸に進み、ヴェスヴィアスの活火山を望みつゝ、午前十時、靜に以太利ナポリの港に錨を卸した。ナポリに居ること半日、此夕直ちに羅馬に入つた。

以太利の地位の變遷

以太利は地中海の中央に位せる頗る大なる半島國で、其地位の價値は地中海の地位の變遷に伴れて變遷し、地中海が往時少くとも西洋世界の中央であつた時には、以太利は實に世界の中央たる位置を占め、此に國せる羅馬が遂に當時の所謂世

地位

希臘と以太利

界を一統するに至つたのは、此地位の特別なる形勝に負ふこと甚だ大であつた。然るに其後海上權力の中樞が地中海より大西洋に移り、第七、八世紀に於いて大西洋全盛時代を現するに至つて、以太利の地位は最も悲境に陥つたが、第十九世紀更に蘇士運河が開けて、印度洋と大西洋とを結付ける樞要なる海路が必ず地中海を經由するに至るに及びて、以太利の地位は復た一たび一進展を遂げた。以太利は東アドリアチク海を隔て、埃太利及び希臘に近く、西北海を隔て、佛蘭西を望み、南はシシリイ島を中に挟んで、亞弗利加のトニスと極めて近き關係に在る。就中埃太利及び希臘との關係が最も緊密となつて居る。

半島にして頗る形勝の利を有して居るが、其土地は實に褊小である。亞細亞と接近する點に於いて、希臘は以太利よりも更に便利なる位置に在るが、如何にも其土地の極めて小なる所から、其文明の規模は實に褊小を免れず、随つて政治の内容實質に於ける發達は、言ふまでもなく、頗る精妙なる造詣を遂げ得るけれども、政治の規模、政治の權力の偉大を致すに於いては、到底早熟随つて早老の弊を免れぬ。

以太利の春光

れば希臘は紀元前第四世紀の終りより既に自立自存に堪へざるの端緒を現じ來り、北方希臘よりも稍廣大なる地域に崛起せるマセドンの旗風の下に靡くに至り、遂にマセドンの力に供するに希臘の智慧を以てし、此合成の勢力を以て一たびは東の方、亞細亞の一部を席捲するに至つた。然るに以太利には此弊は全く無かつたのである、以太利は半島國でありながら、相當の地域を有し、而して北方アルプス山脈に依て劃られて居る所から、自ら儼然たる一廓を成し、其國防上に於いても、亦希臘が北方の強敵に壓迫せらるゝが如き弊は、餘り多く無かつたのである。希臘が海を隔て、東亞細亞の波斯を敵とし、之が壓迫を被つて、殆ど浮沈存亡の危機に瀕したのに引換へて、以太利の強敵は寧ろ南方、亞非利加のカルタゴに在つたのである。併しながら由來古今東西の歴史が明證する如く、北方を以て南方に臨むは、北半球に於いては、業に既に幾分地位の優尙がある。之に加ふるに制度、民族性、等種々の關係に於いて、カルタゴは一時古代の以太利、即ち羅馬を超えて優尙なる發達を遂げたとは云へ、永久には羅馬の敵に非ずして、以太利が遂に當時の世界を一統するに至つた。斯の如き關係は、近世に於いて餘り多く擧げて稱するに足らず

兩國の今

新王國の舞臺

地相

北以太利

と雖も、希臘が空しく小規模なる文明、小規模なる政治の發達、便とせし古代の名残り、留めて、今復た偏小なる微弱なる一獨立國の舞臺となり、あるに對し、羅馬は之とは趣を異にし、極めて不利益なる十數世紀の忍耐を経つゝ、今復た新進勃興の相當偉大なる新王國の舞臺となり、ある。

以太利の地相は、亦甚だ面白く出來て居る。其中央にアペンニン山脈あり、狹長なる以太利全半島は南中北の三部に分るゝ。アルプスの高嶺の雪の融けて流るる末が先づ山間の溪谷に停まり、アルプス以來の松柏科植物の萬古其綠を改めざると相照映して、ルガアノ、コモ等の極めて清麗明媚なる湖畔の佳景を成し、更に流れ流れて其集まれるものがポオ川となり、西より東に流れてアドリアチック海に注ぐ、此ポオ川の流域が即ち北部、以太利で、其土地は肥沃、其地質は多く花崗岩より成る極めて清淨なる土地の一區劃を成して居る。此處に榮ゆる所の都會は、西北にトリノあり、西南地中海岸にジェノヴァあり、中央にミラノあり、其他歴史上有名なるヴェロナ、マントヴァ等幾多の舊市を有し、而して其東アドリアチック海に臨める所には、最も忘るべからざるヴェネチアがある。中部、以太利は、フイレンツ、即ちフロレンスを

中以太利